

2012 亜細亞大学 テニス部

チームガイド

TEAM GUIDE

&

国際大会開催報告

REPORT



武蔵野キャンパス 紹介

ここで勉強します!

最寄り駅はJR中央線の武蔵境駅です。基本的に授業は武蔵野キャンパスで行なわれます。学生に必要な設備はすべて整っており、勉強に関して困ることはありません。テニス部の場合、平日はここで授業を受けて、終了後、日の出キャンパスに移動して練習します。



3号館



1号館



2号館



屋上庭園



太田耕造記念館(図書館)



展示雑誌コーナー



アクセス

- 武蔵境駅まで
 ・新宿駅から約20分、「東京駅」から約35分(JR中央線利用)
 ・「大宮駅」から約50分(JR中央線、埼京線利用)
 武蔵境駅からキャンパスまで
 ・北口から徒歩12分
 ・北口から小田急バス【境5丁目】、「団地上水端(団地入口経由)」で「亞細亞大学北」下車、徒歩1分
 ・北口からムーバスで「境5丁目」または「亞細亞大学南門」下車、徒歩0分
 ・西武新宿線「田無駅」北口から西武バス「武蔵境行」で「武蔵境駅」(終点)下車、徒歩12分

日 本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要なのが指導力です。選手が転戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要なのが環境の強化です。関東の大学では春関（関東学生）、夏闘、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分が今までつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまとい、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつかラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる=守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違ひありません。

私は亜細亞大学に奉職して25年になりますが、冒頭の理想には残念ながらまだまだ到達しません。それでも、これまで

理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれません。しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには
決して完成しません。
自らの可能性を信じて
未来に向かって挑戦する
本気の選手を歓迎します。

堀内 昌一

(亜細亞大学教授 / テニス部監督)



日の出キャンパス 紹介

ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武藏引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。



トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。

クラブハウス

2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティーがあります。ユーティリティーでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行ないます。

日の出 キャンパス 案内図



セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することもあります。施設内には広大間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。

※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)

アクセス

武藏引田駅まで

- ・「新宿駅」から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)
- ・「大宮駅」から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)
- ・武藏引田駅から日の出キャンパス「亜細亜大学セミナーハウス」まで
- ・武藏引田駅の改札口は北口1ヶ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

所在地

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1466 TEL042-597-0714



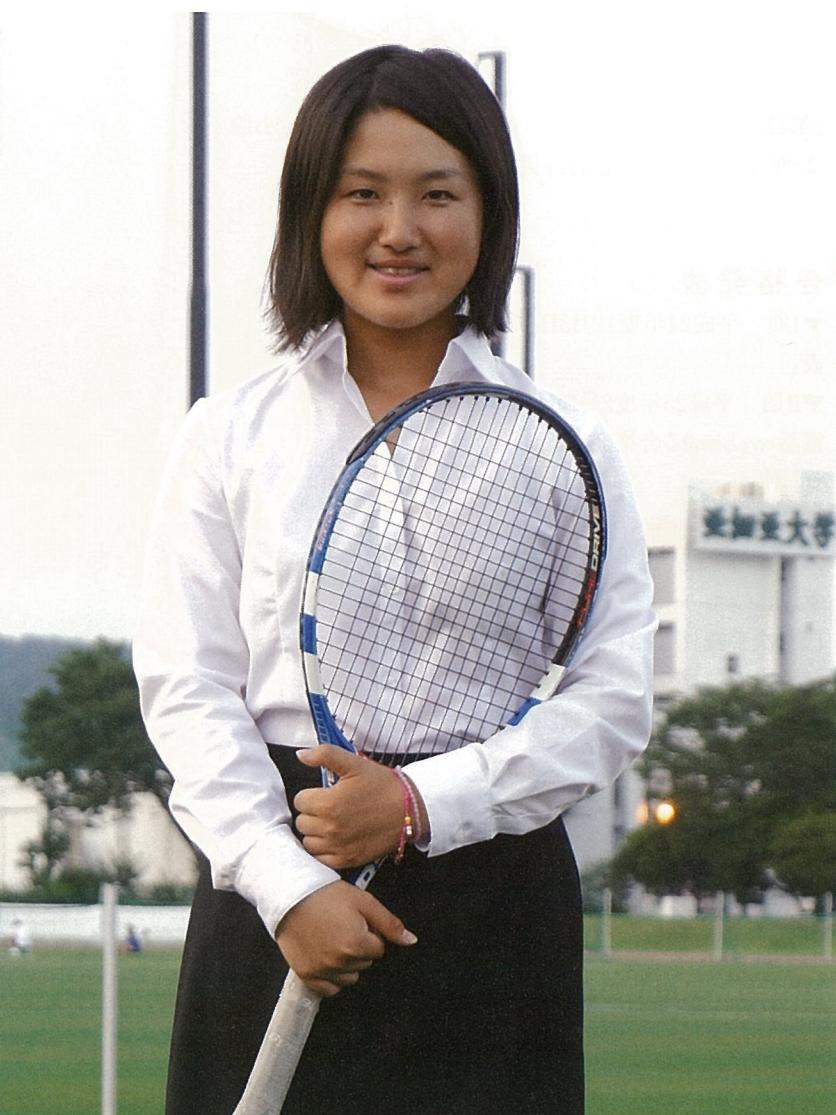
『出

会い』——私が好きな言葉です。そして、私が亜細亜大学に入学して、テニス部に入部して、本当に良かったと感じていることの一つでもあります。人との出会いは高校生の皆さんにとって、そして、これから歩んでいく道の中で何よりも代え難い財産の一つとなるでしょう。

私は人生の歩み方には2つのタイプがあると考えています。
 (1)目標をきちんと設定し、それに向かってコツコツ進むタイプ
 (2)とりあえずいまを生きるタイプ

私たちの部活には、目標を持ち、夢を抱き、それに向かって努力している人がたくさんいます。「自主練を欠かさない人」「誰よりも遅くまでトレーニングしている人」「部活を良くしたいといろいろな提案をしてくれる人」「テニスだけではなく、勉強も頑張っている人」……多くの部員がそれぞれの目標に向かってこれほど頑張っている部活は、私は他にないと思っています。

私はいつも彼ら、彼らからパワーをもらい、そのたび自分も頑張らなくては! と思うのです。私は前述した2つのタイプのうちの(2)の方で、「とりあえずいまを生きるタイプ」です。将来のことなんてわからない……でもテニスは続けたいし、大学生活の中で“これから”を見つけていきたい……そう思って、長い時間をふらふら過ごしてきました。



ただ部活に対しては、毎日必死に取り組んできました。周りにたくさんの頑張っている人たちがいるので、そなざるをえなかったのです。毎日必死に過ごし、でも、ふらふらしている私を4年間、導いてくれたのは、『熱い』『厚い』監督、コーチ、スタッフ陣でした。テニスが大好きで、部活が大好きなその人たちが、いつも本気で私たちに向かい、サポートをしてくださいました。テニスに関するあらゆる情報、戦略、戦術から技術に至るまでのアドバイスから、社会の常識、考え方まで、卒業して社会人となるために必要なことを徹底的に教えてくださいました。私は、ただただついといっただけでしたが、そのおかげでいまがあります。

私は思います。人生というのは『他力本願』(※解説)なのだと。テニスの試合は確かに自力で戦いますが、人生は自分だけの力でなんとかなるものではないと思います。一流選手には才能があります。でも、彼らが真の一流となるまでには『環境』と『出会い』、この2つが欠かせないと思うのです。どんな人でも、周りの人に影響され、人に導かれ、人に認められてこそ一流となります。その中で一流が一流となる所以は、私は『選択する力』にあると思います。

いつ、どんな選択をするのか、それは大きな分かれ道に立ったときほど重要となります。高校生のみなさんはいま、まさにその分かれ道に立たされていると思うのです。どうか焦

らず、じっくり考えてください。できれば各大学に足を運ばれることをおすすめします。それぞれの部活の雰囲気、練習内容、そして監督方の熱意を体感してください。その中で、もしも亜細亜大学を選んでくれるのであれば、みなさんにとって最高のパートナーがいることを私がお約束します。

**自分以外の大きな力が
自分を支えてくれる—
そういう部活を選んで
私は本当に良かったと
思っています。**

渡邊芽衣

(アジア女子ローンテニス部主将／4年)

(※注)他力本願とは:本来は仏教用語で、他人任せという意味ではない。『他力』とは目に見えない自分以外の何か大きな力が自分の生き方を支えているという考え方。『本願』とは本当の願い、今日の言葉でいえば約束ということ。つまり他力本願の働きによって強くたくましく生きていけることを指す。(futuremix 2003.2)

入学案内

スポーツ推薦のご案内 (平成25年度)

亞 細亞大学のスポーツ推薦は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」と「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4学部5学科があります。

テニス部は本年度、「経済学部」「法学部」「国際関係国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4つから選択することができます。

(平成24年度) テニス部には「経済学部」「法学部」「国際関係学部」のほか、「経営学部」「短期大学部」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ推薦入試だけではなく一般入試やAO入試、指定校推薦などで入部した学生もあります。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亞細亞大学が求める学生像 募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

出願資格

- (1)原則として、平成25年度3月に高等学校(中等教育学校卒業を含む)卒業見込みの者。ただし、高等学校に相当する課程を卒業見込みの者については、出願資格を審査の上、受験を認めることがある。
- (2)本学への入学を第1希望とする者。
- (3)調査書の全体の評定平均が2.7以上の者。
- (4)高校総体、国体などの全国規模の大会に出場した選手および将来性のある優秀な選手。

出願期間

- ▼I期 平成24年度10月30日(火)～11月6日(火)
- ▼II期 平成25年度1月4日(金)～1月11日(金)
※I期II期ともに郵便出願(締切日消印有効)

試験日

- ▼I期 平成24年度11月25日(日)
- ▼II期 平成25年度2月7日(木)

試験会場

本学(武蔵野キャンパス/P2参照)

選抜方法

[第1次]実技・面接、[第2次](第1次合格者を対象に)小論文・面接・書類審査の総合評価により判断する。

合格発表

- ▼I期 平成24年度12月3日(月) 電話・webによる合格発表。
- ▼II期 平成25年度2月14日(木)
電話・webによる合格発表。

入学手続き期間

- ▼I期
- [第1次手続]平成24年12月5日(水)～12月14日(金)
- [第2次手続]平成25年1月4日(金)～1月25日(金)
- ▼II期 [一括手続]平成25年2月15日(金)～2月21日(木)



亞細亞大学
亞細亞大学短期大学部

〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10
入試課直通 TEL0422-36-3273
<http://www.asia-u.ac.jp/> e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp

1

995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩瀬聰プロがあり、柳川高校時代から良きライバルでした。彼らはプロの道を選択し、私は大学進学の道を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか——亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指せるというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのバイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技／対人／ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては継続的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私がその道に進むことに周りは驚いて

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指せる環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える=大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外ヘトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手=「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——『考える』ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』はなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあつという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

**学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える!”ことでした。
いまは大学出身者がグランドスラムに出場する—
その夢をもって指導しています。**

宮地弘太郎

(関西国際大学専任講師／テニス部監督)

みやち・こうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学に入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学院を経て、07年4月から現職。ユニアード男子監督。S級エリートコーチ



テ

ニスを始めたのは小学校3年生のとき。当時から僕の将来の夢は『プロテニスプレーヤーになって活躍すること』でした。練習が終わって帰宅すると、テレビでグランドスラムの試合を見るというのが僕の日課。画面の向こうにある大きな舞台に立ち、勝ちたい——そう願っていました。いま、その夢が叶いつつあります。

僕は日本の高校（長尾谷高）でトレーニングを積んだプロテニスプレーヤーです。高校時代は、本当は海外遠征をしてITF大会などに出場したかったのですが、それは環境的に難しく、インターハイ、全国選抜を目標に国内で活動しました。

どうすればその中で強くなれるかを考えて行動してきました。考えてたどりついた方法は——『ひとりでも多くの選手と試合をし、経験を積むこと。さまざまなプレースタイルの選手と対戦して多くを学ぶこと』——でした。

そこで高校の大会のほかに、一般トーナメントに出場したり、フューチャーズ（国際大会）の予選出場を目指したのです。フューチャーズは、世界ランキング、国内ランキングの高い順に出場権が与えられるため、僕は出場できるかどうかがわかりませんでしたが、それでも会場に行き、サイン（申し込み）をし、チャンスをつかもうと行動しました。

ひとりでしたから、大会へ行っては練習相手を探し、試合をして、また練習相手を探し、一日中、大会会場にいました。

日々その繰り返しです。そのような生活は、プロの生活と近く、プロ転向したときに役立ちました。スムーズにプロ活動に入れたことは、重要な意味があったと思います。

僕を成長させてくれた大会のひとつが『亞細亞大学国際オープン』でした。僕がプロになった18歳の年にできた大会です。第1回大会に出場した僕は、世界ランキング991位で予選に出場。勝ち上がって本戦出場を果たしましたが1回戦負けでした。翌年19歳のときに出場した第2回大会では、僕は465位で本戦出場ができ、その大会で優勝することができました。ステップアップさせてもらった大会です。

国内にフューチャーズがあることは、多くの日本選手にとってありがたいことです。“ホーム”的な環境を生かし、ポイントを取り、世界に出ていくチャンスがつかめます。フューチャーズで優勝できれば、次のステージであるチャレンジャーへと道はつながります。多くの若い選手たち、ジュニアたちに、その機会を生かし、チャレンジしてほしいです。

いま僕は、グランドスラムの舞台にたどりつきました。少しずつ夢に近づいていて、もっと活躍したいとさらに欲が出てきました。楽をして上になどいきません。だから、より強い相手を倒すことを考えなければなりません。そのために必要なことは何か、ジュニア時代と同じように日々考えて行動しています。そうすることによって、また夢に近づいていくと思うのです。

亞細亞大学テニス部の学生のみなさん、大会をつくり、開催してくれ、多くの高校生や大学生たちに夢を与えてくれて本当にうれしいです。僕は自分の夢を叶えるために、これからもさらに上を目指します。次の目標はトップ20です！

(2012年6月下旬インタビュー)

僕はいまグランドスラムの舞台にたどり着いた。
多くの高校生、大学生に、
フューチャーズに
チャレンジしてほしい。

伊藤竜馬

(北日本物産／2007年亞細亞大学国際オープンテニス優勝)

いとう・たつま◎1988年5月18日生まれ、24歳。三重県いなべ市出身。北勢中学、長尾谷高校卒。06年ジャパンオープンジュニア優勝、インターハイ、全日本ジュニア準優勝。同年12月プロ転向。07年フューチャーズ初優勝。08年同大会4勝。10-12年チャレンジャー6勝、11年全米初出場1回戦、12年全豪初勝利2回戦、全仏1回戦、全英1回戦。09-12年デ杯日本代表、12年ロンドン・オリンピック日本代表。ATP最高位65位(2012年6月25日付)



CONTENTS

大学紹介

02 武蔵野キャンパス 04 日の出キャンパス 06 入学案内(スポーツ推薦)

PART 1 部活動紹介

- 03 挨拶～堀内昌一(亞細亞大学教授 / テニス部監督)
12 テニス部主要Topics [年表] 14 過去(1988年～)の主な戦績
16 部活って、すばらしい!

亞細亞の部活

- 18 入学前から卒業までの流れ 22 我々は本物のテニスを追求する。
19 入学後 4年間の目標を考える。 心の追求 / 技の追求 / 体の追求
亞細亞のAプロジェクト 24 戦術の研究 / 情報・理論の収集・勉強
20 一年間の流れ 25 挨拶～森穎詞(亞細亞大学テニス部コーチ)

PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～渡邊芽衣(亞細亞大学4年 / 主将)
26 小川春男学長挨拶 宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶
30 指導スタッフ紹介 30 男女部員名簿
34 「部員からひと言」 高校生のみんなへ、いっしょにテニスしようよ!
36 文武両道～学生は部活と授業の両立を目指す。

学部紹介

- 38 法学部 江本壯之介(3年)の場合 41 短期大学部 井上裕貴(1年)の場合
39 経済学部 伊藤優花(3年)の場合 42 経営学部紹介
40 國際関係学部 山口福太郎(3年)の場合

- 42 大学に入って、こんなに変わりました! 高橋良平(4年) / 伊波佳苗(3年) / 山本翔子(3年) / 鍛代悟(2年) / 松本千広(1年)

PART 3 卒業後の進路

- 07 挨拶～宮地弘太郎(亞細亞大学テニス部OB)
46 2003年、亞細亞大学、メルボルンへ行く。
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」
文◎吉松忠弘 記事提供◎テニスマガジン
48 卒業生、それぞれの道 岡本聖子 / 宮崎優実 / 比嘉明人 / 佐藤博康 / 高田充 / 駒田政史 / 宮崎靖雄 / 白華英 / 森嶋修 / 中村聰利 / 新谷啓 / 山内俊哉 / 遠藤真理子 / 細谷亮太 / 平良和己 / 岡林陽子 / 三上英知 / 谷泰仁 / 津布久萌 / テニス部の主な就職先
58 就職ガイダンス

PART 4 国際大会報告

- 09 参加選手を代表して～伊藤竜馬プロ(北日本物産)
60 2012国際大会開催レポート
[男子] 亞細亞大学国際オープン [女子] 亞細亞大学国際女子オープン
男女予選、本戦結果
70 私たちはこうやって大会をつくりました
第1回亞細亞大学国際オープン2007 「国際大会開催までの全記録」
74 過去4大会(第1回～4回)国際大会結果
75.77 日の出に世界がやってきた。 文◎武田薰 記事提供◎テニスマガジン
79.81 亞細亞大学主催 チャリティクリニックのお知らせ / 参加者の声
83 2013国際大会告知

2012 亞細亞大学 テニス部

チームガイド
TEAM GUIDE

&

国際大会開催報告
REPORT

◎ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

STAFF

●Editorial supervisor

堀内昌一 Shouichi Horiuchi

森 穏詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief

渡邊芽衣(4年) Mei Watanabe

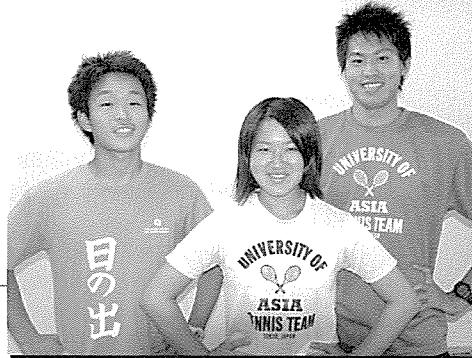
●Editor

山口福太郎(3年) Fukataro Yamaguchi

佐藤俊介(2年) Shunsuke Sato

●Design

泰司デザイン事務所 Taizi Design office



Editor's MEMO

●毎年つくるアジパンですが、50周年を迎えた今年は、まさに“50年分の思い”を詰め込んだものになりました。原稿を通して、亞細亞大学テニス部の歴史を振り上げてきた先輩方に出会い、こんな凄い人もいたのかと感動することも少なくなかったです。ご協力いただきたたくさんの方々への感謝の気持ちを込めて、チーム“アジパン”をお届けします。最初から最後まで読んでください!

(渡邊/写真中央)

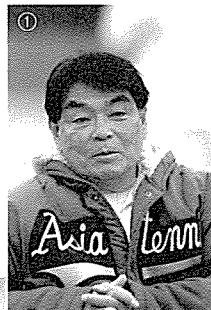
●ここまでくるのに随分時間がかかりました。当初は「例年通りでいいや」という考えでした。が、今年のアジパンはひと味もふた味も違うものとなりました。25年分の資料を一から探し、気づけば10時間が過ぎていたことや、写真集めに奔走、いつ終わるのだろうかと思いつながらひたすら没頭しました。試行錯誤しながら遂げた達成感はひとしおです。いろいろなものが詰まつたこのアジパン、最高です。

(山口/写真左)

●アジパンの作成に携わることは、非常に自分の力になりました。OB・OGと連絡をとり、プロフィールや原稿をいただく作業をする中で思ったことは、皆さん全国で活躍された方ばかりで、改めて亞細亞大学の素晴らしさを感じ、同時に“誇り”を忘れてはいけないと思いました。自分はテニスに対して、さらに真剣に取り組む必要があると思います。大学生活残り2年半、社会に通用する人間に成長したいです。

(佐藤/写真右)

亜細亜大学テニス部

過去25年間の
主要Topics

衛藤瀧吉学長



93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はビート・サンプラス姉

1987年(昭和62年)

- ・衛藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

1988年(昭和63年)

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格
- ・女子5部リーグ3回戦敗退

1989年(平成元年)

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格
- ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亞大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP／正規単位取得型の留学プログラム)開始。

1990年(平成2年)

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

1991年(平成3年)

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亞大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

1992年(平成4年)

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

1993年(平成5年)

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年～97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亜細亜大学が統合、亜細亜大学短期大学部開設。

93年、女子が大学王座初制覇



1994年(平成6年)

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで初のアベック優勝。
- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

1995年(平成7年)

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

1996年(平成8年)

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

1997年(平成9年)

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。
- ・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

1998年(平成10年)

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

1999年(平成11年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

2000年(平成12年)

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。





94年、男子が初の大学王座日本一

2001年(平成13年)

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)

2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
- ・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・プレットコーチの指導を仰ぐ。

2006年(平成18年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ『第1回亜細亜大学国際オープン』(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、『チャリティー・テニスクリック』を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森稔詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤瀧吉先生逝去。享年84才。



94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康／駒田政史



98年、インカレを制した岡本聖子

2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。

2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川(／瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ポルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川(／田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亜細亜大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。
- ・部室前に駐車場が完成。

2012年(平成24年)

- ・男子と並び、女子サーキット『第1回亜細亜大学国際女子オープン』(1万ドル)を開催。伊波がベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。

03年、10度目の関東リーグ優勝



亞細亞大学テニス部 過去(1988年~)の主な戦績

関東大学テニスリーグ&
全日本大学対抗テニス王座決定試合

年度	関東大学リーグ		大学王座		関東大学テニスリーグ 女子硬式庭球部歴代記録		
	男子	女子	男子	女子	年度	成績	インカレ人数
1988年(昭和63年)	6部昇格	5部			S63年度	6部昇格	
1989年(平成元年)	5部昇格	4部昇格			H元年度	5部昇格	1人
1990年(平成2年)	4部昇格	3部昇格			H2年度	4部昇格	2人
1991年(平成3年)	3部昇格	2部昇格			H3年度	3部昇格	11人
1992年(平成4年)	2部昇格	1部昇格			H4年度	2部昇格	8人
1993年(平成5年)	1部昇格	優勝			H5年度	1部昇格	8人
1994年(平成6年)	優勝	優勝	優勝		H6年度	優勝	4人
1995年(平成7年)	優勝	優勝	優勝		H7年度	優勝	10人
1996年(平成8年)	優勝	優勝	準優勝		H8年度	優勝	8人
1997年(平成9年)	優勝	優勝	準優勝		H9年度	優勝	6人
1998年(平成10年)	優勝	優勝	4位		H10年度	優勝	9人
1999年(平成11年)	準優勝	優勝	準優勝		H11年度	優勝	6人
2000年(平成12年)	優勝	優勝	準優勝		H12年度	優勝	5人
2001年(平成13年)	準優勝	4位	3位		H13年度	優勝	5人
2002年(平成14年)	3位	優勝	3位		H14年度	4位	4人
2003年(平成15年)	優勝	優勝	3位		H15年度	優勝	4人
2004年(平成16年)	5位	準優勝	4位		H16年度	優勝	8人
2005年(平成17年)	6位	準優勝	4位		H17年度	準優勝	11人
2006年(平成18年)	5位	準優勝	準優勝		H18年度	準優勝	7人
2007年(平成19年)	4位	3位			H19年度	3位	5人
2008年(平成20年)	4位	準優勝			H20年度	準優勝	7人
2009年(平成21年)	4位	2部降格			H21年度	2部降格	7人
2010年(平成22年)	5位	1部昇格			H22年度	1部昇格	6人
2011年(平成23年)	6位	準優勝			H23年度	準優勝	8人

全日本学生テニス選手権大会&全日本学生室内テニス選手権大会 出場人数

年度	インカレ			インカレ・インドア		
	男子出場人数	女子出場人数	男子出場人数	女子出場人数	男子	女子
S	D	S	D	S	D	
1989年(平成元年)	3人	2組	1人	3人	1組	1人
1990年(平成2年)	3人	2組	1人	1組	3人	2組
1991年(平成3年)	3人	4組	6人	4組	4人	4組
1992年(平成4年)	5人	4組	2人	4組	1人	1組
1993年(平成5年)	10人	5組	7人	3組	2人	2組
1994年(平成6年)	7人	5組	3人	2組	3人	1組
1995年(平成7年)	6人	3組	8人	3組	1人	1組
1996年(平成8年)	6人	2組	7人	3組	1人	1組
1997年(平成9年)	4人	3組	6人	1組	3人	1組
1998年(平成10年)	5人	2組	6人	4組	2人	2組
1999年(平成11年)	5人	4組	4人	2組	2人	1組
2000年(平成12年)	6人	4組	5人	3組	3人	1組
2001年(平成13年)	4人	1組	4人	2組	1人	1組
2002年(平成14年)	5人	3組	4人	2組	3人	2組
2003年(平成15年)	4人	2組	4人	2組	1人	1組
2004年(平成16年)	2人	4組	4人	4組	2人	2組
2005年(平成17年)	3人	2組	7人	5組	1人	2組
2006年(平成18年)	5人	2組	7人	3組	1人	2組
2007年(平成19年)	7人	1組	5人	3組	2人	2組
2008年(平成20年)	5人	3組	6人	2組	3人	1組
2009年(平成21年)	6人	3組	5人	2組	2人	1組
2010年(平成22年)	6人	4組	6人	3組	1組	3人
2011年(平成23年)	2人	1組	7人	4組	1組	2人

個人戦績

年度	出場選手	インカレ		インカレ・インドア	
		S	D	S	D
1989年 平成元年	男子	坂口雄二	準優勝	ベスト16	1R
		森 稔詠	ベスト8	ベスト4	ベスト4
		岡田岳二	ベスト16		ベスト8
		高田 充	ベスト4		ベスト4
		桜井和人	ベスト16		ベスト4
1990年 平成2年	女子	山崎史子	ベスト4	優勝	ベスト8
	男子	森 稔詠	優勝	ベスト4	ベスト8
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト8
		坂口雄二	ベスト8	優勝	ベスト8
		高田 充	準優勝	優勝	1R
		山崎史子	準優勝	優勝	1R
		三輪陽子	赤堀奈緒	ベスト8	準優勝
		石田恵子	優勝	準優勝	準優勝
		森 稔詠	準優勝	優勝	ベスト4
		伊東 新	ベスト16	優勝	ベスト4
		高田 充	ベスト16	優勝	ベスト4
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト4
		駒田政史	城間和人	ベスト4	優勝
		須藤陽史	ベスト4	優勝	ベスト4
		坂口雄二	ベスト16	優勝	ベスト4
		佐藤博康	赤堀奈緒	ベスト4	優勝
		吉田アリ	ベス	優勝	ベス
		三輪陽子	赤堀奈緒	ベス	優勝
		吉田アリ	ベス	優勝	ベス
1991年 平成3年度	男子	森 稔詠	優勝	準優勝	ベスト4
		伊東 新	準優勝	優勝	ベスト4
		高田 充	ベスト16	優勝	ベスト4
		岡田岳二	ベスト4	優勝	ベスト4
		駒田政史	城間和人	ベスト4	優勝
		須藤陽史	ベスト4	優勝	ベスト4
		坂口雄二	ベスト16	優勝	ベスト4
		佐藤博康	赤堀奈緒	ベスト4	優勝
		吉田アリ	ベス	優勝	ベス
		三輪陽子	赤堀奈緒	ベス	優勝
		吉田アリ	ベス	優勝	ベス
1992年 平成4年度	男子	石田恵子	準優勝	ベスト16	ベスト8
		伊東 新	準優勝	ベスト8	ベスト4
		宮地弘太郎	ベスト8	ベスト4	ベスト4
		佐藤博康	ベスト16	ベスト4	ベスト4
		駒田政史	ベスト32	ベスト4	ベスト4

年度	選手	馬越浩也		ベスト32		準優勝		準優勝		ベスト4	
		鈴木 潤	久田英登	佐藤博文	城間和人	須藤陽史	紀 有二	赤堀奈緒	石田恵子	浅見玲子	土方千代
1993年 平成5年度	女子										
		優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4
1994年 平成6年度	男子										
		優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4
1995年 平成7年度	男子										
		優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8
1996年 平成8年度	男子										
		優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8	優勝	ベス8
1997年 平成9年度	男子										
		優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4	準優勝	ベス4	優勝	ベス4



高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう

には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分ち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう！

文◎堀内昌一

すばらしく、 部活つて！

大学に勤めて25年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まっていますから、その成長ぶりにも驚かされてしまいます。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつけて、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなづくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”的証。それが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかつたでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”的のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならないのです。私が答えをあげることはできません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的



亞細亞の部活

入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年

大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日～27日)

練習内容

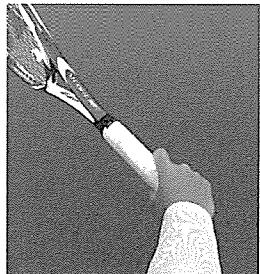
- ・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともにに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

- ・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。

- ・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

- ・部員が作成したカレンダーに基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。
- ・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。
- ・『テニス発見ノート』を作成。
- ・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



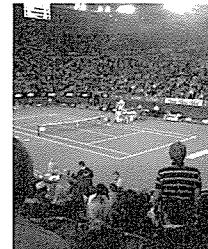
1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後～20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのゼンターコート

2月

- ・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12月年末合宿での宿題提出)。

- ・大学4年間でのテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

- ・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。
- ・これから的生活拠点、活動の準備をする。
- ・国際大会参加を想定し、ITFのI-pin(アイ・ピン)登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行う。

3月

- ・基礎練習から応用練習への移行期。

- ・体力強化を継続する。

- ・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーカラ審判のレクチャーなどを受ける学生

入学後

4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- ・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亜細亞大テニス部テーマ)の実行
- ・スポーツマンシップの獲得。人間的成長を目指す。
- ・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- ・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- ・亜細亞大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にする
- ・そして、卒業する！

大学

1 年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活においての自分のペースを確立すること。

大学

2 年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に对外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

3 年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4 年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

Aプロジェクト

亜細亞テニス部員が4年間かけて達成することを
“Aプロジェクト”と呼ぶ

- ・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1720位～1位／女子939位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目標に努力する。
- ・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
- ・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に磨きをかけていく。
- ・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

1年間の流れ

授業+練習(火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00) +試合

練習(火-日◎9:00-18:00)
+試合

4月

5月

6月

7月

8月

9月

授業・テスト



前期授業(15週間)

テスト

休暇

学生大会

春の関東学生

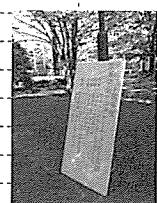
夏の関東学生 インカレ

関東リーグ

テニス

一般・国際大会

女子サーキット
\$25K+\$50K(4大会)



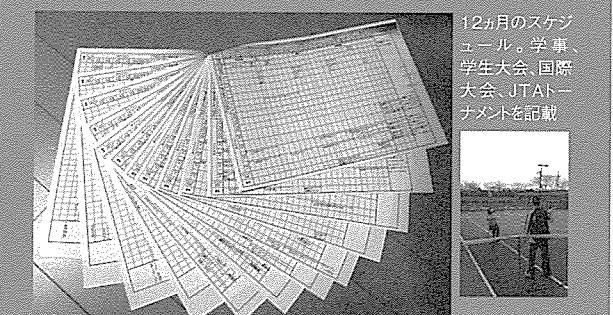
男子フェーチャーズ
F5~F7(3大会)

女子サーキット
\$10K(3大会)

年間スケジュール

- ・『国際大会チャリティークリニック』を年間20回を目標に開催
(※写真①)チャリティークリニックの風景
- ・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フェーチャーズ(\$1万) / 女子サーキット(\$1万)

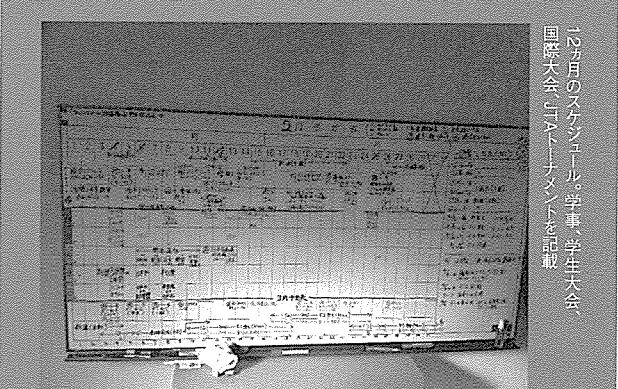
12ヶ月のスケジュール。学事、
学生大会、国際大会、JTAトーナメントを記載



月間スケジュール

- ・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
- ・クリニックや行事の確認
- ・試合、練習計画作成

12ヶ月のスケジュール。学事、学生大会、
国際大会、JTAトーナメントを記載





週間スケジュール

- 基本的に毎週月曜日がOFF
- 外部スクールへアシスタントコーチ派遣 / ①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- 毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- 土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

日常のオンコートスタッフ陣

- 堀内昌一監督 / 森稔詞コーチ(週6日)
- 岡本聖子プロ(週4日)
- 宮崎靖雄プロ(週2日)
- 赤堀奈緒プロ(週1日)

1日スケジュール

授業有り (練習時間 / 火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

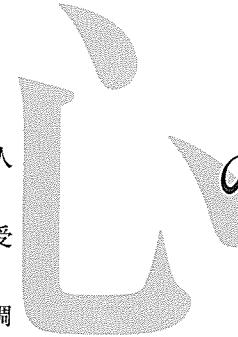
- 基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- 10面のテニスコートを使用する。
- オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- 3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- 400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
- トレーニングジムにてウェイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行う。
- 雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。

契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう

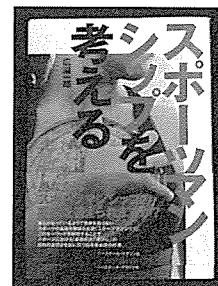


我々は本物のテニスを追求する。

- ・スポーツマンシップの獲得(グッドルーザー～潔く負けを認められる人になるためには…)
- ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実戦している。
- ・礼儀やモラルを大切にする(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
- ・PDCA(plan / do / check / action)の徹底。
- ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
- ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。



の追求



テキスト『スポーツマンシップを考える』

技 の追求

なぜ必要なのか?

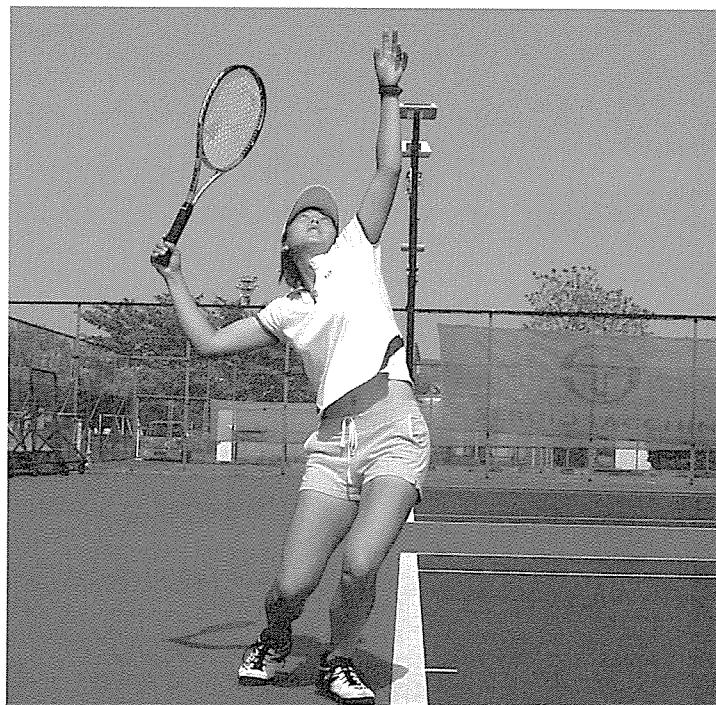
技術が間違っているなら、いままでを捨てて、正しい技術にこだわる。数ヵ月、数年かけて、できるまでやる

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」=時間をうまく使い、「場」=スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピンドリカバリーや戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなわち時間がない——限られた時間の中で、プレイヤーの選択は、<いかに時間を有効に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、<いかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくという<再現性の高い運動>をすることもある。それが、いま我々が目指している「技」である!



腕をスムースに振るための練習として、キャッチボールは基本



・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

・毎日のランニング(男子10km／女子8km)

・火曜日-金曜日(平日)は3時間のオンコート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。

・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オンコートフットワークドリル、メディシンボールでのプライオメトリックトレーニングなど。

・土・日・休日は6時間のオンコート練習となる。

……なぜ6時間もオンコート練習か……シングルス3セットマッチを2試合、ダブルス3セットマッチを1試合という、現行ルールでの最大ゲーム数を問題なくプレーするための準備。それに耐えられるだけの身体をつくることを目標にしている。常に「将来」に目を向けてトレーニングする。

目的意識を常に持ってランニング



すべてに共通、練習はできるまでやる！

どんなことが必要？

「再現性の高い運動」

「戦術に基づいた技術」

「時間をつくる」

・時間をつくるとミスが減る。時間をつくると相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくると場所が確保できる。

・我々は、時間を作るために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。

・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。

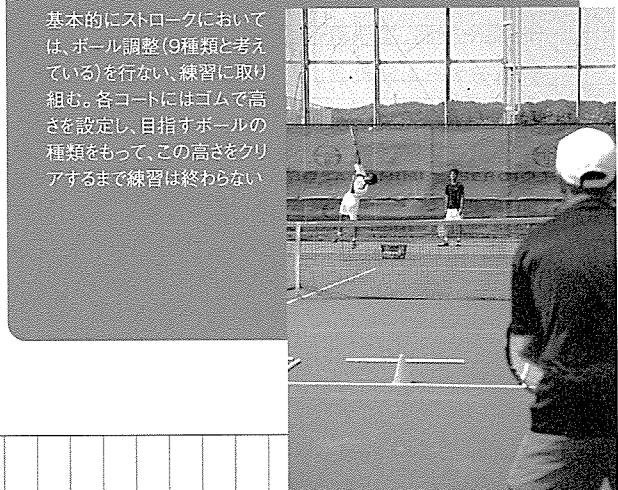
・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる～達成型の練習を行なう。

・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレイヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

もっとも追求している 技術のひとつが「サービス」

試合の中では全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクローズドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかるとも、亜細亜では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考えている)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、を目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンドル」などが考え方のベースとなる。

・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。

・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦（デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本）に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。

・主催する男女国際大会でのゲーム分析（サービス、リターンの確率／エース・ミスの調査比較など）。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。

・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。

・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。

・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。

・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実践に役立つように処理し修得する。



いつでも自由に観たり、読んだり、勉強することができる



部室のテレビで観戦し、ディスカッション

試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている比嘉明人プロ、宮崎優美プロ、佐藤博康プロ、井上貴博プロ、北崎悦子プロ、荒木史織プロ、長谷川梨紗プロ、木下ミサプロ、矢野洋プロなどが、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亞細亞の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

写真◎●●●●

今

から25年前、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衛藤藩吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人とも親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと日の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出場し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目にします。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。



大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているうまいかないことだらけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲ることに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるよう、そして人に感謝できるように、人のためになれるよう人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たち——グランドスラム出場経験を持つ岡本聖子、インカレ・チャンピオンの赤堀奈緒、インカレインドア・チャンピオンの宮崎靖雄、そして私——全員学生のオリンピックであるユニバーシアード日本代表経験者が、日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

**夢を簡単にあきらめないで。
「夢」を変えずに
「自分」を変えましょう!
亜細亜で「夢」を必死に
追い続けてみませんか。**

森 稔詞

(亜細亜大学テニス部コーチ)

挨拶

学長 小川春男

(亞細亞大学・亞細亞大学短期大学部)

**自らの可能性に
チャレンジしたい
高校生の皆さん、
ぜひ亞細亞大学
テニス部で夢を
追いかけてください。**

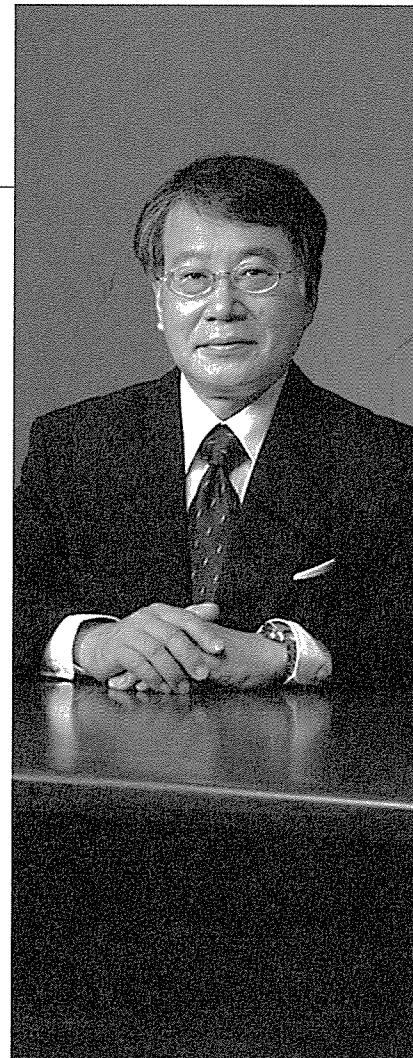
亞細亞大学テニス部は、2011年に創部50周年を迎え、新たな時代への一歩を踏み出しました。創部から50周年を迎えるまでの間には、いろいろな苦労や努力があったかと思いますが、諸先輩方のご支援とご協力のおかげで、日本屈指の強豪クラブに発展し、これまで数多くの輝かしい戦績を残すとともに、スター選手を輩出してまいりました。

2007年からは、国際テニス連盟、日本テニス協会公認の国際トーナメント（男子フェーチャーズ／2011年より女子サーフィットも開催）を本学日の出キャンパスで主催しており、国内外の強豪選手がハイレベルで白熱した試合を繰り広げています。この大会を主催するにあたっては、本学の使命や教育方針に沿った企画、

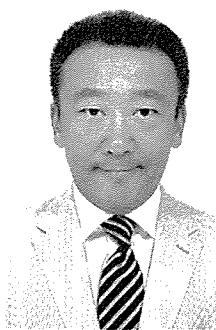
運営を重視しており、国際性と地域密着型を併せたイベントとして、テニス競技の普及振興に貢献していくと自負しています。

亞細亞大学の建学の精神は「自助協力」です。自分というものをまずしっかりと確立し、自分のことは自分でやり、その上で周囲や他と協力していこうというものです。テニス部も、こうした精神に基づき、テニス技能の向上のみならず、人間性の向上にも重点をおいており、堀内昌一監督をはじめとする優秀なスタッフ陣が、選手ひとりひとりの個性を尊重した指導を行なっています。

亞細亞大学は、学業やスポ



ーツ、ボランティアなど、さまざまな分野で活躍している学生をこれからも応援していくとともに、アジア、そして世界で活躍するグローバル人材の育成に、ますます力を入れていきます。テニス部におかれても、世界を視野に入れ、より高い目標を目指しながら、大学テニス界発展の一翼を担ってくれるものと確信しています。自らの可能性にチャレンジしたい高校生の皆さん、ぜひ亞細亞大学テニス部で夢を追いかけてください。



部長 宇田川 裕

(学術情報課長)

社会に有為な人材の輩出、
社会貢献に取り組み、
皆さんとともに
“世界に開かれた
テニスチーム”を目指します。

亜細亜大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他大学には実現できない画期的な教育システムをもって運営され、常に前進しています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは、人間全般を鍛えていくことが必要なのです。

また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”を目指します。



部長 金子国彦

(学務課長)

明るく、爽やかで、個性豊かな
バランスのとれた人間に
成長してほしい。
国際社会に貢献できる
人材育成が目標です。

亜細亜大学テニス部は、スポーツ振興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるように育成すべく、大学生活においてもいねいな指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。

同時に生活指導も行ない、人格形成においても、明るく、爽やかで、個性豊かなバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命であるアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄が良く、やる気のある者、自分の可能性を感じ、ぜひとも、亜細亜大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ員一同、歓迎いたします。

衛藤藩吉先生を偲んで

この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルド）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといふ出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中、衛藤先生の純粋な考え方には私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部ありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞごめんなさい。いつも見守っていてください。

「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中、衛藤先生の純粋な考え方には私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがな

かつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞごめんなさい。いつも見守っていてください。

「亜細亜大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルド）に遠征していたときにいただいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといふ出で立ちで私を迎え、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこで私も、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行っても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事もひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中、衛藤先生の純粋な考え方には私は惹かれ、亜細亜大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがな

亞細亞大学テニス部 指導スタッフ紹介

ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活を目指しています。



堀内昌一監督

(亞細亞大学教授／テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年2月1日、東京都生まれ。中央大学附属高校、日本体育大学、同大学院卒(修士課程修了／体育方法学)。87年より亞細亞大学テニス部監督に就任、現在に至る。日本テニス協会公認マスターコーチ。同協会強化本部学生強化委員会委員長。日体大在学中の2年間、アメリカへ留学し、79-81年フロリダのニック・ボロティー・テニスアカデミー、81-82年ニューメキシコ・ミリタリー・インスティチュート大学へ。帰国後の83年、関東学生単優勝、インカレ単ベス8、ユニバーシアード(カナダ)日本代表に選出された。84年大学を卒業。85-86年ジャパンオープン単出場。82-86年全日本単出場。JTA最高位単17位、複13位、ATP最高位単57位、複713位。87-89年ワールドユース日本代表チーム監督、オレンジボウル、ワインブルドンジュニア遠征監督、99年ユニバーシアード(スペイン)日本代表監督を歴任。

トレーニング担当



まつした・けいこ◎1983年生まれ。2004年3月に自由学園最高学部卒業。04年8月オハイオ州立マイアミ大学編入学(アスレティックトレーニング科専攻)。07年5月卒業。その後、NATA(全米アスレティックトレーナー協会)公認アスレティックトレーナーを取得し、08年4月にトレーナー・アローズ入社。現在は、亞細亞大学テニス部でトレーニング指導をしている。

松下恵子

週に一度、フィールドトレーニングを指導し、学生の体力向上を担当している。また、身体づくりに課題を抱える学生、ケガをしている学生には個々に対応。



あおき・ゆうこ◎1971年、神奈川県生まれ。東京学芸大学人間科学課程にてバイオメカニクストレーニング理論・運動处方等を学ぶ。卒業後は日産スポーツプラザ株式会社に入社し、インストラクターとして勤務。その後、資格取得のため退社し、帝京医学技術専門学校に入学、柔道整復師の資格を取得した。社会人アメリカンフットボールチームのトレーナーや高校バスケットボール部のトレーナーとして活動し、07年から亞細亞大学テニス部にトレーナーとして参加。

青木祐子

月に数回トレーニング全般を指導。試合時にはチームに帯同して、コンディショニングからマッサージまでを行なう。

メンタル担当



こうづま・よういち◎1955年5月10日、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中京大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)。93年州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在は東海大学体育学部教授。85-01年日本オリンピック委員会メンタルマネジメント研究班員。94年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタートし、所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。多くのトップアスリートからアマチュア選手まで指導。

高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、スチューデントトレーナーという役割をつけて、トレーニングが継続できるように努力している。

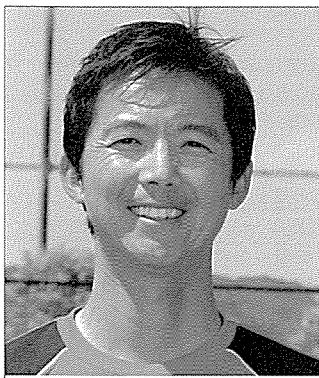


ひらいし・たかひさ◎1950年、鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学。鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。オリンピック選手をはじめ、テニス、野球、サッカー、ゴルフ、モータースポーツ、大相撲のトップアスリートや大学スポーツなどのアマチュア選手の健康管理、コンディショニングや技術指導を担当。

平石貴久

亞細亞大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行なったり、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行なうなどして、学生の体調を管理している。

テクニカルコーチ

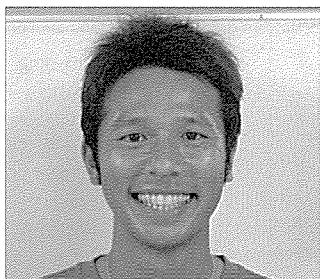


森 稔詞

(亜細亜大学学生生活課所属)

25年前の第1期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もりとしつぐ◎1969年12月22日、大阪府生まれ。清風高校卒。3年生のインターハイで団体・個人単複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。●年亞細亜大学へ入学し、3、4年次にインカレ単2連覇、アジア学生単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後、プロ転向し、プリンスホテルと契約。92年全日本複優勝、94年全日本室内単優勝。97年に引退。現在は、亜細亜大学で後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。JTA最高位単5位、複4位、ATP最高位単579位、複473位。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。



宮崎 靖雄

現役プロでありながら、大学院で研究活動。週2日男子部員を指導している。アカデミックな思想を持ち合わせ、学生との打ち合いで与える影響は大きい。

みやざき・やすお◎1981年8月29日生まれ。熊本県出身。小学4年生からテニスを始め、中学3年で全国大会(全中)初出場。97年熊本マリスト学園高校に入学し、98年全国選抜室内ジュニア単優勝。99年ウインブルドンジュニア単出場、全日本ジュニア複優勝。00年亞細亜大学へ入学。02年全日本学生室内単優勝、複準優勝。03、05年ユニバーシアード代表(トルコ)複ベスト8。JTA最高位単17位、複16位、ATP最高位単790位(05年)、複829位(05年)。04年に大学卒業。プロ転向し、選手活動を続ける。現在は筑波大学大学院で体育経営学を勉強する一方、亜細亜大で後進の指導にあたっている。



岡本聖子

週4日女子部員を指導。“プロに負けない学生プロ”を体現した張本人が、母校に戻ってきた。明るい笑顔の指導で部活が楽しくなっている

おかもと・せいこ◎1978年3月14日生まれ。大阪府出身。夙川学院高校卒。95年インターハイ団体ベスト4、単ベスト8、複ベスト4。96年亞細亜大学へ入学。97、98年大学王座優勝、98年インカレ単複優勝。全日本準優勝。卒業後にプロ転向し、グラントラムは複で全豪2年連続、単はすべての予選に出場した。全日本複8勝、WTAツアー複1勝(／浅越しのぶ)。ITFサーキット決勝進出最多記録を持つ。WTA単最高位は178位(2006年1月)。2010年に現役を引退し、現在は亜細亜大学テニス部の指導、プロ選手のサポート、そのほかテニスウェアの開発を行なっている



赤堀奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかほり・なお◎1971年神奈川県生まれ。87年東海大学付属相模高等学校入学し、2年生で全日本単ベスト16に入る。90年亜細亜大学へ入学し、2年次にアジア学生(台湾)単優勝、インカレ単ベスト4、複優勝。インカレ・インドア単複優勝。3年次には関東学生単優勝。インカレ単優勝、複準優勝。全日本単ベスト16、複ベスト4。4年次にはユニバーシアード複準優勝。94年に卒業し、大東銀行に入行。95年にプロ転向した。97年に全日本単ベスト16、複優勝。98年腰椎間板ヘルニアで現役を引退し、99年から民間クラブのテニスコーチを始める。01-04年東京医療専門学校(鍼灸)を経て、04年から亜細亜大学テニス部コーチを務めるとともに、鍼灸マッサージの仕事を始めた。11年祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業。

学内スタッフ



宇田川 裕

(亜細亜大学学術情報)
亜細亜大学テニス部OBで、男子部部長である。現在は亜細亜大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亜細亜大学国際大会事務局長。



金子国彦

(亜細亜大学学務課)
亜細亜大学テニス部OBで、女子部部長である。現在は亜細亜大学職員として、年度はじめに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

部員名簿

①学部②出身高校③生年月日④テニス歴⑤身長⑥好きな選手⑦趣味
⑧主な戦績⑨目標⑩高校生にひと言⑪自己PR

男子 硬式庭球部

高橋良平

(主将)4年

①経済学部②長尾谷高③1990.10.4
④10年⑤172cm⑥マレー⑦ボウリング⑧12年春関32⑨王座出場⑩人として成長できる場所です⑪多少抜けているところもありますが、最後のインカレとリーグ戦にすべてを注ぎ、完全燃焼します。相棒のブリヂストンを手に4年間の集大成を見せます!!



林 優正

4年

①経済学部②名経大高蔵高③1990.1.0.29④9年⑤175cm
⑥マレー⑦読書⑧12年春関32⑨インカレ16⑩頑張ることに意味がある。結果だけがすべてじゃない
⑪強くなりたくて愛知から上京して4年。コツコツ積み上げてインカレ出場を決めました。ATPポイントも獲得し、あとは積み上げてきたものを出し切ります。



田中宏幸

4年

①法学部②関西高③1990.5.11④10年⑤178cm⑥長久保大樹⑦カラオケ⑧12年春関出場⑨インカレベスト8⑩元気があればなんでもできる⑪亞細亞一の努力家と自負しています。苦手も多々ありますが、テニスに取り組む気持ちは誰にも負けません。大学最後の試合でベストを尽くします。



賀川雄太

4年

①法学部②鳳凰高③1990.10.18④11年⑤176cm⑥パエス⑦ボウリング⑧12年春関出場⑨インカレ出場⑩とても楽しいです⑪気氛で一時期テニスができませんでしたが、今年なんとか関東学生のシングルスに出場することができました。ラスト一年、大学生活で培ったすべてを出し切りたいです。



竹口裕人

4年

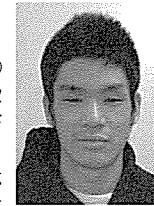
①国際関係学部②法政二高③1990.8.12④12年⑤173cm
⑥ブッシュ⑦ボウリング⑧12年春関出場⑨王座出場⑩自分の軸を持とう⑪4年間必死に練習、ランニング、トレーニングをしてきました。ダブルス大好き、ボレー大好きです。ラスト一年、最後のリーグで完全燃焼したいと思います。



細川芳樹

4年

①経済学部②佐野日大高③1990.12.1
④7年⑤178cm⑥アガシ⑦筋トレ⑧12年春関1次予選SF⑨JOP100位以内⑩人生楽しんで⑪試合の駆け引きが好きです。試合に勝つために試行錯誤しながら、日々、心技体を鍛え、テニス漬けの毎日を送っていました。ラスト一年、精一杯やり切ります。



江本壮之介

3年

①法学部②浦和学院高③1991.6.4④7年⑤166cm⑥笹井正樹⑦買い物⑧12年春関2次予選F⑨関東学生出場⑩成せば成る⑪自分のテニスを変えるため亞細亞に入学。高校のときに苦手だったサーブも、今では得意ショットの一つになりました。これからテニスとともに勉強と就活も頑張ります。



野田雄希

3年

国際関係学部②高松北高③1991.9.13
④10年⑤168cm⑥マイケル・チャン⑦スイーツ巡り⑧12年春関1次予選F⑨インカレ出場⑩本気でやればなんでもできる⑪亞細亞が誇る秘密兵器「のだめ」は現在最終調整中です。王座、インカレに出場し、勝つため、今年は秘めた力を必ず開放します!



神戸優平

3年

①経済学部②ウィザス高③1991.5.12
④9年⑤180cm⑥ナダル⑦ダーツ、卓球⑧12年春関1次予選F⑨関東学生出場⑩やるときはやりましょう⑪もう2年半が経ちました。辛いときもありましたが、それによって精神力が上がったと思います。残りの学生生活で、将来につながる行動をしていきたいです。



山口福太郎

3年

①国際関係学部②日生学園第一高③1991.7.21④8年⑤164cm⑥アガシ⑦図書館通い⑧12年春関1次予選SF⑨関東学生出場⑩亞細亞なら何があるよ⑪2年前に留学を経験し、貴重な時間を過ごしました。いまは毎日、全国各地から集まった仲間と練習に励んでいます。目標達成のため自分を追い込みます。



三谷広城

3年

①国際関係学部②盈進高③1991.10.18④8年⑤168cm
⑥錦織圭⑦ランニング⑧12年春関予選1次SF⑨関東学生出場⑩テニス好き集まれ⑪関東学生、インカレが目標です。そのためにはテニスだけでなくトレーニングやランニング、そして日々の生活から意識を高くベストを尽くします!



高山和也

2年

①経済学部②湘南工大付高③1992.6.7
④10年⑤170cm⑥山室智明⑦料理⑧12年春関複出場⑨インカレ出場⑩今が大事⑪高校時代はダブルスで全国出場。大学に入ってシングルスで、テニスがもっと面白くなってきました。この亞細亞の“足りないものがない”くらいの環境を裏切らない結果を残します!



白井卓也

2年

①法学部②東京学
館 浦 安 高 ③
1992.11.26④11
年⑤172cm⑥フェデ
ラー⑦ボウリング⑧イ
ンカレ選出場⑨イ
ンカレ出場⑩追い込
みたいなら亜細亜⑪
どんな状況でもやりきることを考えています。
その成果か、最近は何事にもしっかり取り組めるようになりました。亜細亜には
変われる可能性があります。



小堺遠馬

2年

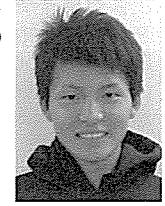
①法学部②秀明英
光高③1992.4.25
④10年⑤176cm⑥
江原弘泰⑦トランプ
⑧インカレ予選出場
⑨負け星をつけない
⑩努力できる人が天
才⑪亜細亜の努力
力家です。人一倍負けず嫌いで、どんな試合も負けたくありません。だから一日一
日ベストを尽くし、何事にもトライして自分磨きに全力を注ぎます。



鍛代 悟

2年

①法学部②松が谷
高③1992.11.5④
10年⑤170cm⑥錦
織圭⑦読書⑧12年
春闘2次予選F⑨関
東学生出場⑩人間
力が大事⑪いろいろ
なことを学んできたこ
とで、これまで勝てなかつた人に勝つこと
ができたり、少しずつ結果が出ています。
人間的にも成長できました。これからも全
力で取り組みます。



佐藤俊介

2年

①国際関係学部②
四 日 市 工 高 ③
1992.12.15④11
年⑤178cm⑥ジョコ
ビッチ⑦スポーツ、PC
⑧関東学生2次予選
SF⑨インカレ出場⑩
自ら関わることで未
来は変わる⑪親族全員がテニスをする中で
育ちました。高校時代にやり残したことが
あったので亜細亜を選びました。テニスと
ともに自分を磨いています。



菊池一陽

2年

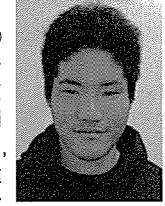
①経済学部②小平
西高③1992.11.21
④4年⑤171cm⑥
岩見直哉⑦色々な洋
楽を聴く⑧関東学生
予選1次F⑨関東学
生出場⑩思う存分テ
ニス⑪真剣にテニス
に打ち込みたくて亜細亜を選択しました。
一年半が過ぎて、テニスに限らず、場面ごと
に対応する力が身についてきたと思いま
す。日々精進!



森下亮太朗

2年

①法学部②佐野日
大高③1991.3.7④
4年⑤176cm⑥ツオ
ンガ⑦スキー⑧関
東学生予選1次F⑨
関東学生出場⑩Yes,
we can⑪目標を達
成するために必要な
ことは、毎日努力を欠かさず、一歩一歩成
長すること。そして、学生としてしっかり単
位を取ること。必ずチームに貢献して、王
座優勝を狙います。



谷戸孝雄

2年

①法学部②桜町高
③1993.1.8④5年
⑤174cm⑥戸田義
人⑦映画鑑賞⑧関
東学生予選1次SF
⑨インカレ出場⑩頑
張っていれば何か見
えてくるよ⑪団体行
動の中で“我慢する大切さ”を覚えました。
そうしたらいま、プレーの幅の広がりを実
感しています。このチームでどれだけレベ
ルアップできるか挑戦!



越田晃司

2年

①経済学部②金沢
伏見高③1992.11.
15④7年⑤168cm
⑥ジョン・ニューカム
⑦サーフィン⑧関東
学生2次予選SF⑨
全日本選手権出場
⑩いっしょに頑張ろう
⑪この最高の環境の中から将来はプロ
テニスプレーヤーとして活躍することを目指
します。道は険しいですが、日々の練習
から逃げずに頑張ります。



山田慎之介

2年

①短期大学部②大
成高③1992.8.15
④8年⑤170cm⑥フ
ェデラー⑦PC⑧関
東学生予選出場⑨
編入⑩テニス以外に
も学ぶべきものがある
⑪テニス部では主に
ブログやホームページの更新を担当して
います。普段の学生の奮闘ぶりを、ネット
を通じて多くのみなさんに伝えられればと
思います。



秋山和潤

1年

①国際関係学部②
麗澤瑞浪高③1993.
7.20④13年⑤170cm
⑥ジョコビッチ⑦海釣
り⑧全日本Jr.出場⑨
関東学生出場⑩今
ある目標に向かって
頑張ってください⑪岐
阜県からやってきました。高校時代に培
った“雑草魂”を大学でも発揮して、他の
選手から嫌がられるような存在になります。



仲村元希

1年

①経済学部②大阪産
大附高③1993.6.3
④14年⑤179cm⑥
ジョコビッチ⑦映画鑑
賞⑧11年IH複ベスト
8⑨インカレ単複出
場⑩亜細亜で夢をつか
め⑪奈良県出身の
関西人です。高校時代に亜細亜OBの
新谷先生に“ナニワ魂”を叩き込まれま
した。世界基準で活動する亜細亜で、“ナ
ニワ魂”全開で頑張ります。



田村 亮

1年

①法学部②高知中
央高③1993.4.7④
8年⑤179cm⑥セレ
ナ⑦読書⑧11年IH
出場⑨全日本選手
権出場⑩文武両道
で頑張ってください⑪
フューチャーズ開催す
るなど世界基準の亜細亜に憧れ、田舎か
らやってきました。プロに勝てる学生にな
るために、ランニングから頑張ります。土
佐の意地を見せつけます。



部員名簿

①学部②出身高校③生年月日④テニス歴⑤身長⑥好きな選手⑦趣味
 ⑧主な戦績⑨目標⑩高校生にひと言⑪自己PR

宮脇 駿

1年

①国際関係学部②名古屋高③1993.10.31④10年⑤167cm⑥ナダル⑦音楽鑑賞、睡眠⑧12年春関2次予選SF⑨インカレ出場⑩一步一步でいいから頑張っていこう⑪毎日の練習やトレーニングで鍛えた自慢の脚で、体が小さくとも絶対にボールを拾います。2バウンドさせません。ガツツを見せて頑張ります。



小林浩貴

1年

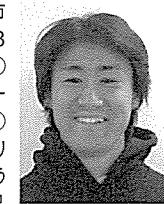
①経済学部②仙台商高③1994.2.12④9年⑤172cm⑥森 稔詞⑦甘いものを食べる⑧11年IH出場⑨全日本選手権出場⑩今しかない⑪4年間の部活で、テニスだけでなく人間的にも成長できるように頑張っていきたいと思います。一日一日を大事に、毎日を充実させていきたいです。



西岡靖雄

1年

①法学部②四日市工業高③1993.10.8④10年⑤165cm⑥西岡良仁⑦百人一首⑧全国選抜3位⑨ケガをしない体づくり⑩自分を持ちましょう⑪あの西岡良仁の兄です!いつか弟を超えてみせます。体は小さいですがスケールの大きいテニスで夢をつかみます。大学4年間で人生が決まる覚悟で頑張ります。



豊田 魁

1年

①国際関係学部②日大山形高③1993.10.13④12年⑤178cm⑥ヒューリット⑦ダース⑧11年IH出場⑨関東学生出場⑩努力がすべて報われると限らないが、努力なしでは成功しない⑪高校時代からサーブに自信がありますが、堀内監督の下でピックサーバーを目指します。TOEIC400点以上upも目標。



根岸 遼

1年

①法学部②麗澤高③1994.1.16④7年⑤178cm⑥マレー⑦映画鑑賞⑧千葉県Jr.複ベスト8⑨関東学生出場⑩今を楽しんでください!先輩たちとの差を縮められるようにテニス、ランニング、トレーニングを頑張ります。この4年間でテニスだけでなく人間性も成長させたいです。



糸井 悅

1年

①法学部②麗澤高③1993.7.6④7年⑤179cm⑥ツォンガ⑦サイクリング⑧千葉県Jr.複ベスト8⑨関東学生出場⑩諦めなければ何がある⑪高校まで右でサーブを打っていましたが強くなるため左に変えました。短期の目標は関東学生、4年までにインカレ出場を果たすため、日々練習します。



井上裕貴

1年

①短期大学部②日大山形高③1993.8.13④7年⑤166cm⑥錦織圭⑦ショッピング⑧全国選抜団体出場⑨関東学生出場⑩テニスをするなら亜細亞⑪東北出身として関東で活躍できるように頑張ります。毎日のトレーニングは欠かさず、勉強も頑張り編入して、少しでも長く亜細亞でテニスをします。



瀬間智義

1年

①経済学部②柏陵高③1993.7.31④8年⑤170cm⑥ガスケ⑦DVD鑑賞⑧⑨関東学生出場⑩気合を入れて頑張りましょう⑪持ち前の泥臭さを生かし、目標に向かって毎日精進します。ランニング、トレーニング、練習に気合を入れてやります。亜細亞で“大物”に生まれ変わります。



真下喜亘

1年

①経済学部②秀明八千代高③1993.9.6④6年⑤165cm⑥サントロ⑦音楽鑑賞⑧12年春関一次SF⑨関東学生出場⑩夢を持って頑張ろう⑪相手の気持ちをへし折るような、しつこいプレーをして、背が小さくても勝てるることを証明します。そのため毎日のランニングとトレーニングは欠かしません。



松本 晃

1年

①経済学部②浜松湖東高③1993.7.13④10年⑤173cm⑥フェデラー⑦ダイエット⑧⑨関東学生出場⑩今は頑張れ⑪テニスが強くなりたくて静岡から亜細亞に入りました。日々の練習に精一杯取り組み、目標へ一歩ずつ近づいていきたいです。最後まで諦めないプレーで頑張ります。



田中達大

1年

①法学部②代々木高③1993.7.7④10年⑤177cm⑥ジョコビッチ⑦読書⑧関東Jr.出場⑨インカレ出場⑩精一杯頑張れ⑪大学では4年間しっかり練習して、チームに少しでも貢献できるように頑張ります。3年までに単位を取って、4年のときには多くの大会に出場できるようにしたいです。



佐藤雄磨

1年

①国際関係学部②国際基督教大学高③1991.3.10④9年⑤170cm⑥マレー⑦バスケ、音楽鑑賞⑧12年春関予選出場⑨関東学生出場⑩失敗は成功のもと⑪一般入試で亜細亞に入学しました。この部活はレベルが高いので、毎日の練習を頑張り、先輩方を追い越せるように努力し続けます。



女子 アジアローンテニス部

松本 亘

1年

①経営学部②浦和学院高③1993.12.18④7年⑤180cm⑥杉村太蔵⑦ダンス、スケボー⑧12年春関1次SF⑨関東学生出場⑩やりたいことをやろう⑪フォアハンドが得意ですが、亞細亜に入ってからはネットプレーに果敢に挑戦しています。毎日の練習は大変ですが、授業はサボりません!



渡邊芽衣

(主将)4年

①国際関係学部②青森西高③1990.5.31④7年⑤156cm⑥荒木史織⑦創作料理⑧11年青森国体予選3位⑨10kg痩せて関東学生出場⑩Do your best!そして親を大切に!⑪青森の大自然でのびのび育ちました。メンタリティーの強さはりんご3つ分。いつかその強さをテニスで発揮できるように頑張ります。



山本翔子

3年

①法学部②駿台甲英高③1991.10.13④14年⑤160cm⑥江原弘泰⑦水泳、読書⑧11年全日本選手権出場⑨王座出場⑩今しかできないことをしよう⑪亞細亜に入って変わったことは我慢強くなったこと。変わらないことはテニスを愛する気持ち。持ち前のリーダーシップを発揮して亞細亜を引っ張ります!



伊波佳苗

3年

①法学部②沖縄尚学高③1992.2.5④13年⑤166cm⑥伊達公子⑦しゃべる、食べる⑧12年亞細亜女子国際大会準ベスト8⑨インカレ優勝⑩テニス大好きっ子集まれー⑪沖縄出身、常夏育ちで年中真っ黒です。「なんくるないさ&沖縄タイム」で都会育ちには負けません。インカレで優勝すべく日々全力投球!



伊藤優花

3年

①経済学部②野田学園高③1991.5.28④10年⑤161cm⑥ダビデンコ⑦You Tube⑧インカレ出場⑨ジャパン出場⑩今からでも遅くは無い⑪テニスを磨きたくて山口県からやってきました。いまはテニス全体を攻撃的に改良中。亞細亜ではテニスの上達はもちろん、国際大会運営を通じて社会勉強ができます。



島田雪乃

3年

①法学部②相模原総合高③1988.2.27④4年⑤158cm⑥北崎悦子⑦ピアノ、スキー⑧関東学生1次予選F⑨関東学生出場⑩やるか、やらないか。それだけだ⑪亞細亜テニス部はいい人ばかりです! 同学最高! そんな素敵なか仲間たちといっぱい笑って悩んで、強くなれる自分は本当に幸せ者です。



宇佐川沙耶

2年

①経済学部②野田学園高③1992.10.27④9年⑤165cm⑥岡本聖子⑦ショッピング、DVD鑑賞⑧関東学生出場⑨関東学生で勝つ⑩テニスも勉強も遊びも全力で⑪山口の山だらけの地を走り回り、体力をつけてきました。亞細亜に入ってからはさらに倍増! この体力でどんな球も拾って相手を根負けさせます。



岡本佳純

2年

①国際関係学部②浦和学院高③1992.6.27④9年⑤156cm⑥岡本聖子⑦⑧11年春夏関2次F⑨関東学生出場⑩ともに頑張ろう⑪高校時代から亞細亜OB・OGから指導を受け、“亞細亜DNA”を受け継いできました。体は小さいですが、動きの良さとフォアハンドでどんな相手もねじ伏せます。



松本千広

1年

①経済学部②幕張総合高③1993.9.8④13年⑤157cm⑥クビトバ⑦カラオケ⑧全日本Jr.単複出場⑨インカレ出場⑩後悔しない選択をしましょう⑪フォアハンドの強打が最大の武器ですが、これから必要となるのはクビトバ(同じ左利き)のように、フォアで攻めつつ緩急あるプレーができます。



安野聰美

1年

①法学部②山村学園高③1993.8.5④8年⑤163cm⑥クビトバ⑦音楽鑑賞⑧11年IH団体出場⑨インカレ出場⑩頑張りましょう⑪ポーッとしているように見えますが、実は内なる闘争心を秘めています。コート上ではそれを表現する、大きなテープバックから繰り出すフォアハンドが武器です。



山浦はる香

1年

①国際関係学部②山村学園高③1993.5.15④8年⑤158cm⑥美濃越舞⑦音楽鑑賞⑧11年IH複ベスト32⑨インカレ出場⑩亞細亜で待っています⑪亞細亜なら強くなれると思い、埼玉からやってきました。コートの中でもフィールドでもしっかり走れるようになること。テニスも勉強も日々全力で頑張ります。



八島ちひろ

1年

①法学部②日大東北高③1993.7.20④10年⑤157cm⑥シャラポワ⑦スポーツ観戦⑧11年IH複ベスト16⑨インカレ出場⑩いっしょに頑張りましょう⑪相手を揺さぶり、最後にネットで仕留める。そのためいまバックハンドのダウン・ザ・ラインの精度を上げています。長所を伸ばし、短所をなくす!



高校生のみんなへ いつしょに テニス しようよ!

部員から
ひと言

いましかない!
(小林)

やりたいことを
やろう
(松本亘)

いつしょに
走ろう
(越田)

テニス好き
集まれ
(三谷)

夢をもって
テニス
(真下)

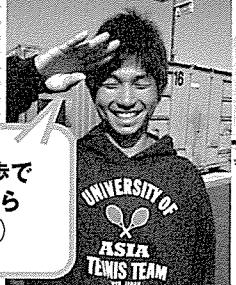
精一杯テニス
(田中達)

思う存分テニス
(菊池)

一步一步で
いいから
(宮脇)

自分の軸をもとう
(竹口)

文武両道
(田村)



失敗は成功のもと
(佐藤雄)



テニスも勉強も
遊びも全力で
(宇佐川)



いまからでも
遅くはない
(伊藤)

亜細亜なら
何かがあるよ
(山口)

成せば成る!
(江本)

テニス
大好きっこ
集まれ!
(伊波)



EVER UPWARD!
自らの可能性は
それを信じ続けたものだけが
実現できる!

元気があれば
何でもできる
(田中宏)

追い込みたいなら
亜細亜
(白井)

No pains,
No gains!
(八島)

Practice makes
perfect!
(安野)

後悔しない
選択をしましょう
(松本千)

Do your best!
(渡邊)

やるかやらないか
それだけだ
(島田)

Go for it!!
(松本晃)

全力ならば
何か見えてくるよ
(谷戸)

人として成長
できる場所です
(高橋)

とても楽しいです
(賀川)

いまある
目標に向かって
頑張ってください
(秋山)

気合いを入れて
(瀬間)

学生は、 部活と授業の 両立を目指す。

面 白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

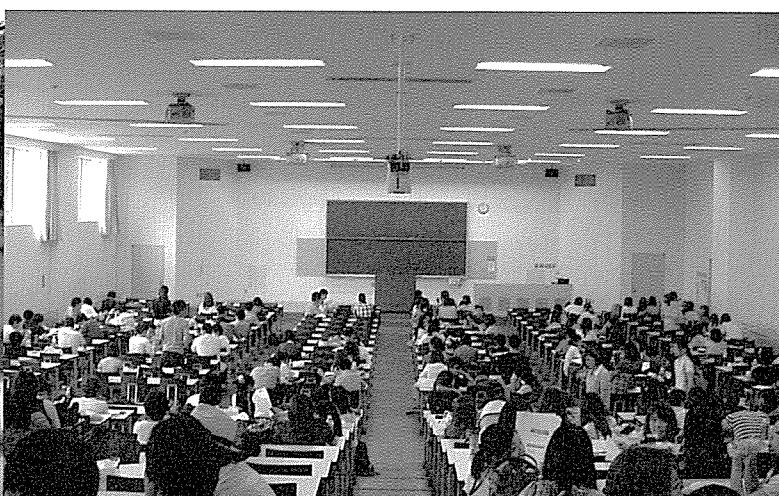
部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

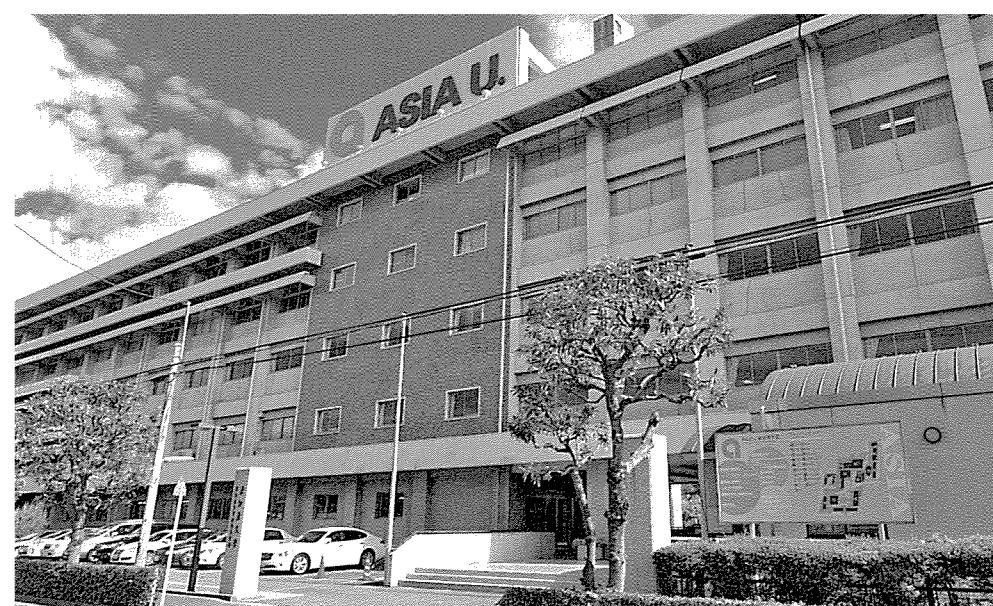
そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

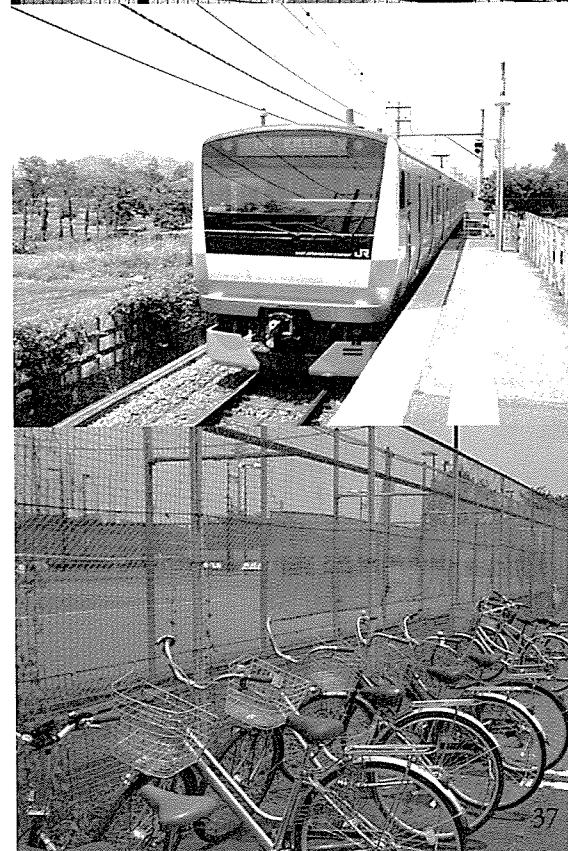
部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一



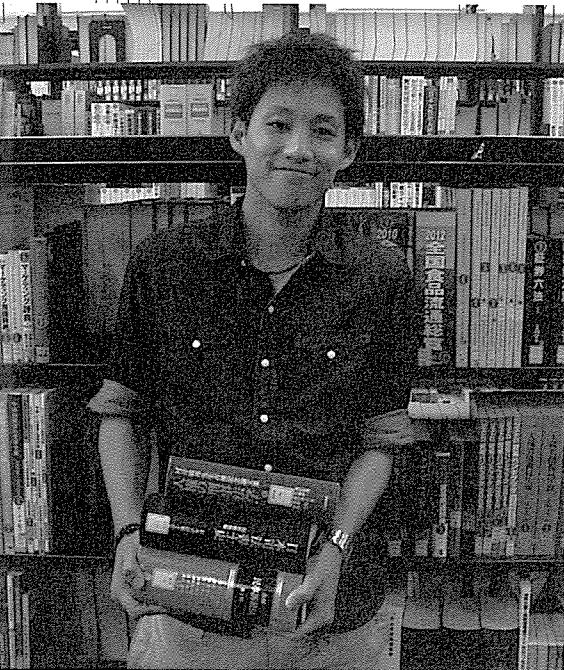


文
武
内
道

A large, bold, vertical composition of Japanese characters. The characters are arranged in four horizontal rows, with each row slightly offset from the others. The characters are rendered in a high-contrast, graphic style.

法学部 Law

全学部生 ● 1,620人 男女比 ● 男1,275人(76.3%):女395人(23.7%)



江本壮之介(3年)の場合

「法律を学ぶことで視野を広げる」

法学部には学科はひとつしかなく、法律学科のみで、私は現代法文化コースに在籍しています。

大学生になるまで法律には小難しいイメージしかなく、私には向いていないのではと思っていたましたが、学んでいくうちに身の回りで起きていることで法律に関わっていないことなんてないと、私自身が知らないだけだったことに気づかされました。社会の基本的なルールである法律に関する学問こそが“法学”です。

私たちの権利や財産、社会の秩

序、國のあり方を定めるなど、何気なく過ごしている日常はすべて法律で守られています。将来、私を含め、みなさんも社会に出ていき仕事をする上で、法律という要素は欠かせません。学んだことのすべてが自分の生きる武器になっていくと思ってください。大きさかもしれませんのが、それが法学の魅力です。このような法律の勉強をすることは必ず視野を広げてくれます。それはテニスの視野を広げることにもつながっています。

週間スケジュール

	M月	T火	W水	THU	金	S土	SUN
1限目			社会科教育法		破産法		
2限目		ゼミ	システム科学	アジア経済論		教育心理学	練習
3限目	コミュニティ論	政治学原論	破産法	経済法	アジア経済史		
4限目				経済法	政治学原論	練習	
5限目	英語	英語	英語	英語	社会科教育法		試合
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習(orトレーニング)	
20:30						フリー	

→ 資格試験を全面サポート

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

→ キャリア養成を重視

法学部では、全学生がキャリア養成教育を受けます。「基礎数理」を必修科目とするほか、選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応します。

→ 4年間を通したゼミナール教育

1年次の「オリエンテーションゼミ」から、3、4年次の2年間に及ぶ「演習」まで、4年間にわたってゼミナール教育を展開します。演習では卒業論文の作成にも取り組み、4年間の学習成果を形にします。

特徴

→ 法科大学院コース

法科大学院への進学だけでなく、司法書士や行政書士など法律の専門家や法律関連の資格取得を目指します。

→ 公務員コース

公務員試験科目を中心としながら、国家・地方の公務員試験合格を目指します。

→ 企業コース

一般企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業取引に関する専門科目を配置しています。

→ 現代法文化コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の取得を目指します。

主な勤務先 | 積水ハウス／大日本塗料／LIXIL／中国電力／全日本空輸／東日本旅客鉄道(JR東日本)／ニトリ／みずほ銀行／ゆうちょ銀行／明治安田生命保険／大和証券／京王プラザホテル／東京地方検察庁／新宿区役所／警視庁／入国警備官

経済学部

Economics

全学部生 ● 1,249人 男女比 ● 男子1,006人(80.5%):女子243人(19.5%)

伊藤優花(3年)の場合

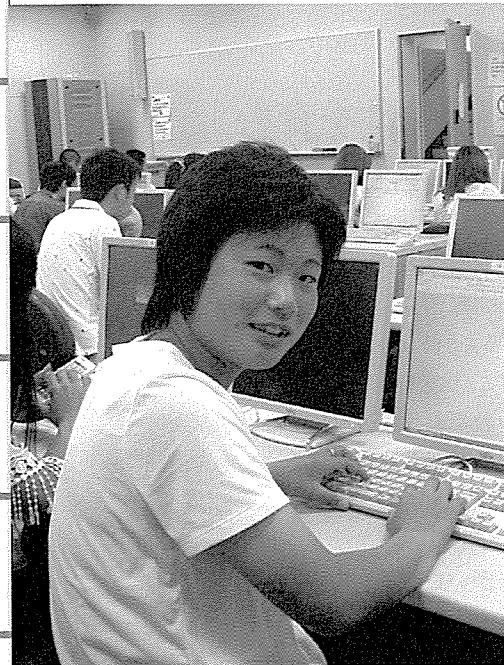
「より高度な技術を獲得して成長する」

経済学部では、さまざまな授業でパソコンを使用します。現代の経済問題に対して自分でデータを集め、そのデータを見やすいように加工・処理作業し、プレゼンテーションをし、問題を深く掘り下げていきます。

高校時代に、パソコンに触れる機会がなかった私にとって、1年次のパソコン授業の展開は早く、まったくついていくことができませんでした。どうにかしてクラスの人たちに追いつこうと、毎日必死にパソコンと

格闘しました。そのお陰もあって、いまではwordはもちろん、excelやpower pointなどを使用して情報処理ができるようになり、人前で堂々とプレゼンテーションすることもできるようになりました。

私は現在、教職課程を履修していて、教師を目指しています。将来は、テニス選手としての経験をもって母校に帰って教師となり、新たなテニス選手を育てていきたいと考えています。



週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		刑事政策	社会科教育法I				
2限目		刑事政策	現代マクロ	労働経済		練習	練習
3限目	国民経済	計量経済学	テニスの研究	労働経済			
4限目		教育実戦	ネットワーク	日本史	産業組織	試合	試合
5限目		経済中国		経済政策	社会科教育法II		
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習(orトレーニング)		
20:30						フリー	

→経済学の基礎から応用まで体系的に学習

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは経済学の主要な3部門〔理論部門〕、〔応用・政策部門〕〔アジア・歴史部門〕で本格的に勉強。

→将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

進路に合わせた科目選択が可能です。また、将来の職業に生かすための〔経済専門キャリア部門〕は1年次から学修できます。

→少人数クラスで“数字”と“IT”に強い実践型人材へと成長

「経済学基礎」「経済分析基礎」など、1・2年次に経済データに親しみ、少人数で学ぶ授業を展開します。経済に関する数字の深い理解とパソコンを活用した分析ツールの修得を目指します。

→政策科学コース

主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

→経済情報分析コース

紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

→都市経済コミュニティコース

このコースでは、主に開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／清水ハウス／住友林業／飛鳥建設／TKC／ソフトバンク／ソニー・ミュージックエンタテイメント／帝国ホテル／富士通／ワコール／ブルボン／全約工業／国分／セブン-イレブン・ジャパン／東急ストア／ユニデックス／みずほインターパース証券／ワタバウェーディング／郵便局

国際関係学部

International Relations

全学部生 ● 1,236人 男女比 ● 男子458人(37.1%):女子778人(62.9%)

山口福太郎(3年)の場合

「留学を通じて語学力、国際性を育む」

国際関係学部には国際関係学科と多文化コミュニケーション学科があり、私は国際関係学科に在籍して、主に国際政治学を中心に勉強しています。

2年次後期から必修で5ヵ月間アメリカへ行き、そこで英語はもちろん他文化にも触れ、より幅広い視点から物事を見る事ができるようになります。留学前、留学中、留学後のサポートの厚さも充実しているので、留学前の私のTOEICスコアは325点でしたが、現在では740点ま

でアップしました。

留学を経験して、テニス部が主催する国際大会の場でも物怖じすることなく外国人選手と話すことができるようになったことは、私にとってすごく大きな収穫でした。

教職の面では、国際関係学部だけ英語科と社会科のどちらかを選択することができます。卒業していった先輩の中にはANAに勤務の方がいたり、主に国際舞台で活躍する先輩方が多いのも国際関係学部の特長のひとつです。

週間スケジュール

	M月 1限目	T火 2限目	W水 3限目	T木 4限目	金 5限目	S土 6限目	SUN 7限目
1限目	英語		英語	ネット英語		教育実践研究	
2限目		アメリカ問題					練習
3限目	英語科教育法	国際協力論		専門ゼミ	情報処理		
4限目	ツーリズム論				教育の制度	練習	
5限目	国際関係英語			英語科教育法	英米文学		試合
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習(orトレーニング)	
20:30						フリー	

→ 海外留学プログラムが必修

2年次後期に全員が必修で5ヵ月間アメリカの各大学(ワシントン州またはアリゾナ州)で学びます。見知らぬ土地で語学力を磨き、さらに自立心を育てます。留学は新しい自分を見つけるチャンスであり、将来へのステップとなります。

→ 国際社会で通用する英語力を習得

TOEIC600点以上を目指し、英語のみで授業を行なうところもあります。海外留学や専門研究、ビジネスシーンで役立つ英語力を身につけます。

→ 1年次からゼミの授業と三つのコースの学習

1年次から少人数のゼミで発表や討論を通じ、より深く専門的な学習をします。3年次からは自分が興味を持つ分野の先生のゼミを履修することができます。授業は大きく分けて3つのコースがあり、選択して学んでいきます。

→ 経済・ビジネスコース

このコースでは主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

→ 平和政策コース

このコースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

→ 國際協力コース

このコースでは、主に国際開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

積水ハウス／ワコール／花王／資生堂／東芝／NHK／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／ヒルトン東京／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ツツミ／明治安田生命保険／近畿日本ツーリスト／トランスクスモス／郵便局

カリキュラム紹介

短期大学部

Junior College

全学部生 414人 男女比 男106人(25.6%) 女308人(74.4%)



井上裕貴(1年)の場合

「将来につながる幅広い選択肢がある」

私は短期大学部「経営学科」に在籍し、主に「経営学」と「簿記」を中心に勉強しています。

短期大学部は二年制で、2年次には大学への編入が可能です（編入試験があります）。編入後には、そのまま経営学科に進むこともでき、他の分野の勉強がしたいのであれば、違う学部に進むこともできます。

編入試験をパスするためには、やはり1年次の成績がたいへん重要となります。テニス部の1年

生は（練習時間を確保するため）、原則として授業を3限までに終えるようにしています。私は編入希望なので、勉強と部活の両立を目指して、一生懸命頑張りたいと思っています。

経営学科では「日商簿記」などの資格を取得することも可能です。留学可能なプログラムもあります。また、2年で卒業して就職するという選択もあるなど、将来を踏まえ選択肢が多いことも、短期大学部の魅力だと思います。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
1限目		英語	表計算演習	イタリア語	ビジネスマナー		
2限目		簿記	財務管理論	ブランドマーケティング		練習	練習
3限目	経営学	美術	心と体の健康学		テーマパーク概論		
4限目					マーケティング総論		
5限目					専門演習	試合	試合
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング		練習(orトレーニング)	
20:30					練習& トレーニング		フリー

→各種資格取得を力強くサポート

日商簿記、日商販売士をはじめ、さまざまな検定の取得を、授業を通してサポートしています。

→異文化への理解を深める留学制度と外国語科目

世界11地域11大学への留学が選択可能な海外留学プログラム「亞細亞大学グローバルプログラム(AUGP)」に加え、語学力アップを図る6か国語の授業を開講しています。

→短期大学部経営学科の学生を対象とした編入学制度

経営学科の成績上位者は亞細亞大学の各学部への編入学も可能です。
短期大学部で取得した単位は編入学する学部の単位として認定されます。

主な勤務先

ミサワホームセラミック/大正製薬/富士通/オリックス/八洲電機/八千代銀行/大東京信用組合/アコム/ミニミニ/IMSグループ/第一ホテル帝国/三井不動産ビルマネジメント/エムユーセンターサービス東京/扇島電機/ルネサスイーストン

→経営管理コース

経営4大資源「ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ」について総合的に学び、現代の企業活動をグローバルに把握していきます。

カリキュラム紹介

→企業会計コース

企業の会計担当者として必要不可欠な知識や技能を身につけます。日商簿記検定など資格取得サポートも積極的に行ないます。

経営学部

Business

全学部生 2,151人 男女比 男子1,106人(51.4%) 女子1,045人(48.6%)

→企業経営と社会の関係性を理解し「実戦力」を修得

市場・人間・技術という企業経営に関わる3つの側面から、企業経営と社会の関係性を理解する教育プログラムを展開。あらゆるビジネスパーソンに求められる「実戦力」を身につけます。

→目標に合わせて選択できる科目群「モジュール」

テーマ別に学ぶ「専門選択モジュール」と実戦力を養成する「スキル関係モジュール」のほか、多彩な科目で構成されたモジュールで、経営学の専門分野を効率よく学習します。

→少人数制のゼミナールでの実践的教育

1クラス約15人の少人数制ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践」を導入。自らプロジェクトに取り組み、問題を発見し、解決に導く、実戦力を養います。

大学に入って、こんなに変わりました!



CASE 1

高橋良平(4年)の場合

「支えてくれたチームに何が返せるか。大学最後の年、プレーで返すしかないと思っています」

私は堀内監督にとても感謝しています。高校時代に個人戦でインターハイにも全日本ジュニアにも出場したことがなかった私を、亜細亜に入れていただき、インカレに出場できるまで育ててくれました。私ひとりでは到底強くなることはできませんでした。監督、コーチ、先輩方のおかげでここまでくることができたのだと思います。

亜細亜はこのような指導者の下、練習環境も素晴らしい、8面のハードコート + 2面のオムニコートがいつも使え、さらにトラック、トレーニングセンターがあり、テニス部専門のトレーナーもいて、「強くなれる要素」が揃っています。私は、テニスに真剣に打ち込める環境は亜細亜のほかにはないと思います。私が亜細亜を選んだ理由も、「必ず強くなれる環境だと思ったから」。毎日、日の出町という自然豊かな場所でテニスをするのはとても気持ちがいいものです。

テニスをする環境は“最高”の亜細亜ですが、テニス部は文武両道を目指しています。私自身学業は得意ではないのですが、専攻している経済学を日々学んでものにし、将来に生かそうと考えています。勉強することによって教養が身につき、それはテニスにも必ず生きてくるはずです。そう教えられましたし、そう思います。学内、テニスコートのみならず、日々の生活すべてが学びの場だと思います。

今年は主将という立場にも選ばれました。これまで“人をまとめる”という立場に立ったことがなく初めてのことでのことでチームに迷惑をかけていますが、文句を言わずにいてくれる同期や後輩には本当に感謝しています。そのチームに何が返せるかと考えたいま、私はプレーで返すしかないとと思っています。大学最後の年、私がチームを引っ張って王座出場という目標を達成します。



高校当時、確かに成績はありませんでしたが、将来性を見込んでの入学でした。時間をかけてコツコツやれば、大学トップクラスになることは予想できました。4年生となつたまでは、主将としてチームを牽引し、春の関東学生では高校時代には勝ったことのなかった選手に勝つまでになりました。それは真面目に練習に取り組み、ハードなトレーニングを積んだ結果だと思います。これを続けてほしい。まだまだ楽しみです。

CASE 2 伊波佳苗(3年)の場合

「自分次第で、
いくらでも強くなれる
環境だと思います」

私が沖縄を離れて亜細亜大学に進学を決めた一番の理由は、自分次第でいくらでも強くなれる最高の環境だと思ったからです。

亜細亜との最初の出会いは高校1年生のときでした。年末合宿に参加し、そこでテニスの深さを教わりました。「ここは常に上を目指して頑張れる場所だ」とそのとき感じたのです。

亜細亜に入って変わったことは、テニスの理論を理解してプレーするようになったことです。高校時代までは、監督やコーチに言われることを言われるがままやっていましたが、大学に入ってからは、どこに、どのように、どのタイミングで打つかなどを、自分でよく考えてプレーするようになりました。また、戦術面においてもいろいろな戦術があることを知り、プレーの引き出しがどんどんと増えていきました。

今年3月にテニス部が主催した『亜細亜大学国際女子オープンテニス』では、プロや海外選手が参加する中、単ベスト8に入ることができました。学生大会では通用するプレーがそこではあまり通用せず、1ポイントの重みを痛感した大会ではありましたが、同時にプロに対抗できたことが、私にとって物凄く自信につながりました。

私の将来の夢はテニスに携わる仕事をして、地元・沖縄のテニス界に恩返しすることです。沖縄は年中暖かく、テニスをするには最高の気候ですが、ヒッティング面で課題があり、練習環境の充実が望まれています。そういう面で私がサポートしたり、恩返しができたらと思うのです。現在、テニス部が行なっているテニスクリニックで得た知識も沖縄のジュニアたちに伝え、沖縄のテニス界のレベルを少しでも上げたいと思います。

大学生活は残り2年、限られた時間をどのように使い、充実させていくか考えながら過ごすことは、きっとテニスにも良い影響を与えるに違いありません。毎日ベストを尽くし、ゆくゆくは全日本選手権のシングルスに出場したいと思っています。



堀内昌一
監督



から見た
伊波佳苗

サウスポーから繰り出すサービスとフォアハンドは強烈。バックハンドは一番の武器で、どこからでも攻めることができる。ただし、高校時代は好きなようにプレーして攻めることだけで、展開力が未熟でした。ネットプレーも雑。いまはストロークでのニュートラルなプレーの安定性と、オフェンス力の戦術を指導しています。沖縄出身の“沖縄時間”+性格ですが、集中力を高めたときはブロをも吹き飛ばす力をもっています。今までの好きにやっていた“わがままテニス”から成長して、状況判断や心理を研いで弱点を補う。プロを視野に武器を磨いて、卒業させてやりたいと思います。

大学に入って、こんなに変わりました!

CASE 3 山本翔子(3年)の場合

「大学王座で知った 1ポイントの大切さ、重みが 全日本選手権に生きました」

私がこの亜細亜大学を選んだ理由は、テニスをする上で強くなるための環境が整っていたからです。テニスコートが10面あって、フィールドトラックとトレーニングジムが併設されています。この環境があれば、自分次第でいくらでも強くなれると思い、入学を決めました。

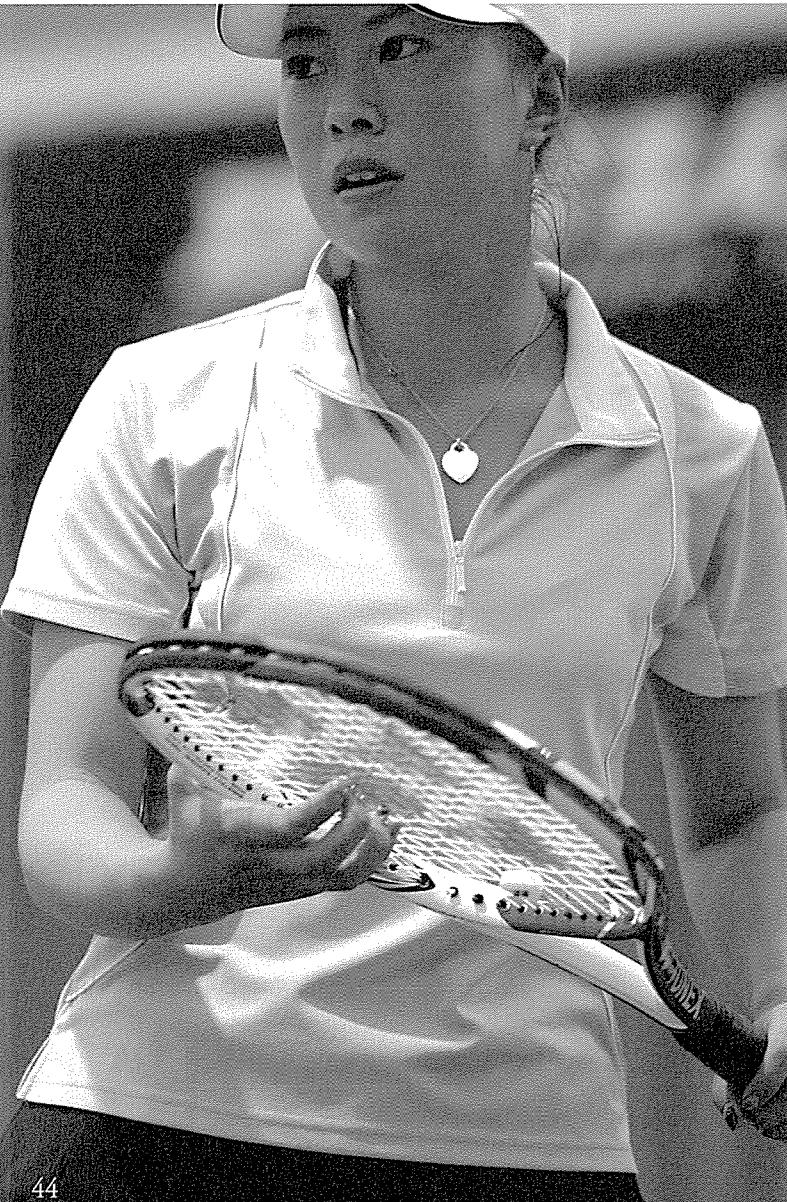
3年生のいま、テニスの技術が上がったと実感しています。高校生の頃はただつなげるだけの“ミス待ち”的なテニスでしたが、大学生になってからは“ミス待ち”では通用しないと思い知らされました。堀内監督をはじめ、森さん、赤堀さん、

岡本さんというすばらしいコーチ陣に指導していただき、最近では自分からポイントを取りにいくアグレッシブなプレーができるようになりました。

昨年初めて、小さい頃からの夢であった全日本選手権に出場することができ、C予選の4試合を勝ち上がって本戦に出場しました。その本戦でも1勝できました。実は、全日本の前週に大学王座（日本一を決める）で決勝に勝ち進みました。決勝戦ではメンバーとして出場したにも関わらず、不甲斐ない試合をしてしまい、その結果、チームも負けてしまいました。その負けから得たものは大きく、1ポイントの大切さ、重みがわかりました。とても悔しくて、たくさん泣きました。その後の全日本選手権でしたから、結果が出たことがすごくうれしかったです。そのような経験もあって成長することができました。少しずつですが結果がついてくるようになっています。

私たちの学年は今年度から就職活動が始まりますが、残り2年間、全力でテニスを頑張ろうと思っています。今年のチームの目標は大学王座出場です。その目標へ向けて、チーム一丸となり頑張っていきます。

最後になりますが、高校生のみなさん、ぜひ一度、亜細亜の練習に参加してください。亜細亜は練習時間をきちんと確保していて、ランニングやトレーニングもみんなで行ないます。その中で自然と体力がついていき、試合での勝利に結びつきます。亜細亜の良さを体感してください。部員一同、テニスコートでお待ちしています。



当初からゲームメイクは得意、バックハンド以外のショットは安定性があるものの攻撃性に乏しいものがありました。特にフォアハンドからの展開は一番改善が必要で、相手の様子を見て、相手の出方を待ち、自分から行動を起こさないことが弱点でした。それが大学に入って3年が過ぎ、フォアハンドからの展開力が格段に進歩したと思います。サービスはグリップを変えて、いまでは最大の武器になりました。自分のスタイルを変えることは勇気がいるのですが、地道に積み上げてきてています。計画的に行動ができる選手で、それはとてもよいことですが、これからはがむしゃらが必要です。プロを視野に武器をつくることがいまの大きなテーマです。

CASE 4 錬代 悟(2年)の場合

「人間として成長した先で テニスもきっと強くなると思います」

亜細亜大学にはテニスがうまくなるための環境が揃っているだけではなく、レベルの高い相手や考え方がある——その中でテニスができると思ったので決めました。

2年生となつたいま、私のテニスや人生に対する考え方は大きく変わりました。部活動には堀内監督や森コーチがいつもいて、テニスはもちろん、ものの考え方や「人生」というものも教えてくれます。そのおかげで私は以前よりずっと客観的に物事が見られるようになりました。世界が広がった気がしています。

テニスがうまくなるという点で、亜細亜大学はとても環境に恵まれています。10面のテニスコート、ナイター設備、毎日常駐する専属コーチのほか、週末には専属トレーナーやさらにコーチが加わります。そのほか、学生が手づくりして運営まで行なう国際大会（男子フューチャーズ、女子サーキット）、ジュニアや高校生、一般プレーヤーを対象にしたテニ

スクリニッックの開催など、貴重な経験もできます。

私は、いくら良い環境、良い機会があってもそれを生かすことができなければ意味がないと思います。本当に大切なことはそれを生かそうとする自分自身の意思である、とともに学びました。私の将来の夢はまだはっきり決まっていませんが、これらの学んだことを子供たちに伝えたい——教員やコーチになりたいと考えています。亜細亜に入って知った、もっと早く気づけば良かったと思うことや、高校までに良い結果が残せず後悔したこと、その後悔を子供たちにはしてほしくないということを伝えられたらいいなと思います。

本当に大切なことは、人間として成長することだと思います。それがテニスが強くなることにもつながり、社会に出て



からも役に立つと思います。私の経験がみなさんの役に立ちますように。残りの高校生活を全力で楽しんで、そして将来を考えてみてください。



森 稔
コーチ



錬代 悟

「真面目」——それはとても良いことなのですが、その真面目さがプレーにおいては相手に予測されやすく、なかなか結果が残せていないのが現状です。広い視野をもち、柔軟な考えのもとに正しい判断と選択をしてほしいと思っています。勇気をもって決断をすること、それが彼を大きく飛躍させてくれるはずです。きっかけさえつかめば、結果に表れてくるはず。まだ3年間あります。大きく成長してもらいたい選手です。

CASE 5 松本千広(1年)の場合

「テニスに関する職業に就くためにさまざまな経験をして本当にやりたいことを見つけます」

ばならなくなり、責任ある行動をするようになったことです。いままでは身の周りのことは両親がやってくれ、テニスに関してもテニスクラブのコーチに管理してもらっていました。大学では、監督やコーチもいらっしゃいますが、ジュニアのときとは違い、自己管理しなければいけません。練習メニューや課題も自分で考えるので。最初はそれができなくてたいへんでしたが、いまは少しずつできるようになってきました。

亜細亜には、ハードコート8面とオムニコート2面の10面のテニスコートがあり、たくさんボールを打つことができます。トレーニングセンターやトラックもあって、週末にはトレーナーもいるので専門的にトレーニングを行なうこともあります。春にはその10面のコートを使って部員が主催する国際大会もあり、今年はその大会に出場することができました。本当に勉強になりました。将来はテニスに関係する職業に就きたいと考えている

ので、この4年間でさまざまな経験をし、本当にやりたいことを見つけようと思います。そして、その4年間に全日本選手権に出場することも目標です。テニスと勉強の両立はたいへんですが、両方できるのは“いま”しかないことですから、精一杯頑張りたいと思います。



堀内昌一
堀内

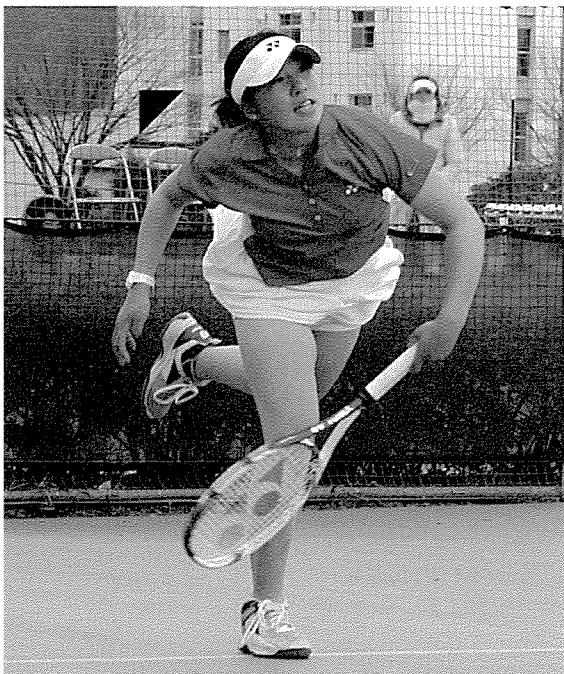


松本千広

上昇志向は高いのですが、まだ技術がついていません。フォアハンドが得意ですが、フラット過ぎてリスキーアイマは重たいスピンドルになるように指導しています。サウスポーですから、将来相当な武器になるはずです。サービスはグリップが厚くて、ダブルフォールトが多くたのですが、徐々に改善されつつあります。バックハンドは打点が遅く、振り遅れているので、いま一番の課題ですが、意欲的に改善に取り組んでいます。もともとダブルスが得意なので試合状況の把握は鋭く、戦術ももっています。負けず嫌いですから、いまの技術では“夢”に近づけないことは感じているはずです。目標をクリアする自力があるので、そこはこだわり、徹底的に基本を指導していかたいと思います。

私が亜細亜大学を選んだ理由は、大会で活躍している先輩方を見て、自分もそのようにプレーしたいと感じたこと、そして、テニスに一生懸命取り組める環境が亜細亜にはあると思ったからです。

大学に入って変わったと感じていることは、一人暮らしをするようになり、身の回りのことすべて自分でやらなければ



2003 Australian Open Review

亞細亞大学、メルボルンへ行く。

「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内をウロウロする日本人学生のグループがいた。全国でもトップクラスを誇る亞細亞大学テニス部のメンバー6人。彼らは世界最高峰グランドスラムを「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野徹
記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)



学校教育とクラブスポーツ、大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のために学校（日本的な記憶・暗記教育のことではある）は「害」であると指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求ることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と宣う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中にあってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスを無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要性がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亞細亞大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一步だったことだけは確かである。

選手とコーチに必要な目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森穎詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねいているのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできることはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけ就行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなって。あー、ここは実力世界なんだなと、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは1116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかつたが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかがサインアップしていいかなって思ったんです。引き気味でしたね。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかなる。それに、ここに自分が立っていたらと思いながら、試合を見ることができたのは大きかったんです」



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えない」と

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長の選手もいて、できないことはないと。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセントーコートに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですね」

北崎は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもウインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも覚えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのスタートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。

堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に返ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

北崎悦子(2年)

「雑誌とか見ていて夢の舞台だったのが、現実に観て気持ちの面では変わらないと感じた。(グランドスラムは)日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」

平良和己(2年)

「周りの雰囲気が違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」

宮崎靖雄(3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスクデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、"これで外国選手の重い球に負けないかな"などと言ったりしていた」

比嘉明人(2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もつと体とか強くないと戦えない」



卒業生、それぞれの道

→ プロへ — To a Professional

テニスを始めた頃からの夢、
グランドスラム出場を
叶えることができました

岡本聖子



私は高校時代に目立った戦績もなく、無我夢中でテニスを続けていました。そんな私に堀内監督が声をかけてくださったことがきっかけで、亞細亞大学に入学しました。

学生時代は、それまでに経験したことない「部活動」で周りにたくさん迷惑をかけました。ただ、部活という中で私はテニスを一番に考え、群れるわけではなく、その中で自分の意志をはっきりと持っていたことは良かった部分だと思っています。問題にぶつかったときにはみんなで試行錯誤しながらも真剣に考え、自分たちで結論を出すことによって、責任感も身につきました。

高校時代には個人競技として考えていたテニスが、大学に入ってから団体戦を経験し、ひとりで闘っているのではないという感覚は新しかったです。応援してもらえる喜び、みんなのために頑張る、チームのために必死で応援する、というサイクルは、団体競技でおかつ日頃生活をともにしていなければ、心からできるものではなく、私は大学テニスでその経験ができることが本当に良かったと思っています。

実のところ、つらかったことや苦しかったことはあったと思うのですが、いまはそれが全然

私は小学校高学年でテニスを始め、夙川学院中等部へ進学、同高校を卒業するまでの6年間、(高校では3年間の寮生活) 亞細亞大学での4年間、部活動でテニスを学びました。中学、高校ではテニスの上達を考えるよりも、顧問の先生や先輩方に怒られないことを一番に考え、休日はなし、「根性論」でひたすら走るという過酷な毎日を送っていました。先輩に理不尽に怒られては泣いて、同級生以外はすべて敵だと思いながらテニスをしていたくらいです(笑)。いま思い返せば、一生の友達と、誰にも負けない根性を身につけた6年間でした。

その後、「プロに負けない学生」という堀内監督の言葉に惹かれ、亞細亞大学に進学し、完璧な練習環境の中、全国から集まるレベルの高い仲間たちと出会い、そして恩師である堀内監督、OB・OGコーチからの温かい指導を受ける事ができました。

東京という私にとって未知な場所でありながらも、中高6年間の部活経験と新しいテニス環境が合致し、大学3年生のときにインカレで単複優勝、全日本選手権大会で単準優勝、

複ベスト4という結果を残すことができました。そして、私はこの結果をきっかけに、世界でプレーするプロたちを意識し始め、卒業を待ってプロ転向をしたのです。

高校時代の私には『部活』というと、「自由が奪われ、個性が出しにくい場」というイメージがありました。でも、亞細亞大学に入って部活でテニスをすることで、工夫や努力が身につき、本当に大切なを見つけ、自分の個性が確立されたように思えます。

テニスを始めた頃からの夢だったグランドスラム出場を叶えることができたのも、亞細亞大学をはじめ、支えてくださったみなさまのお陰だと思います。この亞細亞大学のテニスコートに、可能性を秘めた若い選手たちが来てくれることを、願っています。

おかもと・せいこ◎1978年3月14日生まれ。大阪府出身。夙川学院高校卒。95年インターハイ団体ベスト4、単ベスト8、複ベスト4。96年亞細亞大学へ入学、97、98年大学王座優勝、98年インカレ単複優勝。全日本準優勝。卒業後にプロ転向し、グランドスラムはダブルスで全豪2年連続、シングルスはすべての予選に出場した。全日本複8勝、WTAツアーデビューワン勝(浅越しのぶ)。WTA単最高位は178位(2006年1月)。2010年現役を引退し、現在は後輩の指導、プロ選手のサポート、テニスウェアの開発を行なっている

思い出せません。卒業して3年が経ちますが、いまこうしてテニスを続けていられることは、ひとりでできることではなく、たくさんの方々に支えていただいているおかげだと本当に感謝しています。

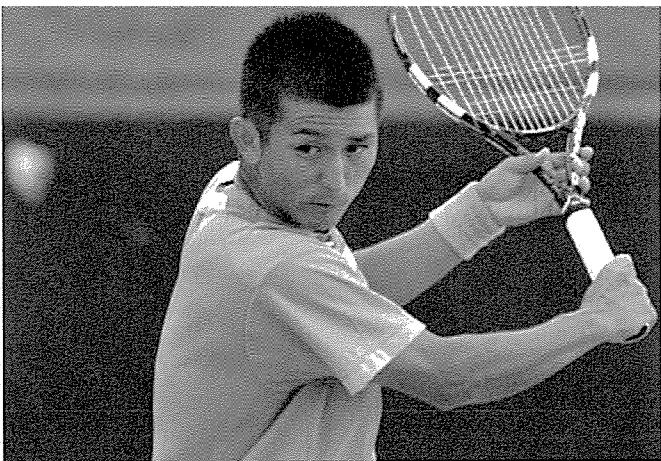
現在、大学からプロテニスプレーヤーを目指す選手が減っています。私はそういうを目指し方をしたひとりとして、大学テニスで培った経験をどこまで生かせるか、そのトライをする選手が増えてくれるこを期待しています。

スポーツは、人々に感動を与えたり与えてもらったりできる素敵なコミュニケーションの一つです。これから入学する高校生には、大学4年間でテニスというスポーツを通じて、新しい自分を発見し、社会の一員としての自覚を深めるとともに、一度きりの大学生活を楽しんでもらいたいです。頑張った分だけ自分に返ってきます。自分を信じて思いっきり——これが私の原点です。

みやざき・ゆうみ◎1986年10月31日生まれ。熊本県出身。ルーテル学院高卒。04年インターハイ3回戦。05年亞細亞大入学。08年春季関東学生優勝、インカレ・ベスト4、インカレ室内・準優勝、大学王座ベスト4。09年大学を卒業し、プロ転向。これまでのWTA最高位は540位(2011年12月)、現在654位(12年6月25日付)

宮崎優実
ASIA PARTNERSHIP FUND





比嘉明人

テニスユーバース

情熱ある監督の下、世界基準のテニスを目指してきました

私が亜細亜大学を選んだきっかけは、“世界基準のテニス”を目指している部活だと知ったからです。そして沖縄から上京し、ただ強くなりたいという思いで、毎日毎日必死に練習しました。振り回し練習で自分を追い込み、トレーニングでさらに追い込み、そんな生活をしていたと、だんだん体が大きくなってきて、試合で勝てるようになっていきました。

部活を通じて、たくさんの人と関わり合うことができました。全国各地から集まってきたプレーヤーたちと切磋琢磨した学生時代。個人の成績はインカレ・ベスト8が最高成績でした。リーグ戦では「誰かのために何かをする」という思いになれたことが、いまではかけがえのない財産です。宮崎靖雄さんのテニスに対する姿

自分にとっての学生生活4年間はとても充実したものでした。高校時代にはインターハイ1回戦負けだった私ですが、同期に全日本ジュニア・チャンピオンがいて、先輩にインカレ・チャンピオンがいるという環境は、とても刺激的でした。

大学入学当時の私は、同期の中でも下から數えたほうが早いランキングにいたので、みんなに何とか追いつき、追い越そうと、日々の練習やトレーニングを全力で頑張りました。堀内監督の指導はとても厳しかったのですが、その中には上達するためのヒントがたくさんあり、自分の性格を見抜いた上での指導に、監督の凄さを感じていました。

大学生活では、テニスが中心となります。学生として勉強をすることや、友達や先輩とのコミュニケーション、チームの一員として活動することによる責任感など、本当にたくさんのことが学べます。

最近、大会などで、高校を卒業し大学に進学せずに試合に出て、トップを目指して頑張っている選手がいます。自分の可能性に賭けて頑張っている姿はとても素晴らしいことで応援もしたい気持ちでいます。しかし、選手生活で学べることもたくさんありますが学生として色々なことを勉強しながら人間として成長し、それと

同時にテニスによって精神的に成長していくことで、よりバランスのとれた選択肢の多い人間になれるのではないかと自分では考えています。

インターハイの1回戦負けだった私を4年間で全日本テニス選手権のダブルスチャンピオンにまで育てられる指導者は今も変わらず、この亜細亜大学で指導をしてくれています。

これからも高い志を持った選手が新たな亜細亜大学テニス部の歴史をつくってくれることを亜細亜大学OBとして祈っていますし、微力ながらこれからもチームを応援していきたいと思っています。

勢に影響を受け、尊敬できる先輩と毎日プレーできること。すべての出会いが大きな財産になっています。

亜細亜大学というところは、テニスが強くなることだけを求めているところではありません。試合の勝ち負けは確かに重要ですが、それ以前に「人として正しいことをしているか」ということをよく堀内監督や森コーチに言われたのを思い出します。追求してきたものは、テニスだけではなく“人間力”もです。当時は、それがなんとなくしかわからていませんでしたが、卒業し、選手活動をして、いまに至って、ようやくわかってきたように思います。いまではその言葉を常に自分に問いかけるようにしています。

ここ亜細亜大学は、本気でテニスが強くなりたい人を待っています。情熱ある監督、コーチのもとで強くなれるチャンスがあります。意志のある人はぜひ亜細亜へ！

ひが・あきと©1982年6月6日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。00年インターハイ単ベスト4。01年亜細亜大学入学。03年夏季関東学生単準優勝、インカレ単ベスト8、インカレ室内単ベスト8。大学王座3位。04年春季関東学生単準優勝。05年大学を卒業し、プロ転向。現在に至る。ATP最高単1150位、複985位、JTA最高単28位、複14位



佐藤博康

プロテニスプレイヤー

さとう・ひろやす©1972年10月2日生まれ、東京都出身。浦和学院高校卒、89年インターハイ1回戦。90年亜細亜大学へ入学。90-93年夏季関東学生複3連覇、94年単優勝、94年インカレ単ベスト4、複準優勝、全日本テニス選手権複優勝（／駒田政史）。97年プロ転向し、現在に至る。全日本複タイトルは合計「5」、男子フェューチャーズ複タイトルは合計「7」獲得。ATP最高単865位（05年11月）、複413位（07年10月）

監督に言われてきました
選手たちに伝えながら、
世界にチャレンジしていきたい
「自分を信じ続けること」

JTAナショナルチーム・ナショナルコーチ
高田 充

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亞細亞大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいたしましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亞細亞でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考えのもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありますでしたが、それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で(ひとりだけ)敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に

「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんどない私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亞細亞大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する—言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亞細亞大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権複優勝。03年岩渕プロのツアー同行、03~06年杉山愛プロのツアー同行。03、04、07、08年とフェド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム・ナショナルコーチ(男子担当)。S級エリートコーチ

駒田政史
(竹内庭球研究所)
自らの決断で選んだ亞細亞大学、
間違つていませんでした

私が亞細亞大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた糸のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、“なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい”と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亞細亞大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亞細亞大学入りを決意させるのに時間はいりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行なっていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

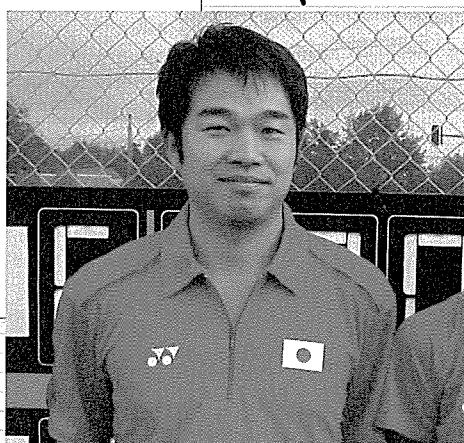
また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

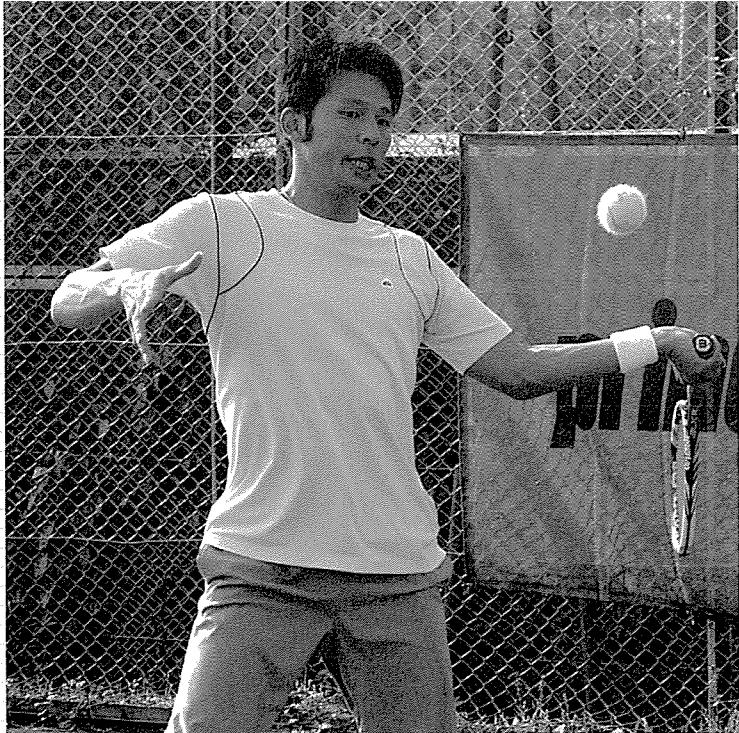
った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のときに全日本選手権で複優勝(佐藤博康)という結果を出し、ミキブルーンに就職きました。ミキブルーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできると思っています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亞細亞大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋高卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亞細亞大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキブルーン就職。ミキブルーンで選手活動を8年間行ない、JOP(現JTA)最高単9位。その後はコーチへ転身、現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ





宮崎靖雄

（筑波大学大学院在学中／亜細亜大学テニス部コーチ）

「自分に限界をつくるな」

監督の言葉は、いまでは私の一部となっています

私の亜細亜大学との出会いは中学3年のとき。堀内監督が私の出身地である熊本に、テニスの指導に来てくれたことがきっかけでした。当時、熊本県テニス協会は私が高校3年のときに行なわれる予定だった『熊本国体』に向けて、強化を図っていました。その中で協会が亜細亜大学に少年少女の競技力向上の要請をし、協力していただくことになったのです。

当時の熊本県のテニスは“全国レベル”とは言い難く、当然、私自身のテニスも全国レベルではありませんでした。全国大会に出場するためのエントリー方法さえ知らないという状況です。そんな環境の中で育ってきて、堀内監督の指導を受けたのですから、見るもの聞くものすべてが新しく、「亜細亜大へ練習に行きたい」「堀内監督の指導を受けてうまくなりたい」と思うのに時間はかかりませんでした。

中学3年の冬に東京に行き、亜細亜大の合宿に参加。およそ2ヶ月弱、大学生と同じ練習をさせていただきました。当時の亜細亜大は男女とも全国1位でしたから、先輩方にとっては私の存在は迷惑だったと思います。しかし私にとっては毎日が刺激的で楽しく、そのときの光景は昨日のことのように思い出されます。

高校生になると、休みのたびに練習に参加させていただくようになり、一方で堀内監督が熊本に出向いてくださり、指導していただくこともありました。そのような状況が続く中で、堀内監督の熱意が私の視野を世界へと向けさせてくれました。

熊本国体が終わっても、私の心中では「世界を目指したい。そのためには日本一の指導力を誇る亜細亜大に行きたい」という想いが募つていきました。進学を決めたのです。

振り返れば、私の学生時代はテニスに没頭した日々でした。さまざまな成功もありましたが、たくさんの失敗もありました。そのようなとき

指導者&大学院へ—

To a Leader & Graduate school

は監督の指導に救われています。指導者の言葉はときに人生を変える力をもらいます。私は堀内監督の言葉を今まで憶えています。

「どんなときでもさらに上のステージを目指せ」「自分に限界をつくるな」「何事にもチャレンジしろ」「テニスが強いだけでは意味がない」——これらの言葉は私の人間形成に大きく影響し、もはやそれは私の一部となりました。世間では『教育』に関するさまざまな問題がもちあがっています。私が考える教育問題において一番大事なことは、“尊敬できる教育者”に出会うことだと思います。私は、堀内監督は間違いなくそれに値する人だと思いますし、心から尊敬しています。

私は亜細亜大を卒業したあと、プロテニスプレーヤーとして活動し、世界を目指しました。海外転戦する生活の中で、あるときプレーヤーとしての自分ではなく、別の自分がこんなことを考え始めたのです。「海外と日本のスポーツ観の違い」「スポーツ生活者のスポーツを享受する能力の違い」「スポーツの価値に対する認識の違い」「なぜ日本のスポーツは多くの国民にとって身近な存在となり得ていないのか」「スポーツをさらに多くの人に余暇のひとつとして気軽に、平等に行なわれるものとするにはどのような経営がなされるべきか」などです。そのような疑問がやがて好奇心へと変わり、研究することを始めました。いまは、これまでとは違う形でテニス界に貢献していきたい——そう思うようになりました。『体育経営学研究』の道を歩んでいます。

現在は筑波大学大学院に通いながら、亜細亜大のコーチをしています。学生たちに対する技術指導はもちろんのこと、私がこれまで経験してきたことを彼らに伝え、活かしてもらえるように、それによってたくさんの可能性を秘めた社会人になってもらえるように日々指導にあたっています。

大学という場所は、社会人になる前の最後の教育の場です。現在、私が周りを見渡す限り、勉強とテニスの両面で、本気で取り組んでいる組織は数少ないと思っています。亜細亜大は、学生が本気でチャレンジできる場所です。この素晴らしい環境を活用して、有意義な学生時代を歩んでみたいと考えている高校生の入部を待っています。

みやざき・やすお◎1981年8月29日生まれ。熊本県出身。熊本マリスト学園高校卒。98年全国選抜室内ジュニア選手権優勝。99年ウインブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。00年亜細亜大学入学。02年全日本学生室内単優勝、複優勝。03、05年ユニアード代表(05年トルコで複ベスト8)。JTA最高位単17位、複16位。ATP最高位単790位(05年)、複829位(05年)。04年に大学を卒業、プロ転向し選手活動を続ける。現在は筑波大学大学院にて体育経営学を勉強する一方、亜細亜大で後進の指導にあたっている

テニスを通じて友達を得て、そして、
社会に出ていく土台をつくることができました

白華英
(国立長岡技術科学大学 大学院)

私は今まで“運動”という目的でテニスをしてきましたが、テニスをさらに突き詰めてみたいという思いから、“テニスを数値で分析する”という分野に興味をもち、大学院へ進みました。それまでの文系から理系へ、分野がまったく違ったため、最初は戸惑いましたが、時間が経つにつれ毎日が新しい発見で、とても刺激的で楽しく、充実したものとなりました。

大学時代は私にとって、社会に出るまでの土台づくりとなりました。大人の世界では「まあ、いっか！」で終わらせる事はできません。学年が上がるごとに重くなっていく責任は、辛いときもありましたが、いまとなってはその経験があったからこそ、いまの私の土台ができ、社会に出ていくことができたのだと思います。また大学という場所は、たくさんの人との出会いの場でもありました。中でも、テニスを通じて知り合った大学の先生には、大学院へ進学してからもとてもお世話になっています。そして何より、楽しいときも辛いときも、ともに乗り越えてきた大学時代の仲間とは、男女問わず今まで連絡を取り合っています。

高校生の皆さん、何かに熱中できる時間、学生である時間を大切にしてください。私の場合はテニスでしたが、どんなことでもいい、精一杯打ち込んだものは自分を支える土台になると私は思います。

はくはなえ ◎1987年9月26日生まれ。新潟県出身。新潟県立長岡高校卒。05年千葉インターハイ単2回戦。06年亞細亜大学国際関係学部入学。09年アジア女子ローンテニス部主将。10年に大学を卒業し、国立長岡技術科学大学大学院に進学



私は今年の春に亞細亜大学を卒業し、その後、日本体育大学大学院へ進学しました。大学院ではコーチング学を研究をしています。将来はテニスの指導者を目指しています。

以前から、大学を卒業したら指導者の道に進もうと思っていましたが、具体的な方法は決めかねていました。大学院進学という選択をした理由は、堀内監督の「大学院に行って勉強したらどうだ」のひと言が大きなきっかけとなり、

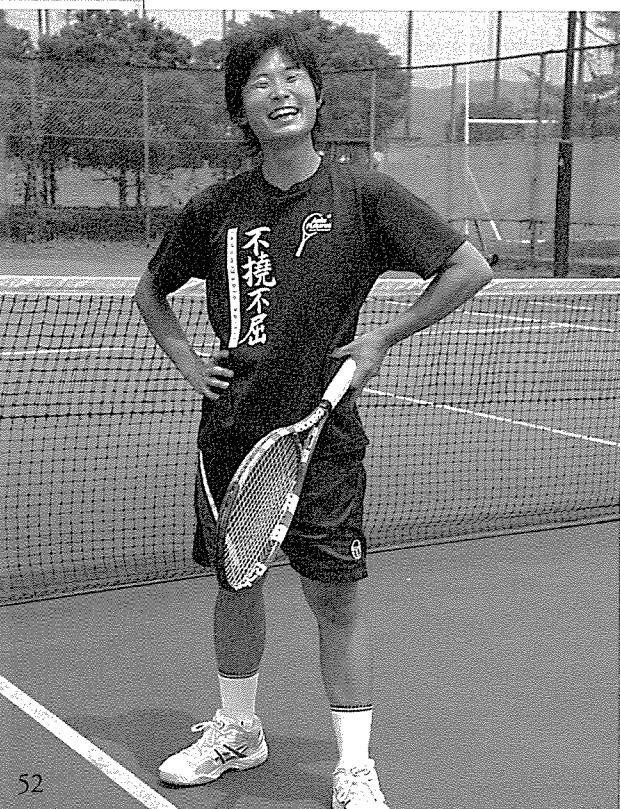
新たな勉強をしようという決断につながりました（結果的に監督と同じ道を進むことになりました）。

大学時代は、部活動を通じてたくさんのこと学びました。特に4年生のリーグ戦では、同学年や部員たちに助けられ、“仲間の大切さ”を改めて実感できました。また、部員それぞれに与えられた役職を行なうことは、自身を大きく成長させてくれるものだと気づきました。私の場合はフューチャーズ開催の際に、メディアチーフとして活動したことによって「責任感」と「達成感」を得ることにつながっています。

大学を卒業して思うことは、亞細亜には多くのチャンスがあり、自分次第でいくらでも可能性を伸ばすことができるということです。のために、なくてはならない指導者がいて、環境があります。私はその中でかけがえのない仲間を得て、かけがえのない経験ができました。ひとつひとつの出来事が、自分自身を成長させてくれるチャンスとなります。高校生のみなさんには、亞細亜でしか得ることのできないチャンスがあるということを伝えたいです。そのチャンスを自らの手でつかんで、充実した大学生活を過ごしてほしいと思います。

森嶋修
(日本体育大学 大学院)
アシスタントがあります

もりしま・おさむ ◎1989年4月29日生まれ。長野県出身、長野日本大学高校卒。08年亞細亜大学入学。2010、11年亞細亜大学国際オープンテニスのメディアチーフを担当。2011年は副将を務める。12年に大学を卒業し、日本体育大学大学院に在学中





中村聰利 (浦和学院高等学校)

偏差値よりも個性値を大切にすること
で、「個」を磨くことができました

10歳でラケットを初めて握ってから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝をすること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人でもでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亞細亜大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときには勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亞細亜という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ

方向を向き、本気で戦い抜いた準優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亞細亜で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方圓の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることこそが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これから社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にする大学で、自身も「個」を磨くことのできた亞細亜は、誇りの的もてる私の母校です。亞細亜の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亞細亜大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98~04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

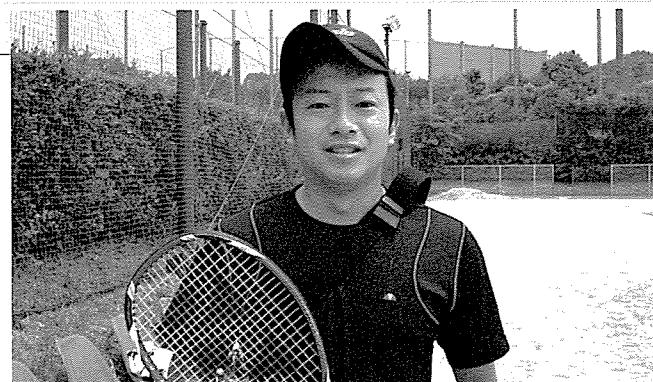
私が亞細亜大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征（ポルトガル）によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆さんに支えられて乗り越えることができました。

“責任”という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今まで自分でもうまくなるとか強くなると思っていましたが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、“協調する”ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常



に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見ると、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亞細亜には本気になる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るために最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亞細亜大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかたわら、テニス部顧問としても活動している

新谷啓 (大阪産業大学附属高等学校教師)

本気になれる環境で、感じてください

本当のテニスが追求できる環境で…自分の可能性を最大限引き出せる場所で…やるからにはトップで…そう思って私は亞細亜大学を選びました。

大学に入ってからのことを思い返してみると、最初に思い出すのは1年目の合宿です。慣れない環境で、周りは高校時代のトップ選手や強い先輩ばかり。毎日が不安で逃げ出したくなる日も多くありました。しかし思えば、あのときの経験がいまの自分を支えています。もしもあのとき逃げ出していたら、社会に適応できない弱い人間になっていたかもしれません。

高校生のみなさん、自分の可能性を信じて亞細亜でいろいろなことに挑戦してください。その挑戦が大きな力を与えてくれ、タフな大人へと成長させてくれるはずです。高い志をもった堀内監督、森コーチ、熱い仲間たちといろいろな価値観を共有するという経験は、いまの私の仕事、教師として生徒や部員を指導することに繋がっています。みなさんのこれから挑戦は、必ず将来へと繋がっています。

やまうち・としや◎1985年10月17日生まれ。高知県出身。高知高卒。02、03年全国選抜高校テニス大会団体出場。04年長崎インターハイ複ベスト16。05年亞細亜大学入学。06年春季関東学生出場。大学を卒業後、高知中学・高等学校に教師として就任し、現在に至る



(高知中・高等学校教師)

山内俊哉

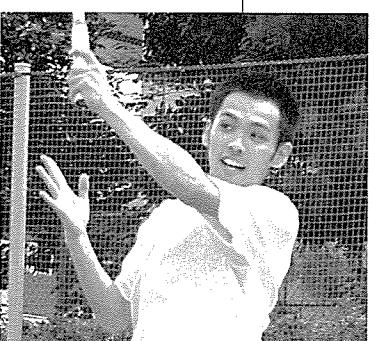
自分の可能性を信じて挑戦
タフな自分にきつとなれます

教師へ — To a Teacher —

大学3年の1月にオーストラリアン・オープンを観戦しに行きました。木陰で堀内監督と話をしているときに、何がきっかけかはわかりませんが「教師になれ」と言われ、思わず頷いてしまったのを憶えています。

中学の頃から部活でテニスを続けてきた私は、高校も大学もしっかりとした指導者のものと、トップで闘っているチームに所属したいと思っていました。だから亞細亜を選びました。亞細亜は「あり得ない」くらい上下関係が厳しく、当時は「あり得ない」と思ったこともましたが、それがいま社会に出て一番役立っていると感じています。チームで闘ったこと、喧嘩したこと、感動したこと、夜通し考えたこと、あの雰囲気あの場所すべてがいまに繋がっています。「応援すること」「支えること」はまさにいまの私の仕事。「可能性を感じること」「勇気を与えること」は、生徒の成長に繋がっていると実感できます。これから出会うまだ見ぬ生徒たちも、きっと私を成長させてくれるものと信じています。

えんどう・まりこ◎ 1983年7月11日 生まれ。埼玉県出身。浦和学院高等学校卒。01年熊本インターハイ団体ベスト16、複出場。全日本ジュニア18歳以下複ベスト16。02年亞細亜大学入学。05年インカレ複出場。06年大学卒業。社会科教員免許取得。07年日本体育大学で体育の教員免許を取得し、翌年、学校法人明星学園浦和学院高等学校の教師として就任し、現在に至る



(浦和学院高等学校教師)

遠藤真理子

まさにいまの私の仕事につながっています
「応援すること」「支えること」は、



細谷亮太
(水戸啓明高等学校教師)

自分が変わるために
目標を達成するために
私が亞細亞で学んだことです

「教師になる」——高校での3年間の部活を終えたあと、自分が学んできたことを後輩に伝えていきたいと思ったのがきっかけでした。その気持ちは大学4年間も変わることはなく、現在は、昼間は教壇に立ち、放課後はテニスコートに立っています。

教師としてはまだまだの私ですが、生徒の3年間、あるいはその先の将来を担っているという意識をもち、日々充実した生活を送っています。私の指導の軸は「目標を立てたら、達成するために自分が変わる」ということです。目標を変えることは簡単ですが、それでは自分はいつまでたってもそのままです。「自分が変わる=成長する」ということを教室でもコートでも意識して伝えています。このことは私が亞細亞で学んだことであり、この志があったからこそ、私はいま教壇に立てていると自負しています。

「百聞は一見に如かず、一見は一体験に如かず」、私の好きな言葉です。高校生のみなさんは最初の一歩を踏み出し、自分で経験してみてください。そしてテニスを通して人として大きく成長してください。

ほそや・りょうう◎1988年4月12日生まれ。茨城県出身。霞ヶ浦高校卒。06年インターハイ3回戦。07年亞細亞大学入学。10年亞細亞大学国際オープンテニス・アシスタントディレクター。11年に大学を卒業し、都内の小学校に非常勤勤務。その後、12年水戸啓明高校国語教員として勤務、現在に至る



平良和己

(沖縄尚学高等学校)

高校時代に歯が立たなかつた
間違いなかつたと思いまし

6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け——どうしてもっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも誘われましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ！」と感じて亞細亞の門を叩きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、今までにない充実感を覚え、毎日テニスコートを走り回り、自分なりに限界を目指していました。そんな中で高校時代にはまったく歯が立たなかつた選手に関東学生で勝ったとき、

亞細亞を選んで間違いなかつたと感じました。リーグ戦、大学王座という今まで味わったことのないプレッシャーの中での試合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であれほどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亞細亞のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、今までの経験を地元で伝えられたらと思うようになったのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亞細亞での経験が、教師となつたいまの私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亞細亞はそれができる場所です。目標があるなら、私は亞細亞を選んでほしいといいます。

たいら・かずみ◎1982年6月29日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。インターハイ団体ベスト8。01年亞細亞大学入学。04年新進ベスト4、春関東ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任、現在に至る

私はテニスが大好きで、もっと上くなりたいという一心で亞細亞大学に入りました。大学生活でまず感じたことは「自由」があるということです。自由というのは一見良い言葉に聞こえますが、一步間違えると道を踏み外してしまうことになります。私は自由であるからこそできる部分を生かして、自分の決めた道をはずさないように、4年間を過ごしてきました。

部活動では、自主的に取り組む大切さ、チームで協力することの大切さを学びました。特に4年間苦楽とともにしてきた同級生たちとは、いまでも連絡を取り合っています。信頼できる本当の仲間と出会えたのも、この亞細亞という環境があり、どんな逆境も皆で協力し合って乗り越えてきたからこそだと感じています。

また、最後までやりきるという力を身につくことができたと思います。この力があるからこそ、社会人になり、仕事に生かすことができていると思います。いまになってですが、改めて大学4年間を亞細亞のテニス部で部活動をやってきて本当に良かったです。

私が教師の道を進んだのは4年生になり、就職をどうしようか迷っていたころ、教育実習に行き、普段味わえないような感動を味わったこ



とがきっかけでした。教師になつたいま、何よりもまず毎日が楽しいです。そして毎日が刺激的で、良いようにも悪いようにも自分の心が生徒に動かされています。日々変化する子供たち、その変化に毎日、目の当たりにできるということは教師でないと味わえないのではないかと思っています。この仕事に出会えて本当に良かったと思っています。

おかもやし・ようこ◎1988年12月22日生まれ。京都府出身。富士見丘高卒。05年インターハイ団体ベスト8。07年亞細亞大学入学。10年春季関東学生出場、11年に大学を卒業し、立命館中学・高等学校の教師に就任、現在に至る

岡林陽子

(立命館高等学校教師)

大学で身につけた
最後までやりきる力が、
いまの仕事に生きています

あきらめずには頑張れば報われるといふことを、身をもつて経験できました

(伊藤忠商事株式会社)

三上英知

私は一般入試で亜細亜大学に入ったので、入部当初は、自分のレベルが周りの同期、先輩とかけ離れており、やっていけるのかと不安に感じたのを憶えています。それでも自分を信じ、とにかく、毎日必死にボールを追いかけていました。途中、ケガなどもありましたが、堀内監督を信じ、あきらめずに4年間頑張った結果、入学当初は想像もしなかった成績を収められ、本当に良い経験となりました。

ありきたりですが、あきらめずに頑張れば報われるということを、身をもつて経験できたこと、主将をやらせてもらい、人をまとめるこ



大学時代に得た経験は、良くも悪くもその後の自分の価値観などに強く影響しているということに気づかれます。好奇心さえあれば、およそほとんどのことに挑戦でき、没頭できます。この時間は非常に貴重な時間だったとも強く感じます。卒業後にアメリカの大学院に進もうと思ったのも、きっかけは、夏休みに参加したアメリカ遠征でした。

大学時代の振り返りに関して付け加えるなら、監督、両親はじめ、若さゆえに迷惑をかけてしまつたいろいろな方々への懺悔の気持ちでしょうか。

私は当時のチームメイトと比べるとさほど戦績もなく、いわゆる“普通の人”だったため、裏方にまわることが多かったです。ただそのおかげで、部活動を過ごす中で選手としてプレーすることの喜びや辛さとともに、人を支えていくことの苦労や楽しさも知ることができたと感じています。そのバランスを身につけられたことは、いまの仕事においても通じるものがあり、あの経験が生かされているのだと思います。

最後に、高校生へお伝えしたいことがあります。

大学4年間は長いようで短い——本当に短い

との難しさを勉強させていただきました。両方の経験がいまの人生に生きています。

楽しかったことと言えば、何と言っても素晴らしい同期と出会え、いっしょに時間を共有できたことです。ほとんど兄弟のように365日いっしょにいました。反対につらかったことは、毎日でしたが(笑)、それくらい必死に練習していましたと思います。やはり4年のときに部の運営をしていて、なかなか全員が同じ方向を向いてくれなかったときはつらかったです。でもそれもいまとなっては良い思い出です。

亜細亜大学テニス部は、素晴らしい練習環境の下、テニスの大幅なスキルアップが図れるることは間違いないし、同時に、人間力を磨ける本当に素晴らしいチームだと自負しています。ぜひ入部して自分を試してみてください。

みかみ・えいち◎1970年9月18日生まれ。静岡県出身。静岡聖光学院高等学校卒。89年亜細亜大学入学。91、92年春季関東学生複ベスト8、インカレ複ベスト32、91年全日本テニス選手権出場、92年全日本学生室内複出場。93年大学卒業後、伊藤忠商事株式会社、建設部門に配属。その後、食品流通部門へ異動し、ファミリーマート事業に携わる。06年より5年間、中国広州市へ海外駐在。駐在中もテニスを通じ日中交流を楽しむ。帰国後は、駐在の経験を生かし中国を担当

谷泰仁

(アメリカスポーツジャパン株式会社)

ものです。その期間に、人として成長できる場所に身を置くことを躊躇わないでください。亜細亜大学テニス部の環境の素晴らしさは申し分なく、堀内監督はじめ、コーチ陣や先輩も、みなさんの気持ちに対して正面から接してくれます。モチベーションさえあれば、確実に成長できる場所であると自信をもって言えます。そしてフューチャーズ運営やクリニックなど、多くの「人」と繋がることができるのも亜細亜大学テニス部の素晴らしいところです。その環境の中で切磋琢磨し、“悩む”“喜ぶ”を繰り返し、大学生活を一生の財産にしてください。

たに・やすひと◎1979年10月17日生まれ。静岡県出身。静岡県立清水東高校卒。97年京都インターハイシングルベスト32。97年なみはや国体少年の部5位。01年夏季関東学生複ベスト4。00年&01年インカレ単複出場。卒業後、06年アーリンバード州立大学大学院 マスクミュニケーション学部修士号取得。10年からアメリカスポーツジャパン株式会社(wilson)マーケティング部に所属。市場調査、商品開発、アメリカ本社や工場との折衝、販売戦略企画、営業、広告作成など様々な業務に従事



津久萌

（株式会社リコー）

亜細亞大学での4年間のおかげで、何の違和感もなく会社で働くことができました

ただただ、テニスに夢中でした。夢中というより『必死』という言葉の方が適切かもしません。ナイター付きのコートに、トレーニングセンター、広い芝生が揃ったとことんやれる環境の中で、先輩の背中を見ながら、先生の知識を盗みながら、とにかくひたすらテニスに打ち込みました。

苦手だったサービスとフォアハンドは、フォームの改善から取り組み、走れる体をつくって、団体戦の醍醐味も味わうことができ、非常に充実した4年間だったと思います。しかし社会人6年目になつたいま、「私にとっての4年間は何だったか」と自問自答したとき、やはり「社会に出るための準備期間」だったと即答すると思います。

学生時代は正直、やっていることに意味があるかないかなんて考えてもいませんでした。何か終える毎に書かされる報告書やレポート、電話をかける際のはじめの挨拶、メール作成の際の定型冒頭文、クリニックや国際大会の運営……社会人になって初めて、これらが全て組織の中で活動していくうえでの義務やマナーに繋がると知りました。

例えば営業職に就いた場合、活動日報の入力や、商談進捗の報告や共有は当たり前のことですし、お客様への対応ひとつにしても、学生時代に身につけた習慣がそのまま現場で生かされました。

学生時代、「報・連・相」は必ずひとつ上の



先輩にしなくてはならず、年次を飛ばしてはいけないことに疑問をもつたりもしていましたが、企業の組織の中でリーダー→部長→事業部長と順を追っての「報・連・相」は基本です。また社内外問わず必要なコミュニケーション能力も向上しました。

このように、亜細亞大学での4年間のおかげで、何の違和感もなく会社で働くことができました。ここにはテニスをする上での素晴らしい環境が整っています。それだけではなく、社会に出ていく準備ができる環境もあるということをみなさんにお伝えしたいと思い、筆をとらせていただきました。みなさんのこれからのご活躍を心よりお祈りしています。



03年、関東リーグで7度目のアベック優勝

つぶく・もえ ©1985年1月24日生まれ。山口県出身。共栄学園高校卒。朝日生命久我山SC出身。01年全日本ジュニア16歳以下単優勝。03年亜細亞大入学。06年大学王座準優勝、全日本学生室内複優勝。大学卒業後、07年株式会社リコーに入社。10年全国実業団リーグ3位。現在は引退し、社業に専念

亜細亞大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬 / パイオニア / 松下電工 / NEC / 三井海上火災保険 / パナソニック / 豊田自動織機 / 朝日生命保険 / 大沢商会 / セコム / 伊藤忠商事 / ゼネラル石油 / ヤナセ / ワールド / 東芝 / 島津製作所 / NTT東京 / 日本鋪道NIPPO / 北日本物産 / NTT北海道 / 福岡銀行 / 日本生命 / 平和堂貿易 / 東急百貨店 / 松下通信工業 / 大東銀行 / アイシン精機 / 山陽新聞 / ディスコ / 野村証券 / ヨネックス / みずほ銀行 / レオパレス21 / 常盤薬品 / ANA / プリンスホテル / 警視庁 / 神奈川県警察 / JR北海道 / トヨタ自動車 / ブリヂストンスポーツ / アメア スポーツ ジャパン / イカイ / KONAMI / JA山梨

就職ガイダンス

卒業・就職までのスケジュール

1年 働く意味を知り、
なりたい自分を見つける

2年 自分の強み、興味、
関心を仕事に向ける

キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

● キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

● 就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

● キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

● 職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

キャリア・就職支援プログラム

● 個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとりになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

● グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらいます。

● キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

● 卒業生との語らい

亜細亜大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えてもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

● 業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

資格取得支援および各種講座も多数あり

公務員試験講座
[1講座6コース]

民間企業就職試験講座
[1講座2コース]

資格取得講座
[10講座15コース]

TOEICテスト対策講座
[1講座16コース]

語学会話講座
[3講座15コース]

福祉関係講座
[3講座6コース]

専門課程

① 教職課程 社会科、英語科 (国際関係学部のみ)

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

② 図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亞細亞大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。

自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。

3年 自分の適正を見極め、
目指す業界、
職種を絞り込む

4年 就職活動本番!
自信を持って選考へ

就職支援ガイドンス

●自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。

Hop

キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

●業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

●いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

Jump

インターンシップ体験

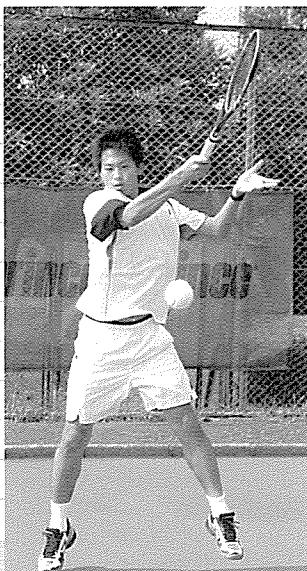
2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

→「部活と両立～教職課程を履修しています！」

佐藤俊介（国際関係学部国際関係学科2年）

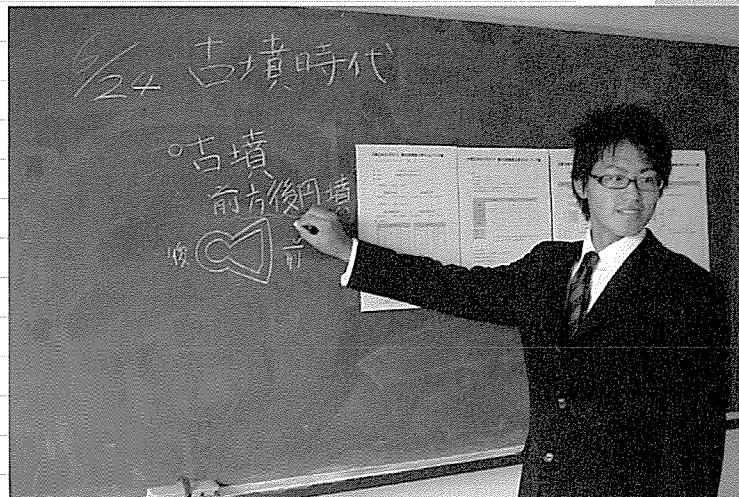
現在、社会科の教職課程を履修しています。将来は教師になり、地元・三重の高校でテニス部の顧問をするのが夢です。

教職課程では、通常の124単位の他に約40単位を取得しなければなりません。部活と教職の履修を両立することは大変ですが、大変だからこそやりがいを感じています。卒業までの授業計画、部活計画をしっかりと立て、教育免許獲得を目指しています。



授業内容は選んだ専門課程にもよりますが、多人数でディスカッションをするものから、生徒自身が教師役となり30分の授業をするものなどもあって多彩です。このような授業は受け身の授業とは違った刺激があって、非常に興味深いものとなります。

4年次には母校に



戻り教育実習を行なう予定です。実際に生徒を前にしての授業は、自分を試す重要な機会となるので、そのときを無駄にしないようにいまからしっかり準備をしておきたいと思っています。そして、そのときの経験を必ず自分の力にしたいです。教育実習期間中には、テニス部の部活にも参加して後輩たちを指導したいと思っています。日々テニスと勉強を両立し、胸をはって母校に戻れるようにしたいです。

私たち亞細亞大学が“国際大会”を開催するには意味がある

レポート◎渡邊芽衣
(国際関係学部国際関係学科4年)

2012年国際大会開催レポート

男子 亞細亞大学
国際オープンテニス予選〇3月10-12日、本戦〇3月13-18日/
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル女子 亞細亞大学
国際女子オープンテニス予選〇3月24-26日、本戦〇3月27-4月1日/
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル

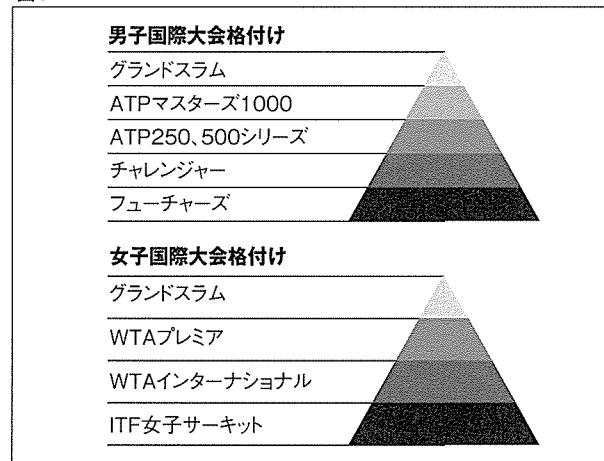
はじめに

本学主催の男子国際大会は、今年で6回目を数えます。今年は新たに、念願だった女子の国際大会も初開催することができ、本当にうれしい限りです。昨年度は、東日本大震災の影響により、予選をスタートしたものの、途中で中止を決断、開催を見送ることとなりましたが、今年はたくさんの方々のご協力を得て、無事に全日程を終了することができました。

私たちはこの大会を——『若い選手にチャンスを』——という思いで開催しています。このような国際大会を国内で開催する利点、継続が必要な理由、そして私たち大学生が開催する意義などをここに記し、読んでくださったみなさまに、少しでもご理解いただければ幸いです。



図1

表1 2011年男子
フューチャーズ大会数上位国

順位	国	大会数
1	スペイン	40
2	ブラジル	35
2	トルコ	35
4	アメリカ	31
5	イタリア	30
6	アルゼンチン	21
7	フランス	20
8	ドイツ	17
8	イギリス	17
8	メキシコ	17
(21位)	日本	4

※東日本再震災の影響により、大会数が大幅減少

表2 2011年男子
世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	アメリカ	125
2	フランス	114
3	アルゼンチン	108
4	イタリア	102
5	ドイツ	101
6	スペイン	96
7	ブラジル	84
8	ロシア	66
9	オーストラリア	63
10	イギリス	50
—	日本	42

国内で国際大会を開催する意味

私たちが開催する「男子フューチャーズ」「女子サーキット」と呼ばれる大会は、国際大会です。図1をご覧ください。両大会は、世界各国で開催されている数ある国際大会の中で、一番底辺に位置するものです。テニスプレーヤーが世界をめざし、世界の頂点へと羽ばたくための第一歩、または、登竜門となる大会です。現在、活躍する多くのトッププレーヤーたちは、まさにこの大会を経て、成長してきました。

次に、この大会がどれだけ重要であるかを知りたいと思います。表1と表2をご覧ください。表1は2011年に開催された男子フューチャーズを数え、もっとも多く大会を開催した順に並べた表です。次に表2は、男子世界ランカー数を国別に数えたものです。

両者を比べるとよくわかりますが、上から順に見ていくと多少の順序の前後こそあれ、出てくる国名がほぼ同じであることがわかります。つまり、男子フューチャーズの大会数が多い国ほど、世界ランカー数も多いということがわかります。大会数が多い国は、選手が自国にいながら多くの大会に参戦することができ、世界ポイントを獲得できるチャンスがたくさんあるということです。ポイントを獲得したのちに次のステージ（チャレンジャー大会）へと進む、ステップアップがしやすくなります。

大会数が少ない日本の現状

では、日本にはその登竜門大会「男子フューチャーズ」がいくつあるのでしょうか。

表3は今年を含め、過去7年間、日本で行なわれた男子フューチャーズの数を記したものです。2006年以降、世界ランカーの数こそ減らしていませんが、大会数がだんだん減少しています（昨年は、東日本大震災の影響で大幅に減少しています）。

今年はどうにか9大会は開催される予定です。日本は島国ですから、大会数が少ないからといって、アメリカやヨーロッパ各国のように気軽に隣りの国へ行ける環境はありません。これから世界を目指そうとする若い選手たちにとって、海外に行くということは、学業を含めた環境的に考えても、金銭的に考えても、とても難しいことと思われます。だからこそ、国内でフューチャーズを開催するということにつながるのです。それこそが、若い選手たちにチャンスをつくり、その選手たちを育て、世界ランカー数を増やすことにつながるのではないかでしょうか。

表3
国内男子フューチャーズ7年間の推移

年	国内大会数	ATPランカー数
2006	12	39
2007	11	38
2008	11	41
2009	9	39
2010	10	45
2011	4	42
2012	9	48

※注:2012年7月現在。

表4
2011年女子
サーキット大会数上位国

順位	国	大会数
1	トルコ	42
2	アメリカ	40
3	スペイン	37
4	イタリア	31
5	フランス	24
5	ブラジル	24
7	日本	17
7	イギリス	17
9	オーストラリア	14
10	アルゼンチン	13

表5
2011年女子
世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	アメリカ	116
2	ロシア	102
3	イタリア	81
4	フランス	70
5	日本	67
6	ドイツ	54
7	中国	49
8	スペイン	43
9	チェコ	40
9	オーストラリア	40

大会数が多いと世界ランカー数も多くなる

ところで、ここまででは男子を中心に解説しましたが、女子はどうでしょうか。表4は「2011年女子サーキット大会数上位国」、表5は「女子世界ランカー数上位国」です。日本は大会数において世界7位で、ランカー数を見ても世界5位に入っています。やはり大会数が多いほどランカー数も多くなることを示しています。ちなみに、日本よりも上位にいる各国を見てみると、ランカー数が日本の2倍いるアメリカは、大会数も2倍あります。やはりもっと大会数を増やすことが、



日本のランカー数を増やし、日本全体のテニスを強くしていくことにつながると私たちは考えます。

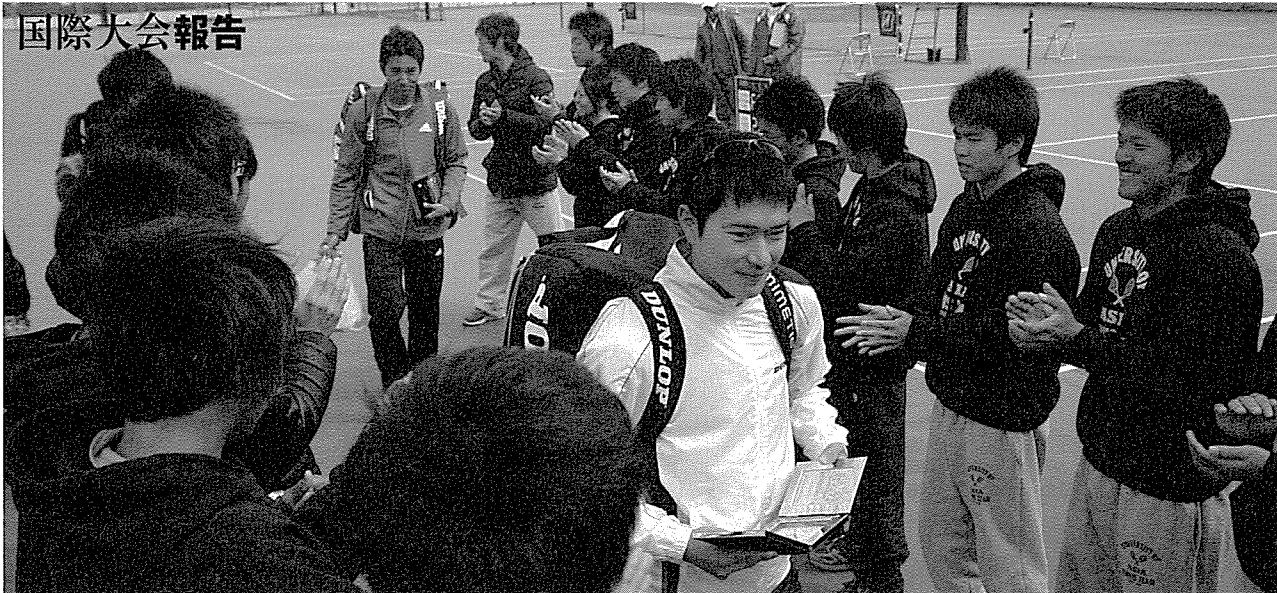
なぜ大会が増えないのか

ここまでの中は、すでにさまざまな場所で議論されてきたことだと思いますが、ではなぜ、その大会数がなかなか増えないのでしょうか。

もう一度、表3を見てください。この表は2006年以降に、日本で行なわれた男子フューチャーズの大会数と世界ランカー数を示したものです。06年12大会、07、08年各11大会、09年9大会、10年10大会、（2011年は東日本大震災の影響で4大会）が開催され、今年は7月現在9大会の開催が予定されています。決して増えてはいない現状です。

大会数が増えない原因のひとつとして考えられることは、資金問題が大きいと思います。男子フューチャーズを1大会開催するためには、賞金総額1万ドル大会の場合、その4~5倍のお金が必要と考えられています。不況と言われるいま、その資金を調達して大会を増やすことがいかに難しいかは想像できます。





大学は少ない資金で大会が開催できる

その中で私たち亜細亜大学が大会を開催できる理由は、いくつかあります。まず、大学で大会を開催すると、テニスコート代がかかりません。それから、部員たちが大会運営を行なうので人件費もかかりません。つまり少ない資金で大会が開催できます。大学が主催する国際大会というものは、今後、国内に国際大会を増設する際の大きな鍵になってくると思います。

男子フューチャーズに対して、女子サーフィットはどうでしょうか。

前述したように（表4、5参照）、日本は大会数、世界ランカー数ともに世界にひけをとらない数を誇っています。しかし、今度は表6をご覧ください。これは日本で行なわれた女子サーフィットの大会数と世界ランカー数を示したものです。女子は男子に比べて国内大会数が約2倍あります。その一方で、世界ランカー数の推移を見ていくと、06年には世界ラ

ンカーが80人いたのに対して、07年には53人まで減少。その後も、06年の数字には届いていません。これはいったいなぜなのでしょうか。

これは、06年以降、WTA（世界女子テニス連盟）でルール改正があり、賞金総額2.5万ドル大会は、予選に出場しても勝ち上がらなければポイントが得られなくなったことが原因と考えられます。そのため国内では2.5万ドル大会を増設して、継続的にポイントが獲得できるような仕組みをつくっているのですが、その一方で、登竜門である1万ドル大会の増設、あるいはよりグレードの高い大会の増設があと回しになっています。1万ドル大会（女子サーフィット）がなければ、その上の2.5万ドル大会に出場することも難しくなってしまいます。だからこそ、私たちが1万ドル大会を開催することには大きな意義があると考えます。

国内で国際大会を開催する メリットとデメリット

国内で国際大会を開催するという意義はおわかりいただけたと思います。次に解説したいのは、国際大会を開催するにあたって生じる、メリットとデメリットについてです。

まずメリットは、日本人選手にとって普段の慣れた環境の中で試合を行なうことにより、最高のコンディションをつくりやすいということです。また、遠征活動において、もっとも大きな問題のひとつとなる資金問題も、国内であればそれほど心配する必要がなくなります。それから、いままでは海外に行かないといントリーできなかった試合が、国内で開催されることにより、たいへん身近に感じることができます。海外の選手が日本にやって来てくれます。これは日本人選手のテニスの向上と活躍の可能性を大きくする効果があります。それから、もうひとつメリットを挙げたいと思います。それは地域の活性化です。国際大会開催とともにさまざまなイベントを開催することにより、地域内外から観客を集め、交流の場をつくるとともに、大会会場の近隣施設へと観客を誘導することもでき、地域活性化へ繋げることができます。

では反対に、国内で国際大会を開催するデメリットは何で

表6
国内女子サーフィット7年間の推移

年	国内大会数	10万ドル	7.5万ドル	5万ドル	2.5万ドル	1万ドル	ATPランカー数
2006	18			3	10	5	80
2007	19			3	10	6	53
2008	18		1	4	8	5	54
2009	21	1	1	3	8	8	54
2010	20	1	1	3	6	9	58
2011	16		1	3	7	5	65
2012	14	—	1	3	4	6	67

※注:2012年7月現在。

表7
男子フューチャーズ
本戦出場選手平均年齢比較

年度	日本人	外国人
2007	23.9歳	23歳
2008	25.8歳	21.5歳
2009	23.2歳	23.2歳
2010	23.4歳	21.6歳
2011	23.2歳	21.1歳
2012	21.5歳	21.1歳

※注:日本人はF1亜細亜大学国際オープンで調査。



しょうか。それは国際大会の「身近化」です。これはメリットでもあり、デメリットもあります。なぜなら、国際大会が日本で行なわると、選手がわざわざ海外に行く必要がないと考え、海外遠征が減ってしまう可能性があるからです。

確かに国内であれば費用もそれほどかかりずに試合を行なえます。しかし、新しい環境での刺激や不慣れな場所への適応能力など、海外遠征でしか得られない貴重な経験があることも事実です。

のことから、国内での国際大会を増やすと同時に、国内でポイントを獲得した後は、積極的に海外へ挑戦していくことが大切であると考えます。また、海外へ行くことの重要性を選手だけが理解するのではなく、周囲の方々も理解することが、また大切であると考えます。

私たちは若い選手たちに、国内でポイントを獲得した後は、ぜひ海外の大会にチャレンジして、「また一歩、ステップアップして欲しい！」、そう望んでいます。

亜細亜大学国際大会——6年目の変化

今年、私たちが開催した亜細亜大学国際オープン（男子フューチャーズ）は、過去数年と比べて新しい変化がみられました。それは出場選手の「平均年齢」の変化です。

表7を見てください。これは、亜細亜大学国際オープンが始まった07年から12年までの本戦出場選手の平均年齢を「日本人」「外国人」と分けて比較したものになります。全体的に見ると、外国人選手の方が平均年齢が低く、日本人選手の平均年齢が高いことがわかります。なぜ日本人選手の平均年齢が高いのか、その理由のひとつには国土的なことが考えられます。海外は、自国開催大会数も圧倒的に多い上、隣国と陸続きで海外トーナメントに出場しやすいという環境があります。また、身体的な問題もあります。日本人は外国人に比べて、身体が成熟するのが遅く、成人後も体格差があるため、技術や体力の差を埋めるのに時間がかかってしまいます。それから、もうひとつの問題が、予選ドロー数にあると考えます。日本の男子フューチャーズのドロー数は、64ドローの

大会が多くなってきていますが、まだ32ドローの大会もあり、一方で、海外のフューチャーズでは、コート数が多く、それにともないドロー数も128ドローなど、より多くの選手に出場機会が与えられているのです。

ここでもう一度、2012年大会の平均年齢に注目しましょう（表7）。2011年以前の出場選手の「平均年齢」は、日本人選手よりも圧倒的に外国人選手の方が若いのですが、2012年大会では、日本人選手が21.5歳、外国人選手が21.1歳とその差がわずかになりました。なぜ今回、このように平均年齢が下がる結果となったのでしょうか。それは、近年稀に見ぬ錦織圭選手を筆頭とした若手選手の活躍により、それに続こうとするさらに若い選手たちが、「自分もできるかもしれない」という希望をもち、世界の登竜門大会へ挑戦するようになったためではないかと考えています。

今大会も、若手選手が活躍する結果となりました。男子大会で優勝した内山靖崇選手は19歳、ベスト4の田川翔太選手（早稲田大学3年）は20歳、その他にも大学生選手の活躍が多く見られました。これまで亜細亜大学は男子フューチャーズを6年間開催してきましたが、そこが多くの若い選手たちの活躍の場のひとつとなつたことが確認できたいま、私たちはこの大会を継続させないわけにはいきません。

まとめ

日本のテニス競技がより発展するためには、男子フューチャーズや女子サーキットの大会数を増やすこと、そして継続させていくことが大切です。しかし、現実には資金面などの問題が大きく、大会数がなかなか増えずに、廃止されてしまう大会があることも事実です。

そこで、テニスコートが確保でき、スタッフも部員でまかなえ、人件費のかからない大学で大会をつくり、運営することがより重要になってくると思います。私たち亜細亜大学テニス部は、日本のテニス界がより発展するように、国際大会を開催することによって若い選手たちに出場機会をつくり、そして私たち自身の競技力向上にもつなげていきたいと思います。

私たちはこの大会を必要とする選手がいる限り、継続していくと願っています。大会を支えてくださる、多くのスポンサーの皆様、サポートーの皆様、そして地域の皆様には、温かいご支援、ご声援をいただき本当にありがとうございます。この場を借りて心よりお礼申し上げます。今後とも『亜細亜大学国際オープンテニス』ならびに亜細亜大学テニス部をどうぞよろしくお願いいたします。



2012亞細亞大學國際オープンテニス 男子シングルス予選 SINGLES



Japan F1 Men's Futures

0

QUALIFYING DRAW

Week of

City, Country

Prize Money US\$

Tourn. ID

ITF Supervisor/Referee

3/14/11

0

\$10000

Gary Au-Yeung 0

St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Finals	Qualifiers
1	984	OUYANG, Bowen		O, Bowen	中国			
2		高橋 優		NTT東日本東京	6-0, 6-0	O.Bowen		
3	WC	濱中 重宏		明治大学	6-4, 6-4			
4		Li, Zeng		中国	6-1, 6-1			
5		QUEIHL, Edward Louis		アメリカ	O, Edward			
6	1604	竹島 駿朗		日本大学	7-5, 6-1	D. Edward		
7		FENG, He		中国	藤井 信太	7-6(5), 6-3		
8	1345	藤井 信太		Fテニス	6-4, 3-6, 7-6 (7)			
9	991	松永 浩氣		三菱電機	松永 浩氣			
10	1527	小野田 賢		青山学院大学	6-1, 6-1	松永 浩氣		
11	w c	林 倫正		亞細亞大学	齊藤 秀	7-6(5), 6-0		
12		齊藤 秀		荏原SSC	6-3, 6-0			
13		綿貫 裕介		ライフ・エヌ・ピー	綿貫 裕介			
14		志賀 正人		慶應義塾大学	6-4, 6-1	綿貫 裕介		
15		ASSUNCAO, Fabio		ブラジル	井上 悠牙	6-4, 7-6(4)		
16	1286	井上 悠牙		慶應義塾大学	6-3, 1-6, 1-6			
17	1020	WANG, Chuhan		中国	笹井 正樹			
18		笹井 正樹		法政大学	7-5, 4-6, 6-4	笹井 正樹		
19	w c	小堺 遠馬		亞細亞大学	井原 力	7-5, 6-2		
20	w c	井原 力		亞細亞大学	6-1, 6-1			
21		LI, Jia		中国	佐藤 博康			
22		佐藤 博康		コサナ	6-3, 6-3	佐藤 博康		
23		松田 隼士		法政大学	6-3, 6-4	6-3, 6-4		
24	1439	福田 勝志		ASIPARTNERSHIPFUND	6-4, 7-5			
25	1041	NUGENT, Terence		コートジボアール	N, Terence			
26		上原 伊織		甲南高校	5-7, 6-4, 6-3	N.Terence		
27		湯原 雅人		Fテニス	大城 光	6-4, 2-6, 7-5		
28		大城 光		ニューワールドTC	6-3, 7-5	長谷川 祐一		
29	1527	松原 ダニエル		ブラジル	松原 ダニエル	6-2, 6-2		
30		ロング武和		立川ジュニアアカデミー	6-0, 6-1	長谷川 祐一		
31		長谷川 祐一		慶應義塾大学	長谷川 祐一	7-6(3), 6-7(2), 6-1		
32	1224	喜多 文明		エキスパートパワーシズオカ	6-2, 2-6, 6-2			
33	1046	NAM, Ji Sung		韓国	宮崎 雅俊			
34	1685	宮崎 雅俊		ライフ・エヌ・ピー	6-4, 6-3	宮崎 雅俊		
35		梶下 怜紀		TENSION	一藤木 良平	4-6, 6-1, 6-3		
36		一藤木 良平		瀧河原ラケットクラブ	6-3, 6-4	宮崎 雅俊		
37		WANG, Yi Lun		中国	星野 武蔵	6-3, 7-5		
38	1439	星野 武蔵		法政大学	6-3, 6-4	星野 武蔵		
39		廣田 耕作		早稲田大学	渡辺 輝史	6-4, 6-2		
40	1191	渡辺 遷史		荏原SSC	3-6, 6-2, 7-5			
41	1080	松尾 友貴		ライフ・エヌ・ピー	松尾 友貴			
42	1527	HSIEH, Cheng-Peng		台湾	6-3, 6-7 (3), 6-4	松尾 友貴		
43		BARCLAY, David		オーストラリア	B, David	6-2, 6-2		
44		ロング正幸		立川ジュニアアカデミー	6-3, 7-6 (2)	畠中 将人		
45	1527	菊池 玄吾		ブリジストンテニスハウス	Z, Yao-Zhong	7-6 (3) , 6-4		
46		ZANG, Yao-Zhong		中国	4-6, 6-3, 6-2	畠中 将人		
47		西尾 一馬		法政大学	6-4, 6-2			
48	1168	畠中 将人		ライフ・エヌ・ピー	6-2, 6-1			
49	1112	LEE, Jea Moon		韓国	B. Thomas			
50		LE BOULCH, Thomas		フランス	6-2, 6-3	B. Thomas		
51	w c	中島 啓		早稲田大学	Li, Da-Wai	6-4, 6-2		
52		L I, Da - W a i		中国	6-1, 6-4	B.Thomas		
53		赤羽 毅朗		FORZA	赤羽 毅朗	7-5, 6-1		
54		喜多 元明		Fテニス	6-4, 7-6 (2)	遠藤 豪		
55	1527	遠藤 豪		早稲田大学	遠藤 豪	6-0, 6-0		
56	1308	宮崎 靖雄		フリー	6-1, 6-3			
57	1135	奥 大賢		日本大学	奥 大賢			
58		小山 麗大		遊ボートTC	6-2, 5-7, 6-2	奥 大賢		
59	w c	高山 和也		亞細亞大学	塙田 裕司	6-2, 6-4		
60	w c	塙田 裕司		慶應義塾大学	6-2, 6-3	奥 大賢		
61	1439	磯辺 孝太郎		アートスポーツ	磯辺 孝太郎	6-4, 6-1		
62		我孫子 カイキ		ブラジル	6-3, 7-6(6)	岸 優太		
63	w c	岸 優太		J I T C	岸 優太	4-6, 6-3, 6-2		
64	1224	伊藤 潤		早稲田大学	3-6, 6-3, 6-2			

www.itftennis.com/mens

0

Acc. ranking	# Seeded players	# Seeded players	# Alternates	Replacing	Draw date/time:	11 MAR 2011
Rkg Date	1 OUYANG, Bowen	9 畠中 将人	1		Last Accepted player	
Top DA	2 松永浩氣	10 渡辺 遷史	2		西尾 一馬	
Last DA	3 WANG, Chuhan	11 伊藤 潤	3		Player representatives	
Seed ranking	4 NUGENT, Terence	12 喜多 文明	4		矢野 洋	
Rkg Date	5 NAM, Ji Sung	13 井上 悠牙	5		林 倫正	
Top seed	6 松尾 友貴	14 宮崎 靖雄	6		Signature	
Last seed	7 LEE, Jea Moon	15 藤井 信太	7	# Protected Ranking: Name (Line)	Gary Au-Yeung	
	8 奥 大賢	16 福田 勝志	8		0	

2012亞細亞大學國際女子オープンテニス 女子シングルス予選 SINGLES

Women's Open Tennis 2012

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee		
2011/3/23	Nishi-Tama Tokyo, Japan			\$10000		Gary Au-Yeung		
St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Finals	Qualifiers
1	681	1	二宮 真琴	西宮甲英高等学院	二宮 真琴			
2			坂東 未来	園田学園女子大学	6-1,6-2	二宮 真琴		
3			小関 みちか	山梨学院大学	小関 みちか	7-6(1),6-2		
4	WC		小松 莉奈	SOL Tennis College	6-0,5-7,6-1			二宮 真琴
5			鈴木 玲子	湘南平テニスクラブ	松本 千広			
6			松本 千広	亞細亞大学	6-0,6-0	松本 千広	6-1,6-1	
7	VVC		山下 ちなみ	青山学院大学	古賀 愛	Def.		
8	1002	11	古賀 愛	トップラン	6-3,6-0			
9	705	2	森 友香	島津製作所	森 友香			
10			横田 那津美	Team YUKA	6-3,6-1	森 友香		
11	WC		安野 聰美	山村学園高校	諸方 葉台子	6-0,6-1		
12			諸方 葉台子	グラスコート佐賀テニスクラブ	川崎 光美			森 友香
13			川崎 光美	テニスユニバース	川崎 光美			5-7,6-4,6-0
14	WC		山浦 はる香	山村学園高校	6-2,6-1			
15			ファン・ファイ・ション	台湾	ユエ・ヤン	6-3,6-1		
16	1025	12	ユエ・ヤン	中国	7-5,6-3			
17	734	3	樋口 由佳	横浜テニスカレッジ	樋口 由佳			
18			田村 実里	山梨学院大学	6-1,6-0	樋口 由佳		
19			伊藤 千奈津	とつかTC	岡田 優里	6-1,6-3		
20			岡田 優里	山梨学院大学	6-2,7-6(4)			大西 香
21	WC		本多 彩乃	青森大学	山口 司紗		7-5,6-1	
22			山口 司紗	カラバッシュテニスクラブ	7-5,6-1	大西 香		
23			松島 美智留	園田学園女子大学	大西 香	6-1,6-0		
24	1056	14	大西 香	ノアインダーステージ	6-3,6-2			
25	767	4	井上 明里	岐阜県体育協会	井上 明里			
26			大麻 智尋	Y-ATT	6-0,6-2	井上 明里		
27			リウ・チ・ファン	台湾	小和瀬 望帆	7-6(3),7-5		
28			小和瀬 望帆	TTC	6-1,6-4			井上 明里
29			新谷 百合子	サリュートテニス専門学院	山崎 千鶴		6-0,6-7(6),2-1Ret	
30			山崎 千鶴	テニスプロジェクト	布目 千尋			
31	VVC		降旗 有沙	青山学院大学	布目 千尋	6-1,6-0		
32	912	9	布目 千尋	北日本物産	6-0,7-6(4)			
33	779	5	辻 佳奈美	日清紡ホールディングス	辻 佳奈美			
34			久松 志保	フリー	6-2,6-2	辻 佳奈美		
35			野井 夕夏子	トップラン	野井 夕夏子	6-3,6-4		
36			長谷川 茜美	早稲田大学	6-3,6-4			
37			水沼 茉子	法政大学	水沼 茉子		6-3,6-2	
38	VVC		藤岡 莉子	慶應義塾大学	6-1,6-0	北崎 悅子		
39			島田 雪乃	亞細亞大学	北崎 悅子	6-3,6-0		
40	1050	13	北崎 悅子	フリー	6-0,6-0			
41	843	6	シェ・シュウ・イエン	台湾	シェ・シュウ・イエン			
42			宇田川 彰	慶應義塾大学	6-4,7-5	シェ・シュウ・イエン		
43			内藤 啓子	武藏野テニスシティ	カイ・シ・ウェイ	6-4,6-1		
44			カイ・シ・ウェイ	中国	6-3,6-2			ボーヤン・ウォン
45			餌取 世麗	ピッグK	チエン・イエン・リヤン		6-4,2-6,6-2	
46			チエン・イエン・リヤン	台湾	6-3,6-1	ボーヤン・ウォン		
47			宇佐川 沙耶	亞細亞大学	ボーヤン・ウォン	6-3,6-3		
48	1076	15	ボーヤン・ウォン	中国	6-0,6-0			
49	865	7	リー・ヤ・シャヤン	台湾	キャンドレー・クリスティーネ			
50			キャンドレー・クリスティーネ	オーストリア	6-3,6-1	キャンドレー・クリスティーネ		
51			藤岡 希	TTC	太田 紗苗	6-4,6-4		
52			太田 紗苗	フリー	6-3,6-1			
53			宮原 未穂希	佐賀グリーンテニスクラブ	上吉原 あい			
54			上吉原 あい	アウリントC	6-1,6-3	上吉原 あい		
55			名久井 聖良	志津テニスクラブ	高畠 寿弥	4-1Ret.		
56	950	10	高畠 寿弥	橋本総業	6-2,6-0			
57	895	8	加藤 茉弥	マサスポーツシステム	加藤 茉弥			
58	1209		チョイ・ジ・ヒイ	韓国	5-7,6-2,6-2	加藤 茉弥		
59	1218		リュ・ファンゾウ	中国	6-0,5-7,6-2			
60			荒木 史織	亞細亞大学	6-3,6-1			
61			松田 望実	山梨学院大学	入江 真子			
62			入江 真子	PITA	7-6(3),6-1	川崎 好美	7-6(2),2-6,6-4	
63			川崎 好美	園田学園女子大学	川崎 好美	6-2,6-4		
64	1083	16	菅野 知子	島津製作所	6-2,6-2			www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Seeded players	#	Alternates	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date								2012/3/23 18:26
Top DA	1	二宮 真琴	9	布目 千尋	1			Last Accepted player
Last DA	2	森 友香	10	高畠 寿弥	2			小和瀬 望帆
Seed ranking	3	樋口 由佳	11	古賀 愛	3			Player representatives
Rkg Date	4	井上 明里	12	ユエ・ヤン	4			宇佐川沙耶
Top seed	5	辻 佳奈美	13	北崎 悅子	5			伊藤優花
Last seed	6	シェ・シュウ・イエン	14	大西 香	6			Signature
	7	リー・ヤ・シャヤン	15	ボーヤン・ウォン				
	8	加藤 茉弥	16	菅野 知子				

女子予選ダブルス記録

ITF Women's Circuit		0	WS-DOUBLES MAIN DRAW		ITF Supervisor/Referee	
Week of	City, Country	Prize Money US\$	Team ID			
3/26/12	日本 東京・西多摩	10000	W-C10-JPN-03A-2012	エルダ 松野		
St.	Hank	Seed				
1	1885		入江 真子 加藤 茉弥	PATC マサスポーツシステム	入江 真子 加藤 茉弥	
2	A 2496		カイ・シ・ウェイ 太田 紗苗	中国 フリーア	6-3,6-4	
3	2144		北崎 悅子 菅野 知子	フリー 島津製作所	北崎 悅子 菅野 知子	
4	WC		山浦 はる香 火野 琴絵	香川学園女子大学 香川学園女子大学	6-2,7-5	

Protected Ranking: Name (Line)

1 2

0

ITF Supervisor/Referee
ガリー・アン・ヤン/川延尚弘

2012亞細亞大学国際オープンテニス 男子シングルス本戦

SINGLES MAIN DRAW			
Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tourn. ID
2012/3/19	日本, 東京-西多摩	10000	M-FU-JPN-01A-2012
St.	Rank	Seed Family Name	First name Nationality
1	423	1 内山 靖崇	北日本物産 内山 靖崇
2	878	ガオ・ワン	中国 6-1,6-1 内山 靖崇
3	WC	高橋 良平	亞細亞大学 ウォン・チュハン
4	733	ウォン・チュハン	中国 6-2,6-3 内山 靖崇
5	875	パトロンボン・ジェソン	フィリピン 菊池 玄吾
6	Q 1367	菊池 玄吾	ブリヂストンテニスハウス 6-1,RET 内山 靖崇
7	811	佐藤 文平	橋本総業 仁木 拓人
8	553	7 仁木 拓人	エキスパートパワーシズオカ 6-7(3),6-4,4-0RET 内山 靖崇
9	516	4 竹内 研人	北日本物産 ハン・リヤン・チ
10	578	ハン・リヤン・チ	台湾 6-2,6-2 ハン・リヤン・チ
11	927	片山 翔	早稲田大学 片山 翔
12	760	ウォン・チュエウ・フ	台湾 3-6,6-4,6-4 ハン・リヤン・チ
13	Q 1506	笹井 正樹	法政大学 笹井 正樹
14	Q 1715	遠藤 豪	早稲田大学 笹井 正樹
15	830	オウヤン・ボウェン	中国 ワチラマノウォング・キチポン 6-2,7-5 内山 靖崇
16	547	6 ワチラマノウォング・キチポン	タイ 6-4,6-3
17	571	8 ジュン・ウォンサン	韓国 ジュン・ウォンサン
18	872	イー・チュハン	台湾 6-4,6-4 田川 翔太
19	753	関口 周一	三菱電機 田川 翔太
20	Q 1022	田川 翔太	早稲田大学 田川 翔太
21	Q 1154	綿貫 裕介	ライフ・エヌ・ピー 綿貫 裕介
22	942	井藤 祐一	ライフ・エヌ・ピー 小澤 新
23	902	レナード・ルーカス	スウェーデン 小澤 新
24	513	3 小澤 新	北日本物産 小澤 新
25	546	5 江原 弘泰	日清紡ホールディングス 江原 弘泰
26	Q 1357	渡辺 輝史	専修大学 江原 弘泰
27	WC	林 倫正	亞細亞大学 林 倫正
28	WC	高山 和也	亞細亞大学 林 倫正
29	Q	志賀 正人	慶應義塾大学 志賀 正人
30	WC	白井 卓也	亞細亞大学 志賀 正人
31	Q 1606	齊藤 秀	桂原SSC 近藤 大生
32	502	2 近藤 大生	アイシン精機 近藤 大生

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	# Seeded players	# Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date	1 内山 靖崇	1		2012/3/18 16:00
Top Acc	2 近藤 大生	2		Last Direct Acceptance
Cut-off	3 小澤 新	3		井藤 祐一
Seed ranking	4 竹内 研人	4		Player representatives
Rkg Date	5 江原 弘泰	5		シェン・ヤン・ペン
Top seed	6 ワチラマノウォング・キチポン	6		チュン・フ・ウォン
Last seed	7 仁木 拓人		# Protected Ranking: Name (Line)	Signature
	8 ジュン・ウォンサン		1	ガリー・アン・ヤン

ご協賛いただきました皆様

以下に掲載いたしました企業、団体、個人の方々からご協賛を頂きました。皆様のご厚意に大変感謝しております。ありがとうございました。※敬称略させていただきました。

ブリヂストンスポーツセールスマジャパン株式会社 品川区南大井6-22-7 大森ベルポートE館	株式会社NIPPO 中央区京橋1-19-11	グローブライド株式会社 東久留米市前沢3-14-16	橋本総業株式会社 中央区日本橋小伝馬町9-9	東急グループ 渋谷区南平台町5-6
株式会社大都 大阪市港区海岸通2-1-11	三洋紙業株式会社 足立区西伊興3-15-25	ヨネックス株式会社 文京区湯島3-23-13	株式会社ベースボール・マガジン社 千代田区三崎町3-10-10	やまとコミュニケーションズ 福岡県福岡市東区松島五丁目27番5号
株式会社テニスユニバース 府中市押立町2-15-18	東急建設株式会社 渋谷区渋谷1-16-14	株式会社紀伊國屋書店 目黒区下目黒3-7-10	オーソイ株式会社 磯村 齊 豊島区東池袋2丁目56-7	ダイドードリンコ株式会社 大阪市北区中之島二丁目2番7号
株式会社ゴールドワイン 渋谷区松涛 2-20-6	株式会社コナミスポーツ＆ライフ 品川区東品川4丁目10番1号	有限会社エフ・テニスプランニング 埼玉県上尾市堤崎337-1	武蔵野ドームテニススクール 杉並区高井戸西2-14-32	
有限会社藤野企画 立川市泉町935-1	日本テニス学会 杉並区永福1-9-1	東亜ストリング株式会社 兵庫県神戸市中央区八雲通3-1-24	INOテニス俱楽部 山梨県八代郡石和町上平井363-1	テニスファクトリー 渋谷区渋谷2-4-7



2012亞細亞大学国際オープンテニス 男子ダブルス本戦

DOUBLES MAIN DRAW

Week of	City, Country	Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee				
2012/3/16	日本, 東京-西多摩	10000	M-FU-JPN-01A-2012	ガリー・アン・ヤン/川口				
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1	409	1	近藤 大生 イエ・チュハン	アイシン精機 台湾	近藤 大生 イエ・チュハン	6-2,6-3	近藤 大生 イエ・チュハン	近藤 大生 イエ・チュハン
2	1175		仁木 拓人 小澤 新	キスパートパワーシズオカ 北日本物産	ペン・シェンイエン 佐藤 文平	4-6,7-6(14),10-4	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン
3	WC		仲村 元希 高橋 良平	大阪産業大学附属高校 亞細亞大学	6-1,6-2	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン
4	1308		ペン・シェンイエン 佐藤 文平	台湾 橋本総業	7-6(3),6-7(10),10-7	7-6(7),4-6,10-2	7-6(3),7-5	近藤 大生 イエ・チュハン
5	1006	3	井藤 祐一 ワチラマノウォング・キチボン	ライフ・エヌ・ピー タイ	6-4,6-2	6-3,7-5(5)	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン
6	WC		林 倫正 矢野 洋	亞細亞大学	6-3,6-1	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン
7			菊池 玄吾 松尾 友貴	ブリジストンテニスハウス ライフ・エヌ・ピー	6-3,6-1	6-3,6-4	ガオ・ベン ガオ・ワン	ガオ・ベン ガオ・ワン
8	2838		パトロンボン・ジェソン レイエス・マーク	フィリピン イタリア	6-2,6-3	6-3,7-5(5)	6-3,6-4	6-3,6-4
9	WC		小堺 遼馬 田中 宏幸	亞細亞大学	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
10	1606		関口 周一 内山 靖崇	三菱電機 北日本物産	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
11			喜多 元明 レナード・ルーカス	上尾テニスクラブ スウェーデン	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
12	1097	4	ハン・リヤンチ オウヤン・ボウェン	台湾 中国	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
13			江原 弘泰 近藤 大基	日清紡ホールディングス 相模原グリーンTC	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
14			ジュン・ウォンサン オウ・セオンゴウ	韓国	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
15			遠藤 豪 田川 翔太	早稲田大学	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4
16	799	2	ガオ・ベン ガオ・ワン	中国	6-3,6-1	6-3,6-4	6-3,6-4	6-3,6-4

www.itftennis.com/mens

Acc. ranking	# Seeded teams	# Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:
Rkg Date				2012/3/12/12:43
Top DA				Last Accepted team
Last DA				遠藤 豪/田川 翔太
Seed ranking				Player representatives
Rkg Date				シェン・ヤン・ペン チュン・フ・ウォン
Top seed				Signature
Last seed				ガリー・アン・ヤン/
		# Protected Ranking: Name (Line)		
		1	2	

Café Silkhant あきる野市秋川1-13-6	鹿児島海陸運送株式会社 鹿児島県鹿児島市住吉町13-1	株式会社クリヤマスポーツプロモーションズ 目黒区自由が丘3-17-1ブティヒルビル2階	株式会社東京サマーランド あきる野市上代継白岩600番地	花輪 西多摩郡日の出町平井1453-5
NP0テニスネットワーク 三鷹市北野4-1-25	丸徳不動産 あきる野市引田225番地	サンデザイン工芸 宇都宮市下桑島町618	有限会社ケア・ステーション 品川区大井1-45-4	ブリヂストンテニスハウス八王子 八王子市犬目町1092-1アイビーテニスクラブ内
あきる野不動産株式会社 あきる野市秋川3丁目6-1	東京都柔道接骨師会西多摩支部 青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町・檜原村	盛龍飯店 あきる野市秋川14-12-5	全日本学生テニス連盟 千代田区岩本町1-4-4 神田第四パークビル5F	
コートピア大泉テニスクラブ 練馬区大泉学園町2-20-17	富山県高体連テニス専門部 富山県富山市芝園3-1-26	東海大学菅生高等学校 あきる野市菅生1817	関東大学テニス部長監督会 千代田区岩本町1-4-4 神田第4パークビル5F	
名古屋高等学校 名古屋市東区砂田橋二丁目1-58	ハヤト商事株式会社 武藏野市境5-24-10亞細亞大学内	セブンイレブン阿伎留医療センター前 西多摩郡日の出町大字平井605		

2012亞細亞大學國際女子オープンテニス
女子シングルス本戦



ITF Supervisor/Referee

ITF Women's Circuit				0	WS-SINGLES MAIN DRAW			
Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID			
3/26/12	日本, 東京-西多摩			10000	W-C10-JPN-03A-2012			エルダ 松野
St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals
1	407		飯島 久美子		北日本物産		飯島 久美子	
2	684		牟田口 恵美		TEAM自由が丘	6-2,6-1	飯島 久美子	
3	WC		山本 翔子		亞細亞大学		鮎川 真奈	6-3,6-3
4	685		鮎川 真奈		ロイヤルSCテニスクラブ	4-6,6-4,6-3		
5	LL	843	シェ・シュウ・イエン		台湾		シェ・シュウ・イエン	6-0,6-7(4),6-4
6	Q	779	辻 佳奈美		日清紡ホールディングス	3-6,6-2,6-3	桑田 寛子	
7	SE	892	桑田 寛子		早稲田大学		桑田 寛子	3-6,7-6(3),6-3
8	567		越野 由梨奈		北日本物産	6-4,6-3		
9	464		ティン・フェイ・ジャン		台湾		飯島 久美子	6-2,6-3
10	Q		クリスティーネ・キャンドラー		オーストリア	6-3,6-1		
11	595		小沢 模穂		フリー		小沢 模穂	6-0,6-1
12	Q	705	森 友香		島津製作所	7-6(4),6-3		山外涼月
13	Q	1056	大西 香		ノア・インドアステージ		二宮 真琴	4-6,6-2,7-5
14	Q	681	二宮 真琴		西宮甲英高等学院	7-5,6-2	山外 涼月	
15	580		宮村 美紀		ミヤムラテニスセンター		山外 涼月	7-5,7-5
16	527		山外 涼月		志津テニスクラブ	4-6,6-2,6-3		
17	548		手塚 玲美		ミキハウス		井上 明里	
18	Q	767	井上 明里		岐阜県体育協会	7-5,6-2	ボーヤン・ウォン	6-2,4-6,6-2
19	Q	1076	ボーヤン・ウォン		中国		ボーヤン・ウォン	
20	WC		長谷川 梨紗		亞細亞大学	7-6(1),6-4		ボーヤン・ウォン
21	WC		伊藤 優花		亞細亞大学		伊波 佳苗	4-6,6-3,7-6(6)
22	WC		伊波 佳苗		亞細亞大学	6-0,6-3	伊波 佳苗	
23	694		中野 佑美		ブライドテニスセンター		中野 佑美	6-4,6-2
24	459		岡 あゆみ		イラコテニスカレッジ	6-7(3),6-3,6-4		
25	566		井上 雅		テニスラウンジ		井上 雅	
26	Q	895	加藤 茉弥		マサスポーツシステム	6-2,6-3	井上 雅	
27	668		伊藤 和沙		島津製作所		井上 雅	6-2,6-3
28	696		ズィー・ヤング		中国	7-5,2-6,7-5		米村 明子
29	SE	809	穂積 紘莉		フリー		ソ・ラ・リー	6-4,6-2
30	687		ソ・ラ・リー		韓国	6-4,6-3	米村 明子	
31	596		宮崎 優実		ASIA PARTNERSHIP FUND		米村 明子	6-2,6-4
32	420		米村 明子		島津製作所	3-6,6-0,6-2		

www.itftennis.com/mens

0

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	26 MAR 2012 13:11
Rkg Date	0	1 飯島 久美子	1			Last Direct Acceptance	
Top Acc		2 米村 明子	2			ジ・ヤン	
Cut-off		3 岡 あゆみ	3			Player representatives	
Seed ranking		4 ティン・フェイ・ジャン	4			宇佐川 沙耶	
Rkg Date	0	5 山外 涼月	5			伊波 佳苗	
Top seed		6 手塚 玲美	6			Signature	
Last seed		7 井上 雅		# Protected Ranking: Name (Line)		エルダ 松野	
		8 越野 由梨奈		1	2	0	

2012亞細亞大学国際女子オープンテニス 女子ダブルス本戦

ITF Women's Circuit				0	DOUBLES MAIN DRAW				ITF Supervisor/Referee	
Week of		City, Country			Prize Money US\$	Tour ID			Elda Matsuno	
3/27/12		日本、東京・西多摩			10000	W-C10-JPN-03A-2012				
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners		
1		564	田中 あゆみ 高畑 寿弥	イラコテニスカレッジ 橋本紹策	田中 あゆみ 高畑 寿弥	北崎 悅子 菅野 知子	w.o.	伊藤 和沙 森 友香	6-1,7-5	
2		1510	桑田 寛子 宮村 美紀	早稲田大学 ミヤムラテニスセンター	6-1,6-7(6),10-6					
3	Q	1885	入江 真子 加藤 菜弥	PITA MSS	北崎 悅子 菅野 知子					
4	Q	2144	北崎 悅子 菅野 知子	フリー 島津製作所	3-6,6-1,10-6					
5		987	シェ・シュウ・ヤン 大西 香	台湾 メイアンドアステージ	シェ・シュウ・ヤン 大西 香	伊藤 和沙 森 友香	6-3,7-5	伊藤 和沙 森 友香	6-4 6-7(1) [10-7]	
6		1758	川崎 好美 中野 佑美	東西学園女子大学 プライトテニスセンター	6-2,6-3					
7		1733	伊藤 和沙 森 友香	島津製作所 島津製作所	伊藤 和沙 森 友香	伊藤 和沙 森 友香	6-3,7-5	伊藤 和沙 森 友香	6-4 6-7(1) [10-7]	
8	WC		伊藤 優花 松本 千広	亞細亞大学 幕張総合高校	6-0,6-4					
9	WC	2240	荒木 史穂 長谷川 梨紗	亞細亞大学 亞細亞大学	荒木 史穂 長谷川 梨紗	荒木 史穂 長谷川 梨紗	w.o.	穂積 紗莉 手塚 球美	6-0,6-4	
10	VVC		伊波 佳苗 山本 翔子	亞細亞大学 亞細亞大学	6-3,1-6,10-6					
11		1631	チョイ・ジ・ヒイ ソ・ラ・リー	韓国 韓国	井上 明里 牟田口 恵美	井上 明里 牟田口 恵美	w.o.	穂積 紗莉 手塚 球美	6-0,4-6,10-4	
12		1053	井上 明里 牟田口 恵美	岐阜県体育協会 TEAM自由が丘	6-2,6-3					
13		1378	井上 雅 宮崎 優美	テニスラウンジ ASIA PARTNERSHIP FUND	井上 雅 宮崎 優美	井上 雅 宮崎 優美		穂積 紗莉 手塚 球美	6-1,6-3	
14		1548	ティン・フェイ・ジャン ジー・ヤン	台湾 中国	6-2,7-6(6)					
15		1526	穂積 紗莉 手塚 球美	フリー ミキハウス	穂積 紗莉 手塚 球美	穂積 紗莉 手塚 球美				
16		845	越野 由梨奈 二宮 真尋	北日本物産 西宮甲子園高等学校	7-6(2),6-4					

www.itftennis.com/mens
0

Acc. ranking	# Seeded teams	# Lucky Losers	Replacing	Draw datetime:
Rkg Date		1		2012/3/27/10:11
Top DA	1 田中 あゆみ 高畑 寿弥			Last Accepted team: 川崎 中野
Last DA	2 越野 由梨奈 二宮 真尋	2		Player representatives: 安野 好美 山浦 はる香
Seed ranking	3 シェ・シュウ・ヤン 大西 香	3		Signature: Elda Matsuno
Rkg Date	4 井上 明里 牟田口 恵美		# Protected Ranking: Name (Line)	0
Top seed		1	2	
Last seed				

ご協賛いただきました皆様

以下に掲載いたしました企業、団体、個人の方々からご協賛をいただきました。皆様のご厚意にたいへん感謝しております。ありがとうございました。※敬称略させていただきました。

矢沢 猛	岸田則子	酒巻昭浩	緑山テニス会	永吉規公子	聖心女子大学テニス部	日の出町長	橋本聖二	塩野谷明	小堺 仁
亞細亞大学学友会		亞細亞学園体育会			東京農業大学		新谷慎太郎		香川喜八郎
内海二郎									

亞細亞大学硬式庭球部OB・OG会 緑衛会テニス俱楽部

林 健作	小西正実	清水雅一	竹内 勉	渡辺誠治	高橋敬一	野沢喜一郎	柴 廣一	宇田川裕	小西拓二	金子国彦	高田大介
梅島義博	石海和典	鈴木 潤	白子嘉威	鈴木宏幸	大田佑也	宮下慎一郎	井上朋子	赤堀奈緒	坪井津美	大島正克	緑衛会



第1回「亞細亞大学国際オープンテニス2007」

国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亞細亞大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会『F1亞細亞大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。

準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月
大会まであと6ヵ月

フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月
大会まであと5ヵ月

開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみろ」との指示が。学生たちは「え?本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

川廷さんの観察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが観察に訪れる。亞細亞大的施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。

準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんでき、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできる。



2006年11月
大会まであと4ヵ月

第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年ついている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらい、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうこと。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなつた。

2007年1月
大会まであと2ヵ月

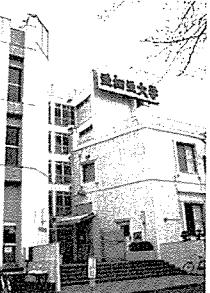
強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月
大会まであと3ヵ月

幹部ミーティングがさかんに

4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していたくまーカーや企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。



亞細亞大的セミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

2007年2月
大会まであと1ヵ月

本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始める。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円。1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことで、かなり資金が集まつた。



部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC/主催者推薦枠)選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。大会やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手、テニスの歴史について勉強する。



2007年3月1日

大会まであと16日

「簡単に大会に出るな。 大会をつくる苦労を知った上で、 大会に出ろ!」(堀内監督)

フューチャーズ開催の意義

部員全員で「フューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦労を知れば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないかな」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営を任せなのか、その理由を皆が理解した。

私たちが考える “フューチャーズの意義”

◎1年生の意見

- ・外国選手との交流
- ・ATPポイントの獲得
- ・プロ選手を見て勉強する
- ・多文化の理解と受け入れ
- ・選手のルーティンを学ぶ
- ・運営することでマネジメントを学ぶ

◎2年生の意見

- ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
- ・国際交流(コミュニケーション)
- ・教養を身につける
- ・国際大会を主観的に見られる
- ・地域振興
- ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
- ・国内の他のスポーツに良い影響を与える

◎3年生の意見

- ・大会ができるまでの過程を知る
- ・大会に対する思いを知る
- ・日本選手の強化
- ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出しができる
- ・亞細亞大学の活性化
- ・日本選手の強化
- ・学生テニスのレベルアップ
- ・学生の学習の場の提供
- ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やすなければならない
- ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
- ・各企業、メーカーの宣伝
- ・亞細亞大学テニス部と世界のつながりをつくる
- ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役職や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチーフを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

- ◎幹部
ディレクター◎堀内昌一監督
アシスタントディレクター◎森穎詞コーチ、小野塚弓乃
スーパーバイザー◎川庭尚弘(国際テニス連盟)
事務局◎宇田川裕(テニス部副部長)、金子国彦(亞細亞大職員)

3月4日

大会まであと13日

パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急速作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まつたので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやポスターもつくり始める。

3月7日

大会まであと10日

部内WC選手権開催

2月上旬に行なうはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名以上のブロックへ移動、というのを繰り返し、最終的に本戦ワイルドカード4名(大塚、富田、篠川、井上)、予選ワイルドカード3名(古城、牛田、風早)を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品を運び出し、施設の設営準備が進む。

◎運営係

全体への指示

◎賞金係

選手、スタッフへのギャラントリの計算と管理。大会サポーターからの寄付金受け取り

◎会場・施設係

プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアルームの設営、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



選手に戦いやすい環境を提供する係

◎洗濯係

ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)

◎インフォメーション係

会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し



今後の検証材料として、選手のデータを集める係

◎アンケート係

選手へのアンケート調査(アンケート用紙を作製し、選手の実態を調査)

◎ビデオ係

本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)

◎スコアシート係

全試合のスコア記入(ワインブルドの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)

◎体力測定係

プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



◎マニュアルづくり係

来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

◎Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売

「亞細亞大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修恵さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



◎レフェリー係

ワイルドカード選手権の運営

◎チーフアンバサダ係

ボーラー、ラインズマンの配置、チェック、指導

◎物品係

マイク、パイプ椅子、メーカーのバナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成



◎通訳係

外国人選手の対応、表彰式でのスピーチ通訳

◎写真係

ブログ用、記録用写真の撮影

◎電話番係

選手、関係者からの電話対応



PART 4 国際大会報告

3月12日 |
大会まであと5日

泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、表紙に予想以上の時間がかかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作成(パンフは大会期間中に何度も足りなくなってしまった)。このあたりが焦りのピークだった。

3月13日 |
大会まであと4日

学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。

3月14日 |
大会まであと3日

記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし。記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。



3月15日 |
大会まであと2日

初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まつた新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。



初めての記者発表に緊張気味の監督

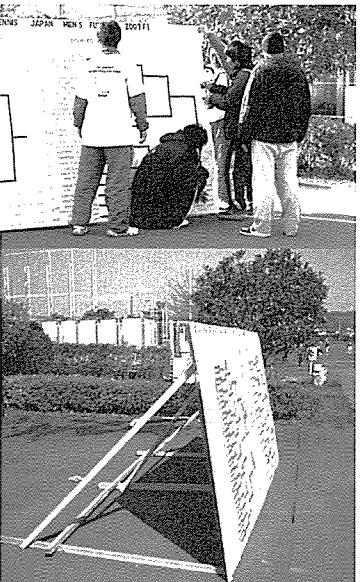
一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日 |
予選2日目

ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日 |
予選1日目

予選開始!

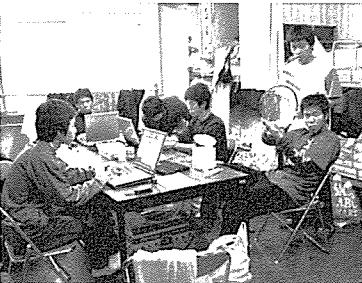
役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいということで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにいく。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めることに。

SUN, Peng [1]	孙 聰
OKI, Ryo	大木 翼
FURUTA, Takeshi	古田 勝
CHANG, Kai-Lung	江 廉
DOERNER, Scott	トマス・スコット
TOYOTA, Selya	豊田聖矢
KOGA, Kuniaki	小賀 公仁
SIMPSON, Matthew [13]	マ修・シンプソン
GONG, Mao-Xin [2]	公 宏
LIN, Tzu-Yang	林子揚
KOJWA, Tatsui	小川辰
ASAKURA, Makoto	朝倉 雅

3月16日 |
大会まであと1日

宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン＆プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日 |
本戦2日目

本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコート予約の電話がかかってきたたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習

3月20日 |
本戦2日目

杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた

デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう

ドローボードに本戦選手の顔写真を貼ろうというアイデアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

1日のスケジュール

06:30	起床
07:00	朝食 (食べ終わったら各自コートへ)
07:30	コート集合
08:30	掃除、準備
09:00	選手が来始める、サインアップ
10:00	プラクティス
	試合開始 (各係が就く。時間があつたら試合観戦。運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習…)
18:30	試合終了後、片付け
19:00	夕食→入浴
21:00	ミーティング (係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらしいんじゃないかと思うことを毎日話し合う)。
	ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日
本戦3日目

祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらう。次週の早稻田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデビューチャンピオンが練習しに来るので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶圓鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日
本戦4日目



折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。

3月23日
本戦5日目

強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に突入。風が強く、本部の資料が飛んでしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。

杉田選手にサインをもらう



OGである岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



3月24日
本戦6日目

ダブルス表彰式で感激

ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思いませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考える。『やりっぱなし』で終わるな」と喝を入れられる。川延さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックが入る。



サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いきや…「これまでついてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント! 体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日
本戦最終日

初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルも使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手



感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつくり選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っこ張り出し、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイティングで一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやってくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



「世界の壁は厚い。
でもそれを破っていくことが大事だ。
そのエネルギーを感じたんだから、
やるしかないだろう」(堀内監督)

大会を終えて



**ディレクター○堀内昌一監督
「通過させる大会にしていきたい」**

皆でやり遂げようという不思議な力が働きましたね。ひとりひとりは未熟ですが、それが一つになって大きな力を發揮した。その点は本当に満足しています。

大会の意義として、第一に若手の育成があります。そのための機会——戦う機会、見る機会、学習する機会を学生に与えることができました。世界って何だ、テニスって何だ、僕らがやっていることは何だ、と疑問に思い、気づききっかけづくりにはなったと思います。

ただ、大会を立ち上げたことで海外にいかないきっかけをつくったこともまた、事実です。だから、今回戦った選手は来年、戻ってきてほしいです。ステップアップの場として、通過してほしいんです。ここで戦った選手が、グランドスラムに出ていたときが、大会の成功と言えると思います。

そして、今回サインしたのに残念ながら出られなかった選手のためにも、続けていかなければ、と思いました。こういう機会をいつまでも提供していきたい、いつまでもね。そして、僕らができたんだから、ほかの大学にもきっとできる。これからは大学が主となり、学生が世界を目指せる環境を整えていかなければ、と強く思います。最後に、応援してくれたすべての関係者に感謝します。



**アシスタントディレクター○森 稔詞コーチ
『機会をつくる』が実践できた**

正直、かなりたいへんでした。でも、本当にやってよかった。『機会をつくる』というのが大会のテーマだったのですが、いろいろな意味で、学生にも選手にも機会を与えることができたと思います。学生はいっぱいいっぱいになりましたが、最後までやりきました。

途中から、ひとりひとりの力がぶわーっと出てくるのを感じたんです。この力はすごかった。指示したのは僕らですが、それを膨らませて、実際にやったのは彼らです。今回、運営の全体像が僕ら指導者も学生もわかったので、これを来年につなげていかなければと思います。

『亞細亞大学国際オープン』(男子フューチャーズ)過去の主な結果

第1回大会(2007年)

- ◎シングルス
優勝 イム・キューテ(中国)
準優勝 茶圓鉄也(ミキブルーン)
ベスト4 サン・シャオユアン(中国)

ペノー・ボッテロ(フランス)

- ◎ダブルス
優勝 ユ・シュアン／サン・シャオユアン(中国)
準優勝 佐藤博康／リー・ミン(フリー／アメリカ)
ベスト4 ウォン・ハング・ティー／ナン・ヒュン・ウ(韓国)
イム・キューテ／ウォン・ホーティ(韓国)

第2回(2008年)

- ◎シングルス
優勝 伊藤竜馬(三和ホームサービス)
準優勝 チェン・ティー(台湾)
ベスト4 岩見 哲(北日本物産)
近藤大生(アイシン精機)
◎ダブルス



第4回(2010年)

- ◎シングルス
優勝 井藤祐一(空旅ドットコム)
準優勝 守屋宏紀(北日本物産)
ベスト4 関口周一(ファーストジュニアTA中央林間)
ベスト4 スカット・マークレック(アメリカ)
◎ダブルス
優勝 佐藤文平／イ・チュハン(橋本総業／台湾)
準優勝 岩見亮／近藤大生
(北日本物産／アイシン精機)
ベスト4 井藤祐一／佐藤博康
(空旅ドットコム／フリー)
スター・ハム・マイケル／スカット・マークレック
(台湾／アメリカ)

第5回(2011年)東日本大震災のため中止

第6回(2012年) 64、66、67ページに掲載



**アシスタントディレクター○小野塚弓乃
「充実していたし、すごい達成感だった」**

本当にたいへんなことが多かったです。普段は大会に参加する側の学生が、いちからすべてやったので、どうなるのかまったく想像がつかなかった。何が起こるか予想できない、ということが、一番たいへんでしたね。役割は事前に決めていても、当日になって急にわからないことが出てきたり、その場で対応しなければならないことも多くて。準備はしっかりやってきたけど、実際に試合が始まったり、やることが一気に増えた、という感じでした。

その分、終わったときはすごい達成感でした。毎日充実していました、本当にやってよかった。下級生には、これからも頑張って続けてほしいと思います。



**メディア担当○蒲谷和江
「たいへんよりも楽しかった。またやりたい!」**

とにかく楽しかったです。どうやってフューチャーズを成功させよう、と皆でそれだけを考えた10日間でした。初めは何もわからなくて、でも中盤になってやることが見えてきたら、アイディアもどんどん浮かびました。皆『自分たちでつくり上げよう』という文化祭みたいな雰囲気で、でも、ちゃらちゃらした感じではなく、選手のことを第一に考えていたので、気持ちよくできましたね。

最後は『ここまでやれるんだ』と自分たちでもびっくりでした。たいへんだったけど、またやりたい。次はもっとできると思うんです。他の大学も、やろうと思えば、きっとできると思います。でも、亞細亞だからこそできたことも、絶対あったと思いますよ(笑)



**スーパーバイザー○川廷尚弘
「学生がつくり上げる大会、継続してほしい」**

予想よりもはるかによい大会になりました。初めての試みだったので、いろいろ指導しなければ、と思っていたのですが、全然そんなことはなかった。逆に、僕ら幹部は見ているだけで、全部学生主体で動いていました。アイディアを出し合い、『これはできますか?』と僕にすぐに聞いてくる。そのエネルギーはすごいです。デイリープログラムが出るフューチャーズなんて、僕の知る限り世界のどこにもあるません。『継続は力なり』、ぜひ続けてほしいですね。続けていけば、地元の方もお祭りのようにとらえてくれるようになるでしょう。そうなれば、大会としてもっと成長していくと思います。

思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武蔵野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胴上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亜細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亜細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亜細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーもっとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亜細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選（32ドロー）を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遙かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亜細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ～学生の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている

ない。

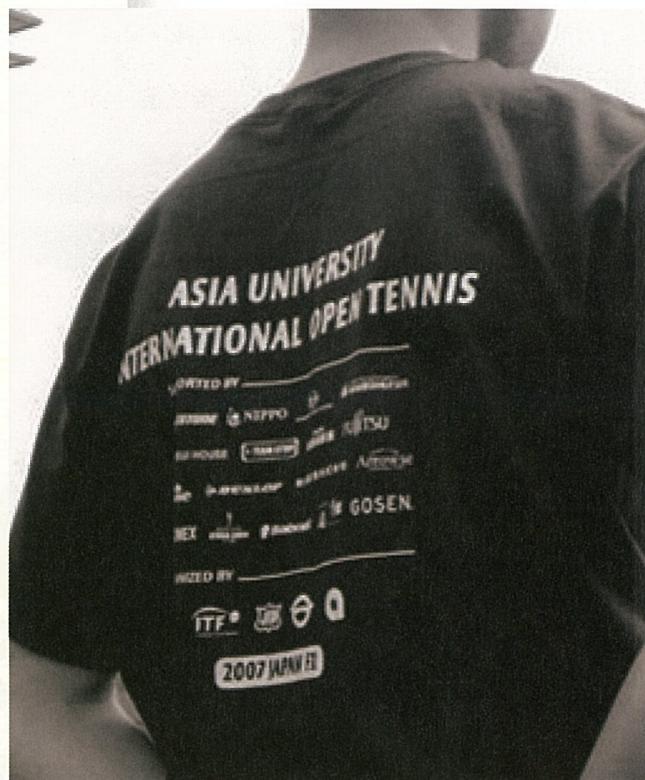
日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーチケットが開かれ、ジャパンオープン（現・楽天オープン）もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつけは近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亜細亜では、ベテラン茶圓鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一（早稲田大・三菱電機）と亜大の新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことは変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亜細亜は日本初、川庭尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎え、大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと斎藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかつた亜細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのこと学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」



世界がやつてきた。 2007年亜細亜大学国際オープンテニス・総括

文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン（2007年6月号）



自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なディリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、デ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケになる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戻敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあつ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亞細亞大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亞細亞の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曾根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつての八ヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出席したボストン郊外の大会を取り材した。夕方になるとバーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別のおもしろい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。

大会中、寝泊りをともにした川廷スーパー・バイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつも交換するなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったです」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言うはたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをともなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だったんだろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出られるとは限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森稔詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

『2007亞細亞大学国際オープンテニス』ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亞細亞大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



亜細亞大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

あなたも
サポーター

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。

よってクリニック参加のみなさまは

大会サポーターであるとともに亜細亞大学テニス部のサポーターでもあります!

“テクニカルシリーズ”開講中!

2008年にスタートした『亜細亞大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック “テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2012年現在までを数えるとおよそ100回ほど開催してまいりました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一緒に

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亞大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていただき、さらには、亜細亞大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森稔詞コーチ、宮崎靖雄コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったていねいな指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亞大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亞大学テニス部ブログ EVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://autennis.livedoor.biz/>

亞細亞大学国際テニス大会チャリティークリニック 参加者を代表して

鎌田健嗣さん



何度も通っても新たな“気づき”があり、テニス部のみなさんと同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっています。

亞細亞大学関係者のみなさま、今回は年間活動報告の中で、テニスクリニック参加者として声を掛けいただき、拙文を披露する場をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

私は、今年6月23日のテニスクリニック（テーマ◎アプローチ&ネット）に参加し、クリニック参加回数は40回目を数えました。思い起こせば、08年の初夏にボレークリニック

に参加したのが最初でした。昨年卒業した益田拓馬くんがまだ1年生のときにボールを出してもらい、湿気のあまりに靴の中が洪水状態になってしまったあの日から足かけ5年、クリニックに参加させていただいていることになります。

私が本クリニックに参加したのは、08年の正月に5年半の北京駐在から帰国し、日本でテニスをやる環境を探していたことがきっかけでした。ご存じのとおり海外ではハードコートばかりで砂入り人工芝コートはほとんどありません。私はハードコートで練習したいと思い、多摩地区のテニススクールを探し、その中でたまたま『フューチャーズ・チャリティクリニック』というものをWEBで見つけたのです。大学のテニスコートで練習できるとの内容にも興味を持ち、参加することになりました。オールラウンドコートと書いてあったのでてっきり人工芝かと思い靴を持っていったらハードコートだったので、うれしく思ったあの日のことをいまでも憶えています。

以来、テニス部のみなさんにいろいろ指導をしていただきましたが、私が思うに、要是「体の動きを理解して、効率的なパフォーマンスを継続してできるようになること」、これに尽きるのかなと思っています。サービスも、やっとこれかな！というものを体得できるようになりました。何度も通っても新たな“気づき”があり、それを堀内監督、森コーチ、そして学生のみなさんと共にしながら同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっているのです（もちろん、それに加えてフューチャーズ開催のサポートであることも…）。

最後に、学生のみなさん、テニスクリニックは社会とのコミュニケーションを勉強する場でもあります。このこともテニスをプレーすること、テニス大会を運営することと同じくらい良い機会ととらえて、日々テニスができる最高の環境を生かしながら4年間を大事に、且つ思いきり過ごしていただきたいと思っています。応援しています。



本多立雄さん



亞細亞大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本のテニスに力強い流れを創り始めた、そう感じています。

「世界の舞台で活躍する選手を育てるには、登竜門のフューチャーズを、日本でもっともっと開催しなければいけない」——堀内監督の熱い思いをお聞きしながらも、日本人がグランドスラム本戦の常連になれるのはいつだろーと、日の出から遠い空を見つめたあの頃を思い出します。

『亞細亞フューチャーズ』は今年で6年目を迎え、『同・国際女子オープン』もスタートしました。第3回大会優勝の伊藤竜馬選手はじめ、添田豪選手など、地道にフューチャ

ーズに挑戦し続けてきた日本人が、今、ATPツアーブラジルにストレートインして上位進出を狙っています。亞細亞大で大会がスタートした06年には、夢の実現は10年先のことだろうと思っていましたが、彼らの雄姿をグランドスラムで当たり前のように見ることができる日々がやってきました。亞細亞大を起点とした大学国際大会シリーズが、日本人選手躍進の大きなきっかけとなったのはまぎれのない事実です。

私たちは、外部サポーターとして、フューチャーズの開催趣旨に賛同するとともに、学生の皆さんが出場するさまざまな試合を応援しています。そして、研究や情報収集を欠かさない、堀内監督や森コーチ、宮崎コーチなどの指導陣と、現役学生のみなさんから、「トッププレイヤーにも一般にもジュニアにも共通する本物のテニス」をご指導いただいている。みなさんから、技術とともに、テニスに対する姿勢を学んでいます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

学生のみなさんが4年間で成長していく姿を見るのも楽しみですが、強く願っているの

は、亞細亞大をはじめとする学生の中から、フューチャーズで活躍する選手、そしてチャレンジャー、ATPツアードで戦う選手が出てくることです。

自分たちのテニスの実力アップ、ジュニアや一般への指導、国際大会の企画・運営、そして学生の本分である勉強・研究。さまざまなことをこなしながら、テニスの未来のため、開かれた大学テニスを実践する亞細亞大。私たちサポーターだけでなく、その姿勢に賛同する人たちが、一年中、全国から日の出に集まるようになりました。きっかけは、フューチャーズでしょう。山梨学院大や筑波大が追随したように、大学主導、さらには学連主導の形でこの大会がさらに増えていくことを願っています。そして、地方大学の選手にも積極的にフューチャーズの予選、予選に参加するように、私自身も含めて、働きかけてかなければいけないと思います。

亞細亞大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本全体のテニスを底上げするための、力強い流れを創り始めた、そう感じています。

2013亞細亞大学国際オープンテニス

F1 Asia University International Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2013年3月9日(土)～11日(月)※	シングルス 64名 (DA56 WC8)
本戦	2013年3月12日(火)～17日(日)※	シングルス 32名 (DA20 QF8 WC4) ダブルス 16組 (DA13 WC3)

※予選サインイン 3月8日(金) 午後6時まで 大会会場にて

賞金ブレークダウン US\$10,000

	SINGLES (\$賞金・ポイント)		DOUBLES (/TEAM) (\$賞金・ポイント)	
WINNER	1300	18	630	18
FINALIST	900	10	330	10
SEMI-FINALIST	480	6	260	6
QUARTER-FINALIST	290	2	180	0
ROUND OF 16	200	1	—	—
ROUND OF 32	117.5	0	—	—

ITF WOMEN'S CIRCUIT

2013亞細亞大学国際女子オープンテニス

Asia University International Women's Open Tennis

大会要項 (予定)

日程

予選	2013年3月23日(土)～25日(月)※	シングルス 64名 (DA56 WC8)
本戦	2013年3月26日(火)～31日(日)※	シングルス 32名 (DA20 QF8 WC4) ダブルス 16組 (DA13 WC3)

※予選サインイン 3月22日(金) 午後6時まで 大会会場にて

賞金ブレークダウン US\$10,000

	SINGLES (\$賞金・ポイント)		DOUBLES (/TEAM) (\$賞金・ポイント)	
WINNER	1300	12	630	12
FINALIST	900	8	330	8
SEMI-FINALIST	480	6	260	6
QUARTER-FINALIST	290	4	180	1
ROUND OF 16	200	1	—	—
ROUND OF 32	117.5	0	—	—

ホテル	●東横イン福生駅前東口 〒197-0021 東京都福生市東町4-1 TEL042-553-1045
試合方法	●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)
参加料	●予選 US40 または4000円
会場	●亞細亞大学日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面) 〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-597-7205 FAX042-597-7205

詳細は…

- 国際テニス連盟 (ITF) <http://www.itftennis.com/procircuit/>
- 日本テニス協会 (JTA) <http://www.jta-tennis.or.jp/>
- 亞細亞大学テニス部公式サイト <http://www2.asia-u.ac.jp/~autennis/>
- ブログ <http://autennis.livedoor.biz/>

※2012年7月末現在の予定。大会開催時期は申請中です。